

科目区分	日本語日本文学専攻専門教育科目						
科目名	アナウンスメントの基礎／アナウンスメントの基礎A						
担当教員	永岡 俊哉					科目ナンバ-	J7209A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	将来、アナウンサーやリポーターなどマイクの前で仕事をしたい人やキャビンアテンダントなど人前で話す仕事をしたい人が、アナウンスメント能力の基礎を習得する。						
授業の概要	正しい呼吸で発声することを確実に身につけることを第一目標に繰り返ししゃべる。音→単語→文節→文→文章と、少しずつ長いアナウンスができるようにする。講座の最終目標は、簡単なニュースや天気予報などが読めるようになることである。アナウンサー志望者のみならず、CAや営業職など人前でしゃべる仕事をを目指す学生に、楽しく学んでもらいたい。						
到達目標	人前でしっかり声を出してアナウンスする。(恥ずかしさなどの抵抗感を排除できるようになる。) 正しい呼吸、発声、発音、滑舌、共通語について理解し、その知識を身につける。【知識・理解】 正しい呼吸、発声、発音、滑舌で共通語のアナウンスができ、さらに自己紹介や短いプレゼンテーションができるようになる。【汎用的技能】						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：各自の自己紹介 各自の目標設定</p> <p>第2回 レベルチェック：呼吸、発声、発音、アクセント、読みの力を確認し、個々の目標を設定</p> <p>第3回 呼吸練習：腹式呼吸のやり方を習得</p> <p>第4回 発声練習：発声の仕組み、正しい母音の発声</p> <p>第5回 発声練習：発声の仕組み、正しい子音の発声（母音の復習も行う）</p> <p>第6回 発声練習：鼻濁音、無声音</p> <p>第7回 発声練習：滑舌練習、アクセント</p> <p>第8回 発声練習：鼻濁音、無声音、滑舌練習、アクセントの総まとめ</p> <p>第9回 中間チェック：これまでの授業内容がどの程度身につけているかをチェックする</p> <p>第10回 文章を読む：単語や文節からレベルアップして、文章を読む</p> <p>第11回 ニュースと天気予報、CMを読む「事故のニュース、火事のニュース」</p> <p>第12回 ニュースと天気予報、CMを読む「簡単な天気変化の仕組みと天気予報文」</p> <p>第13回 ニュースと天気予報、CMを読む「スポーツニュース、政治ニュース」</p> <p>第14回 ニュースと天気予報、CMを読む「コマーシャル」「提供読み」</p> <p>第15回 「ニュース、天気予報」等のカメラ収録の実践、実技試験</p> <p>(受講者の数やレベル、進み具合によって内容が少し変わったり、前後することがある。)</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	アナウンスの練習は週1回の授業では全く足りないので、毎日各自でやってこそ、技量の向上につながる。そこで、以下の事前、事後学習を求める。 授業前準備学習：各回の授業項目について予習し、教科書の該当箇所について、参考書や辞書で下調べをしながら各自で声を出し読んでみる。ただし、わからない時には勝手に進めずに、講師に確認する事。(間違ったアナウンスを覚えたり、喉を傷めたいしないため)【学習時間：2時間】 授業後学習：授業で行ったアナウンスを何度も声を出してやってみると共に、授業内容と同じ項目に該当する教科書以外の教材(講師より案内する)でアナウンス練習をすることで、さらに習熟を深める。【学習時間：2時間】						
授業方法	まずは大人数の中でも恥ずかしがることなく声を出せること、その上で、正しい方法で声を出し、正しい方法でしゃべることが基本となる。 各自がアナウンサーになったつもりで、積極的に考え、しゃべること。						
評価基準と評価方法	実技試験のカメラ収録の内容：60%、 普段の取り組みや課題への取り組みの評価：40% なお、遅刻は2回で欠席1回と同等の扱いとし、10回以上の出席と実技試験を受けなければ単位は認定しない。						
履修上の注意	1回目の授業の際、顔写真1枚(証明写真等)を用意、提出する事。(指導のための原簿を作成するため) ストップウォッチは100円ショップの品でいいので各自用意する事。 アクセント辞典、ICレコーダー(スマホでも可)も持っていることが望ましい。 アナウンサー受験等を考えている学生には別途アドバイス等を行う。 NHK放送コンテストへの参加を希望する学生には別途案内、指導を行う。						
教科書	テレビ朝日アスクアナウンス教則本(1冊2,500円)は必携のこと。購入方法は別途案内する(書店では販売されていないので、講師が教室で案内する。)						
参考書	NHKアナウンス・セミナー(NHKアナウンス・セミナー編集委員会編) アクセント辞典(どの出版社のものでも良い) はじめの1分で信頼を勝ち取る声と話し方(テレビ朝日アスク)						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	異文化コミュニケーション演習						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	J72560
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	グローバル社会を迎えて、多くの文化的背景が異なる人と共に暮らしていくことが当たり前となっています。一方、日本社会の国際化・多文化化の流れとは反対に民族や国籍の違う人に対する無意識の偏見や差別感が現れてい瞬間に出会うこともあります。このクラスでは多文化に対する知識とそれを需要するためのスキルトレーニングのための授業です。						
授業の概要	自分の「あたりまえ」や「常識」が他の人々にとってそうではない可能性があることを気づいていく活動をしていながら、社会にある差別や偏見について取り扱います。「もし自分だったら」という想像力を持ち、生活に潜む無意識の理不尽さ無関心さを考えます。最後に言語の平等性について考えます。英語をはじめとした特権的な言語について考えながら、複雑な言語環境化で育つ子供の言語習得などについて理解を深めます。						
到達目標	① 自分の「あたりまえ」を客観視し、他人との違いを議論することができる。【汎用的技能】 ② 日本社会の国際化・多文化を知り、差別や偏見について理解し、説明できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 郷入っては郷に従え? -異文化間ソーシャルスキル- 第3回 言いにくいことをどう伝える? -アサーション・トレーニング- 第4回 えっ? あなたはこう思わないの? -ビジネスでの異文化接触- 第5回 「〇〇人」ってだれのこと? -日本人・外国人- 第6回 悪気はなかったんだけど... -マイクロ・アグレッション- 第7回 今のあなたはどのような立場 -マイノリティとマジョリティ- 第8回 みんなが暮らしやすく -ユニバーサルデザイン- 第9回 「ことばができる」ってどんなこと? -国境を越える子どもの言語習得- 第10回 わかりやすく伝えよう! -やさしい日本語- 第11回 にぎやかな、音を使わない言語 -手話- 第12回 英語だけでいいですか? -英語一極集中の功罪- 第13回 いくつもの言語とともに -複言語主義- 第14回 軍隊を待つ方言って? -言語バリエーション- 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	事前学習: 各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習し、分からない言葉を調べたり、指定された事前課題についてやってくる。発表があった場合は発表の準備を行う。(学習時間2時間) 事後学習: 授業で取り上げた内容の要点や重要箇所を確認し、確認テストで理解度を確かめたり、manaba上の課題に答える。(学習時間2時間)						
授業方法	講義と演習 : テーマについて講義を行う。または、発表担当者がテーマについて発表を行う。 それについて、グループワークあるいはペアワークによるディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物や授業の参加度60% 期末レポートあるいは試験40% 授業内での提出物は事前課題や宿題・リアクションペーパーなど 【到達目標①に関する達成度の確認】 授業の参加度は授業内での発言やグループワーク 【到達目標①に関する達成度の確認】 期末レポートあるいは試験 【到達目標②に関する達成度の確認】						
履修上の注意	1. この授業はグループワークあるいはペアワークによるディスカッションを行うため、積極的な参加を望む。 2. 11回以上の出席がないと受講資格を失う。そのため、試験を受けたり、レポートを提出できない可能性がある。						
教科書	有田佳代子他編著 (2018) 『多文化社会で多様性を考えるワークブック』 研究社 ISBN978-4-327-37745-8 ¥2200						
参考書							

科目区分	日本語日本文学専攻専門教育科目						
科目名	応用文章表現法						
担当教員	大貫 菜穂					科目ナンバ-	J73250
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	就職活動や卒業論文の執筆を視野に入れた実践的な文章表現能力の養成。						
授業の概要	本授業は、レポートや卒業論文の執筆および、就職活動や社会に出た際に求められる文章の書きかたを身につけるものです。 各回では、まず、多様なシチュエーションや媒体に適した文章のルールやマナーを知り、なぜ、それらに沿った表現が必要なのかについて理解を深めます。そのうえで、お手本となる文章の要旨をまとめることや、より実践的な文章の執筆も行ないます。 必要に応じてペアワークやグループワークにも取り組んでもらいます。						
到達目標	さまざまな文章を正確に把握することを通じて日本語の構造や表現を学び、自分が伝えたいことを相手から明確に理解してもらえる文章を書けることが到達目標です。そのために次のことを達成します。 1. なぜ、文章を正しく読み解くことと的確な表現で書く技術が必要なのかを理解できる 2. 日本語文の品詞、文章構造、文体、語彙、表現を身につける 3. 日常で使う言葉や文章、仕事等で使う文章、レポートや論文などアカデミックな文章の違いを理解できる 4. 日常生活、就職活動や社会に出て働くに際して、適切な文章を書くことができる 5. アカデミックな文章を正しい書式で書くスキルを身につける						
授業計画	第1回 インTRODクシヨン 第2回 手紙と葉書の書きかた 第3回 メールのマナーと作成方法 第4回 報告書の書きかた 第5回 振り返り・小テスト① 第6回 レポートや論文の書き方① 多様な文章の種類とアカデミックな文章とは何かを知る 第7回 レポートや論文の書き方② テーマの見つけかたと問いの提示方法 第8回 レポートや論文の書き方③ アカデミックな文章を書く際の資料検索方法 第9回 レポートや論文の書き方④ アカデミックな文章の構成方法 第10回 レポートや論文の書き方⑤ アカデミックな文章の表現作法 第11回 レポートや論文の書き方⑥ アカデミックな文章における引用・註・文献表・図版の用いかたと注意点 第12回 振り返り・小テスト② 第13回 レポートの作成① テーマを実際に決めて問いをつくる 第14回 レポートの作成② 構成を考える 第15回 レポートの推敲と修正、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	文章作成とは、授業内で教える知識を身につけるだけでなく、復習や自主的な取り組みが必要な技術です。講義内では文章作成の参考書だけでなく、良質な学術書（文庫や新書を含む）、小説やエッセイ、図書館の活用方法なども紹介します。適切な書籍や論文等の文章を探し、読み、なおかつノートやパソコンでそれを書き写すことがトレーニングになりますので、上記に基づいた学習を週1日2時間行ってください。以上の自主学習と準備学習を合わせて、週2〜3時間程度授業外における学習をしてください。						
授業方法	基本は授業計画に沿った内容を講義形式で学習してもらいます。そのうえで、実際に文章を執筆・作成する回もあります。また、文章を配布し、文章内の言葉や構造・内容の把握、要旨や要約およびレポートの執筆への実践的な取り組みもしてもらいます。						
評価基準と評価方法	毎回の授業参加、学習へ取り組む態度、小テストおよび最終レポートの総合評価とします。 最終レポートは授業参加度に比例した成果が出ますので、その点を意識して授業を受けてください。 テストおよび最終レポート50%：小テスト2回と最終レポートの総合点（到達目標1〜5） 授業内課題30%：授業内で出した課題の提出（到達目標2、3、4） 授業参加態度20%：授業への取り組み姿勢						
履修上の注意	5分の1以上の授業の欠席、テストの欠席および最終レポートを提出しなかった場合は、最終評価の対象としません。（正式な理由があつての欠席は必ず事前に担当教員と教務課に届け出てください。特にテストの欠席は、教務課からの届けをもって再テストまたは別の課題等を指示します。） 授業をさまたげる私語やスマホの利用は厳禁です。 初回のガイダンスにて履修上の注意点を述べるので、履修予定者は必ず出席してください。						
教科書	必要に応じてレジュメを配布します。 本授業は基本的にPowerPointを用いた説明を行いますので、必ず各自でノートをまとめるようにしてください。						
参考書	・ 戸田山和久『論文の教室——レポートから卒論まで』NHK出版、2002；[新版]2012（ISBN-10:4140911948/ISBN-13:978-4140911945） ・ 他の参考書は授業内で指示します。						

科目区分	日本語日本文学専攻専門教育科目						
科目名	応用文章表現法A						
担当教員	大貫 菜穂					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	就職活動や卒業論文の執筆を視野に入れた実践的な文章表現能力の養成。						
授業の概要	本授業は、レポートや卒業論文の執筆および、就職活動や社会に出た際に求められる文章の書きかたを身につけるものです。 各回では、まず、多様なシチュエーションや媒体に適した文章のルールやマナーを知り、なぜ、それらに沿った表現が必要なのかについて理解を深めます。そのうえで、お手本となる文章の要旨をまとめることや、より実践的な文章の執筆も行います。 必要に応じてペアワークやグループワークにも取り組んでもらいます。						
到達目標	さまざまな文章を正確に把握することを通じて日本語の構造や表現を学び、自分が伝えたいことを相手から明確に理解してもらえる文章を書けることが到達目標です。そのために次のことを達成します。 1. なぜ、文章を正しく読み解くことと的確な表現で書く技術が必要なのかを理解できる 2. 日本語文の品詞、文章構造、文体、語彙、表現を身につける 3. 日常で使う言葉や文章、仕事等で使う文章、レポートや論文などアカデミックな文章の違いを理解できる 4. 日常生活、就職活動や社会に出て働くに際して、適切な文章を書くことができる 5. アカデミックな文章を正しい書式で書くスキルを身につける						
授業計画	第1回 インTRODクシヨン 第2回 手紙と葉書の書きかた 第3回 メールのマナーと作成方法 第4回 報告書の書きかた 第5回 振り返り・小テスト① 第6回 レポートや論文の書き方① 多様な文章の種類とアカデミックな文章とは何かを知る 第7回 レポートや論文の書き方② テーマの見つけかたと問いの提示方法 第8回 レポートや論文の書き方③ アカデミックな文章を書く際の資料検索方法 第9回 レポートや論文の書き方④ アカデミックな文章の構成方法 第10回 レポートや論文の書き方⑤ アカデミックな文章の表現作法 第11回 レポートや論文の書き方⑥ アカデミックな文章における引用・註・文献表・図版の用いかたと注意点 第12回 振り返り・小テスト② 第13回 レポートの作成① テーマを実際に決めて問いをつくる 第14回 レポートの作成② 構成を考える 第15回 レポートの推敲と修正、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	文章作成とは、授業内で教える知識を身につけるだけでなく、復習や自主的な取り組みが必要な技術です。講義内では文章作成の参考書だけでなく、良質な学術書（文庫や新書を含む）、小説やエッセイ、図書館の活用方法なども紹介します。適切な書籍や論文等の文章を探し、読み、なおかつノートやパソコンでそれを書き写すことがトレーニングになりますので、上記に基づいた学習を週1日2時間行ってください。以上の自主学習と準備学習を合わせて、週2〜3時間程度授業外における学習をしてください。						
授業方法	基本は授業計画に沿った内容を講義形式で学習してもらいます。そのうえで、実際に文章を執筆・作成する回もあります。 また、文章を配布し、文章内の言葉や構造・内容の把握、要旨や要約およびレポートの執筆への実践的な取り組みもしてもらいます。						
評価基準と評価方法	毎回の授業参加、学習へ取り組む態度、小テストおよび最終レポートの総合評価とします。 最終レポートは授業参加度に比例した成果が出ますので、その点を意識して授業を受けてください。 テストおよび最終レポート50%：小テスト2回と最終レポートの総合点（到達目標1〜5） 授業内課題30%：授業内で出した課題の提出（到達目標2、3、4） 授業参加態度20%：授業への取り組み姿勢						
履修上の注意	5分の1以上の授業の欠席、テストの欠席および最終レポートを提出しなかった場合は、最終評価の対象としません。（正式な理由があつての欠席は必ず事前に担当教員と教務課に届け出てください。特にテストの欠席は、教務課からの届けをもって再テストまたは別の課題等を指示します。） 授業をさまたげる私語やスマホの利用は厳禁です。 初回のガイダンスにて履修上の注意点を述べるので、履修予定者は必ず出席してください。						
教科書	必要に応じてレジュメを配布します。 本授業は基本的にPowerPointを用いた説明を行いますので、必ず各自でノートをまとめるようにしてください。						
参考書	・ 戸田山和久『論文の教室——レポートから卒論まで』NHK出版、2002；[新版]2012（ISBN-10:4140911948/ISBN-13:978-4140911945） ・ 他の参考書は授業内で指示します。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	音韻・表記の基礎知識						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ-	J72010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語を主対象とする音声学・音韻論						
授業の概要	音声、音素、文字の関係を理解したのち、音声に象徴性が備わっていることを学ぶ。						
到達目標	<p>(1) 知識・理解:</p> <p>a. 音声、音素、文字の関係を掴む。</p> <p>b. 音声に象徴性が備わっていることを掴む。</p> <p>(2) 汎用的技能:</p> <p>a. 学説が必ずしも定まっていないことに意識的である。</p> <p>b. 構造的単位とその構成要素とに意識的である。</p> <p>c. 科学的分析の基礎が実践できる。</p> <p>(3) 態度・志向性:</p> <p>授業を通じて、卒業研究の種を掴む。</p>						
授業計画	<p>01: 授業概要、授業計画、到達目標の説明</p> <p>02: 音声と文字との関係</p> <p>03: 音声とその象徴性</p> <p>04: 第2章の講読</p> <p>05: 国際音声字母 (The International Phonetic Alphabet = IPA) の理解</p> <p>06: 第3章の講読</p> <p>07: 第4章の講読</p> <p>08: 調音音声学と音響音声学</p> <p>09: 音響分析実践</p> <p>10: 第5章の講読</p> <p>11: 第6章の講読</p> <p>12: 知覚音声学</p> <p>13: 第7章の講読</p> <p>14: 全体のまとめと期末課題指導</p> <p>15: 期末課題添削</p>						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	<p>(1) 授業前学習 (毎週2時間): 教員が指示した重要語句や参考文献の予習。</p> <p>(2) 授業後学習 (毎週2時間): 授業内容の復習と期末課題の準備。</p>						
授業方法	<p>(1) 板書やスクリーンを活用しながら講義を行なったのち、授業内で完結する課題を与える。学生から得た正答や名案は受講者全員で共有する。</p> <p>(2) 練習問題や課題を複数人で行なう機会がある。</p>						
評価基準と評価方法	<p>(1) 授業内課題: 50%</p> <p>到達目標 (1, 3) の確認。</p> <p>教員が授業内で与えた課題に対して、積極的に、かつ、的確に回答したか。</p> <p>(2) 期末課題: 50%</p> <p>到達目標 (2, 3) の確認。</p> <p>授業内容に即した論理的文章の作成。</p>						
履修上の注意	特段の理由無く欠席した者に対する学習補助は一切行なわない。						
教科書	川原 繁人 (2017) 『「あ」は「い」より大きい!?』 ひつじ書房						
参考書	<p>服部 四郎 (1951) 『音声学』 (岩波全書131) 岩波書店</p> <p>服部 四郎 [1951] (1979) 『新版 音韻論と正書法』 大修館書店</p> <p>斎藤 純男 (2006) 『改訂版 日本語音声学入門』 三省堂</p> <p>川原 繁人 (2015) 『音とことばのふしぎな世界』 岩波書店</p>						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	海外日本語教育実習						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	J72240
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	海外日本語教育実習 (この授業は集中のため履修登録期間中には登録できません。募集時期が来ましたら、ポータルや授業で連絡いたします)						
授業の概要	この授業は、実際に、海外の協定大学の日本語学科で日本語教育の教壇実習を行う授業です。日本語教育は実際に教えるという体験が非常に重要です。この経験を通して、クラスコントロールなど現場でしか学べないことを学びます。この授業は8回の学内での授業と海外での教育実習に分かれています。人数制限や実習費用がかかるため、必ず説明会に出席することを条件とします。						
到達目標	① 指定されたテキストを分析し、教えるべき文型や注意点が理解できる。【知識・理解】 ② テキストを分析し、対象者のレベルにあった教案を作るスキルを身につけることができ?。【汎用的技能】 ③ 教室において柔軟に意欲的に行動し、海外で日本語教師として教壇に立ち授業を行うことができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 海外日本語教育実習オリエンテーション 第2回 実習指導1・教材分析 実習担当箇所の決定 第3回 実習指導2・教材研究 実習担当箇所の分析と研究 第4回 実習指導3・教案指導の書き方 第5回 実習指導4・教案指導を書く 第6回 実践練習  海外教育実習(見学と実習 45時間以上)  第7回 フィードバック 第8回 まとめと振り返り						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業の為の教材作を積極的に行うこと。 事前に自分の担当箇所の教案とPPTを作成(学習時間2時間) 授業の準備とリハーサル(学習時間2時間)						
授業方法	講義と演習形式+プレゼンテーション+海外の協定大学における日本語教壇実習						
評価基準と評価方法	教案・実習レポート(締切厳守) 50% 【到達目標①及び②に関する到達度の確認】 教案は文法の理解度、書き方、アクティビティなどの内容で評価する。 教壇実習50% 【到達目標③に関する到達度の確認】						
履修上の注意	・希望者多数場合は以下の条件順に選考するので、必ず1回目の授業に出席すること。1回目の授業に参加しない者は受講を認めない。 ・「日本語教育演習A・B」あるいは「日本語教育実習の基礎・実践」を履修している人を優先する。 ・単位認定には実際の教壇実習へ行くことが必須である。 ・海外での教育実習のための費用が必要である。 ・集中講義であるため、すべての事前授業に出ることを条件とする。						
教科書	適宜、教師が作成したプリントを使用						
参考書							

科目区分	日本語日本文学専攻専門教育科目						
科目名	華道文化を学ぶ／華道史						
担当教員	今井 孝司					科目ナンバ-	J72510
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	1. いけばなを通して日本文化の根底に流れるもの・ことを知る 2. 現代社会におけるいけばなの可能性について考える						
授業の概要	いけばなは日本の風土、文化、精神から発生した、日々の生活に密着しながら発展してきた「生活芸術」です。まずその起源を知り、いけばなが日本人の日常生活の中で様式化されていった過程について理解します。次に現代に蔓延するストレスフルな生活に潤いを与える可能性についてひもといていきます。またいけばなが西洋あるいは戦前の植民地に与えた影響と、高齢社会における可能性についても言及する予定です。						
到達目標	まずいけばなの成立背景と変遷の過程について、日本の風土や信仰が大きく作用していることを理解し、住空間の発展、もてなしの文化、女性の生活芸術であったなどの知識を身につけ、説明ができる。【知識・理解】さらに応用力として、いけばなは民族・文化を越えて現代人の生活に潤いをもたらせ、未来志向の生活芸術であるという可能性を理解し説明できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回：いけばな・日本の歴史文化に関するクイズと授業方針の伝達 第2回：いけばな史① いけばな成立の背景 『いけばなの道』DVDの視聴 第3回：いけばな史② 古代から江戸期まで 植生・信仰・住環境との関連性を中心に 第4回：いけばな史③ 明治期から現代まで 社会文化・経済との関連性を中心に 第5回：いけばな史④ 女性といけばな 江戸期と大正期の変節点を中心に 第6回：様式の成立背景と技法の進化① カミ(神)とブツ(仏)の影響 第7回：様式の成立背景と技法の進化② なぜ花は空に向かって活けるのか 第8回：現代生活といけばな① 花の持つ力(パワー)と効用…色・形・匂い 第9回：現代生活といけばな② 住環境のアクセントとしてのいけばな 第10回：現代生活といけばな③ 和のテイスト、洋のテイスト、癒しとしてのいけばな 第11回：家元制度について考える 第12回：いけばなと外国との関わり① いけばなに魅せられた西洋人たち 第13回：いけばなと外国との関わり② 戦前日本のアジア展開といけばなの伝播過程 第14回：高齢社会といけばな 生活のうるおいと活力をもたらせるいけばな 第15回：総括および提出物評価						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	○授業前準備学習：毎回授業の終わりに翌週分のレジュメを予め配布する。熟読ならびに予め調べておく事項を示しておくのでレジュメのメモ書き欄に書き留めておくこと。(学習時間2時間) ○授業後学習：毎回配布する用紙に授業の要点をまとめておき、翌週提出すること。(学習時間2時間) ○その他：本授業の開講期にあたる秋には多くのいけばな流派の花展が開催されます。どの流派でもかまわないので、必ず会場に足を運び、与えられたタイトルでレポートを仕上げ、提出してください。これに要する時間はおおむね6時間(スケッチ・メモを含む花展見学2時間、レポート作成4時間)を目安とします。						
授業方法	基本は講義(座学)ですが、過去または現代の作品(プロジェクター掲示や写真の配布など)について、ディスカッションも予定しています。						
評価基準と評価方法	レポート(2回)50% 到達目標(1)・(2)に関する到達度の確認。 平常点①：授業内容確認テスト(2回)30% 到達度(1)に関する到達度の確認。 平常点②：ディスカッションでの発言、受講態度など講義への参加度 20% 到達目標(2)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	いけばな経験の有無は問いません						
教科書	特に指定はしません。適宜レジュメを配布します						
参考書	『いけばなの道』工藤昌伸、主婦の友社、1985年 『「花」の成立と展開』小林善帆、和泉書院、2007年 『美しい日本のいけばな』ジョサイア・コンドル(工藤恭子訳)、講談社、1999年 『植民地朝鮮の教育資料Ⅰ・Ⅱ』小林善帆編、国際日本文化教育センター(非売品・図書館所蔵) その他いけばなに関する論文、雑誌記事など						

科目区分	日本語日本文学専攻専門教育科目						
科目名	仮名書法の応用／書道実技（仮名B）						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバ-	J72450
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	書道実技〈仮名—応用編〉						
授業の概要	書道実技（仮名A）基礎の応用として、様々な書式を試みる。俳句、和歌の散らし書き構成法を学び、短冊、色紙、扇面などへの創作に挑戦する。創作の際、参考にする古典作品（古筆）を各自が選び、研究する。						
到達目標	①さまざまな仮名の古典作品の書風や歴史について理解し、説明することができる。【知識・理解】 ②仮名の散らし書きを学び、色紙、短冊、扇面などに俳句、和歌を創作することができる。【知識・理解】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 古筆の鑑賞—学ぶ古筆を選ぶ</li> <li>2) 古筆の臨書—練習</li> <li>3) 古筆の臨書—清書</li> <li>4) 短冊に書く①—集字について</li> <li>5) 短冊に書く②—短冊の書式について</li> <li>6) 短冊に書く③—墨量と濃淡について</li> <li>7) 色紙に書く①—散らし書きについて（構図を考える）</li> <li>8) 色紙に書く②—散らし書きについて（墨量を考える）</li> <li>9) 扇面に書く①—扇面と散らし書きについて（構図を考える）</li> <li>10) 扇面に書く②—扇面と散らし書きについて（墨量を考える）</li> <li>11) 中字仮名を書く①（構図を考える）</li> <li>12) 中字仮名を書く②（墨量を考える）</li> <li>13) 中字仮名を書く③（清書）、大字仮名を書く①（構図を考える）</li> <li>14) 大字仮名を書く②（墨量を考える）</li> <li>15) 大字仮名を書く③（清書）</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：次時の内容に関して下調べしておくこと。（学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習：実技添削物の復習。（学習時間：2時間）</p> <p>紹介した展覧会で鑑賞すること。</p> <p>授業時間内での練習量では限度があるため、授業外でも自主的な臨書学習を希望する。</p>						
授業方法	講義及び実技						
評価基準と評価方法	<p>平常点（作品制作への取り組み態度）20%：到達目標①②の到達度確認</p> <p>レポート・小テスト30%：到達目標①の到達度確認</p> <p>提出作品50%：到達目標②の到達度確認</p> <p>課題に関するフィードバック：作品は毎時添削し、レポートについて、授業内で全体に向けてコメント、紹介する。</p>						
履修上の注意	<p>以下の書道道具を持参のこと：仮名用小筆、硯、墨、文鎮、下敷き、仮名半紙、雑巾（書道道具に関しては、ガイダンスで詳しく説明する）</p> <p>関連する展覧会があれば鑑賞課題を設けることがある。</p> <p>授業の成果を発表する場（作品展など）を設ける予定である。</p> <p>書道関係のワークショップがあれば、積極的に参加することが望ましい。</p>						
教科書	各自が選ぶ古筆の法帖。詳しくは最初の授業で説明する。						
参考書							



科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	仮名書法の基礎／書道実技（仮名A）						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバ-	J72440
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	書道実技〈仮名—基礎編〉						
授業の概要	仮名は、中国から漢字を受容し、日本独自の美意識のもと展開された。仮名の変遷を理解し、主に平安時代の仮名について学習する。単体から連綿、仮名の書き方の基本を学びながら、日本の美について考える。						
到達目標	①仮名の成立について理解し、説明することができる。【知識・理解】 ②仮名の書の基本的な運筆法を理解、習得し、創作につなぐことができる。【知識・理解】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ガイダンス（道具、授業内容などの説明）、仮名の変遷と仮名の書について</li> <li>2) 仮名の基本練習—単体で書く <ol style="list-style-type: none"> <li>1…仮名の字源について、仮名の用筆</li> <li>2…「いろは」練習</li> <li>3…「いろは」清書</li> </ol> </li> <li>3) 仮名の基本練習—連綿で書く <ol style="list-style-type: none"> <li>1…連綿の種類について、連綿の練習</li> <li>2…連綿の清書</li> </ol> </li> <li>4) 仮名の基本練習—変体仮名を書く <ol style="list-style-type: none"> <li>1…変体仮名の字源について、変体仮名の練習</li> <li>2…変体仮名の練習と清書</li> </ol> </li> <li>5) 仮名の古典作品（古筆）について、古筆の臨書—「高野切古今和歌集」練習</li> <li>6) 古筆の臨書—「高野切古今和歌集」清書</li> <li>7) 古筆の臨書—「三色紙」練習</li> <li>8) 古筆の臨書—「三色紙」清書</li> <li>9) 仮名作品の創作①—構図と墨量を考える</li> <li>10) 仮名作品の創作②—料紙に清書</li> <li>11) 仮名作品の創作③—作品に合う印の制作と押印</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：次時の内容に関して下調べしておくこと。（学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習：実技添削物の復讐。（学習時間：2時間）</p> <p>紹介した展覧会で鑑賞すること。</p> <p>授業時間内での練習量では限度があるため、授業外でも自主的な臨書学習を希望する。</p>						
授業方法	講義及び実技						
評価基準と評価方法	<p>平常点（作品制作への取り組み態度）20%：到達目標①②の到達度確認</p> <p>レポート・小テスト30%：到達目標①の到達度確認</p> <p>提出作品50%：到達目標②の到達度確認</p> <p>課題に関するフィードバック：作品は毎時添削し、レポートについて、授業内で全体に向けてコメント、紹介する。</p>						
履修上の注意	<p>以下の書道道具を持参のこと：仮名用小筆、硯、墨、文鎮、下敷き、仮名半紙、雑巾</p> <p>（書道道具に関しては、ガイダンスで詳しく説明する）</p> <p>関連する展覧会があれば鑑賞課題を設けることがある。</p> <p>授業の成果を発表する場（作品展など）を設ける予定である。</p> <p>書道関係のワークショップがあれば、積極的に参加することが望ましい。</p>						
教科書	手本やプリントを配布する。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	漢文講読／漢文を読むA						
担当教員	恵阪 友紀子					科目ナンバ-	J72230
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	漢文読解の基礎知識を応用し、漢詩文を鑑賞する						
授業の概要	漢文学の影響なしには日本文学は語れない。本講義では、物語や和歌との影響関係を意識しながら、漢詩文の読解方法を解説する。						
到達目標	(1) 漢詩文読解ができる【知識・理解の観点】 (2) 作品の内容を理解できる【汎用的技能の観点】 (3) 日本文学と漢文学の影響関係が説明できる【汎用的技能の観点】 (4) 書き下しや要点について、板書・解説ができる【態度・志向性の観点】						
授業計画	第1回 ガイダンス 漢文の基礎の復習 第2回 漢文訓読の基礎知識 (1) 訓点・基本構文の確認 第3回 漢文訓読の基礎知識 (2) 助字解説 第4回 漢文講読の基礎知識 (3) 構文解説 第5回 作品読解 (1) 故事成語① 蚩窗雪案 第6回 作品読解 (2) 故事成語② 推敲 第7回 作品解説 (3) 論語(学而篇) 第8回 作品解説 (4) 論語(為政篇) 第9回 作品読解 (5) 漢詩① 漢詩の基礎知識の復習 第10回 作品読解 (6) 漢詩② 古体詩と近体詩(古詩十九首、山中問答) 第11回 作品読解 (7) 漢詩③ 唐詩と日本文学 第12回 作品読解 (8) 漢文① 桃花源記(訓読) 第13回 作品読解 (9) 漢文② 桃花源記(読解) 第14回 作品読解 (10) 漢文③ 桃花源記(作品解説) 第15回 まとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備： 授業前半の基礎知識においては、次回範囲の構文・助字などについてテキストをよく読み、配布されたプリントを仕上げる(1時間)。 授業後半の作品読解においては、次回範囲の作品について、書き下し文・訳を作成し、読めない漢字や意味の不確かな語は調べておく(1時間) 授業後復習： 授業前半の基礎知識においては、全体の書き下し・訳を確認し、間違った箇所・よくわからなかった箇所について、辞書などで調べてまとめ直す(1時間)。また、学習した内容について、図書館やインターネットなどを利用して、自分なりに例文を探して内容理解を深める(2時間)。 授業後半の作品読解においては、全体の書き下し・訳を確認し、間違った箇所・よくわからなかった箇所について、辞書などで調べてまとめ直す(1時間)。また、読んだ作品や作品に登場した人物について、図書館の資料やインターネットなどを利用して追加調査をする(2時間) ※インターネットを利用する場合は、情報源(発信者など)を確認し、資料に基づいた確かな情報を利用すること。						
授業方法	講義：書き下し文の板書、本文音読、通釈の発表など双方向で進め、重要事項・構文名などの解説を行う。						
評価基準と評価方法	授業内での取り組み 60% 期末試験 40% 授業内での提出物： ①リアクションペーパー(講義のまとめ、質問感想)の内容を評価する【到達目標(1)～(4)の確認】 ②課題(全回の課題)の内容を評価する【到達目標(1)～(4)の確認】 期末試験：授業で扱った作品や応用問題に対する理解度、応用力を評価する【到達目標(1)～(4)の確認】 課題に対するフィードバック リアクションペーパーに対するコメント・質問への回答は翌週に解説する						
履修上の注意	必ず漢和辞書を持参すること (電子辞書および有料の辞書アプリは可。語例や語義が詳述されているものに限る。よって、無料アプリおよびネット上の簡易辞書は不可) 積極的に授業に参加すること						
教科書	『漢文入門』、榊原邦彦・伊藤一重ほか編、和泉書院、ISBN9784870885196						

参考書	授業中に紹介する
-----	----------

科目区分	日本語日本文学専攻専門教育科目						
科目名	漢文入門						
担当教員	恵阪 友紀子					科目ナンバ-	J71530
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	漢文読解の基礎知識を身につける						
授業の概要	日本文学は中国文学からさまざまな影響を受けている。日本文学を読み解く上でも欠かせない漢文学と日本文学の関わりについて解説する。作品を読みながら漢詩文の読解に必要な基礎知識を習得できるようにする。						
到達目標	(1) 漢詩文読解ができる【知識・理解】 (2) 中学・高校でよく取り上げられる作品を自力で読解できる【汎用的技能】						
授業計画	第1回 ガイダンス 漢字の基礎 第2回 漢文訓読の基礎知識 (1) 訓点 第3回 漢文訓読の基礎知識 (2) 基本構文 第4回 漢文訓読の基礎知識 (3) 再読文字 第5回 漢文訓読の基礎知識 (4) 助字と助詞 第6回 漢文訓読の基礎知識 (5) 助字と助動詞 第7回 作品読解 (1) 故事成語① 守株 第8回 作品読解 (2) 故事成語② 矛盾 第9回 作品読解 (3) 故事成語③ 漱石枕流 第10回 作品読解 (4) 論語① 学問(学而) 第11回 作品読解 (5) 論語② 教育・徳(為政篇) 第12回 作品読解 (6) 漢詩① 漢詩の基礎知識 第13回 作品読解 (5) 漢詩② 春暁・竹里館 第14回 作品読解 (8) 漢詩③ 登高 第15回 まとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備： 授業前半の基礎知識においては、次回範囲の構文・助字などについてテキストをよく読み、配布されたプリントを仕上げる(1時間)。 授業後半の作品読解においては、次回範囲の作品について、書き下し文・訳を作成し、読めない漢字や意味の不確かな語は調べておく(1時間) 授業後復習： 授業前半の基礎知識においては、全体の書き下し・訳を確認し、間違った箇所・よくわからなかった箇所について、辞書などで調べてまとめ直す(1時間)。また、学習した内容について、図書館やインターネットなどを利用して、自分なりに例文を探して内容理解を深める(2時間)。 授業後半の作品読解においては、全体の書き下し・訳を確認し、間違った箇所・よくわからなかった箇所について、辞書などで調べてまとめ直す(1時間)。また、読んだ作品や作品に登場した人物について、図書館の資料やインターネットなどを利用して追加調査をする(2時間) ※インターネットを利用する場合は、情報源(発信者など)を確認し、資料に基づいた確かな情報を利用すること。						
授業方法	講義：書き下し文の板書、本文音読、通釈の発表など双方向で進め、重要事項・構文などの解説を行う。						
評価基準と評価方法	授業内での取り組み 60% 期末試験 40% 授業内での提出物： ①リアクションペーパー(講義のまとめ、質問感想)の内容を評価する【到達目標(1)(2)の確認】 ②課題(全回の課題)の内容を評価する【到達目標(1)(2)の確認】 期末試験：授業で扱った作品や応用問題に対する理解度、応用力を評価する【到達目標(1)(2)の確認】 課題に対するフィードバック リアクションペーパーに対するコメント・質問への回答は翌週に解説する						
履修上の注意	必ず漢和辞書を持参すること (電子辞書および有料の辞書アプリは可。語例や語義が詳述されているものに限る。よって、無料アプリおよびネット上の簡易辞書は不可) 積極的に授業に参加すること 2年次以降に「漢文講読」を引き続き履修することが望ましい						
教科書	『漢文入門』、榊原邦彦・伊藤一重ほか編、和泉書院、ISBN9784870885196						

参考書	授業中に紹介する
-----	----------

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	外国語としての日本語と日本文化／外国語としての日本語と日本文化A						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	J7154A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語としての日本語の特徴と言葉に潜む日本文化を知る						
授業の概要	留学生と日本人を対象としたクラスで、日本の文化について考える。日々の生活の中に見られるさまざまな、言葉や表現、生活習慣の中にひそんでいる「文化」について、改めて考えながら、いろいろな事例を自分でも探し出し、理解を深めていくことを目指す。毎回、コメントシートやレポート作成、プレゼン発表など何らかのまとめ作業を行う機会も設ける。						
到達目標	① 日本語の語彙や表現、生活習慣の中から、日本的なものとのとらえ方や価値観、文化などを論じることができる【汎用性技能】 ② 日本文化に関する自分の考えをまとめたり、発表したりできるようになる。【汎用性技能】						
授業計画	第1回 インTRODクシヨン 第2回 「自分」を表す呼び方 第3回 「さくら」がつく言葉 第4回 トイレの呼び方とバリエーション 第5回 「すみません」の使い方 第6回 湿気や水分の多いことを表す表現 第7回 同音異義語「あつい」 第8回 日本の衣食住 第9回 相手をほめる表現 第10回 日本語の呼びかけの人称代名詞 第11回 日本の四季 第12回 日本の年中行事 第13回 日本の祝日 第14回 贈り物とお返し 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【事前学習】各テーマについて、事前に図書館やウェブ上の資料などを利用して、積極的に調べてくる。（学習時間2時間） 【事後学習】授業中に出された課題について、各テーマに関する書籍や新聞記事などをまとめる。（学習時間2時間）						
授業方法	各テーマについて講義を聞き、その後、パソコン等を用いて事例を探し出し、分類、分析する。ペアワークやグループワークを多用する。できるだけ毎時間、分析した結果をもとに、自分なりの考えや意見をコメントシートやレポートにまとめ、提出したり、manaba上にアップする。発表する機会も設ける。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み・発表 30%【到達目標②に関する到達度の確認】 授業内での提出物（課題・リアクションペーパー等） 30%【到達目標②に関する到達度の確認】 期末レポート 40%【到達目標①に関する到達度の確認】						
履修上の注意	・4/5以上の出席がないと、単位の認定はありません。 ・出席するだけでは単位は得られません。積極的に授業に参加してください。						
教科書	適宜ハンドアウトを配布する						
参考書							

科目区分	日本語日本文学専攻専門教育科目						
科目名	キャラクタービジネス論						
担当教員	辻 幸恵					科目ナンバ-	J72710
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	さまざまなビジネスをキャラクターグッズを通じて知り、マーケティングの重要性を学び生活の中で考察する力を養う。						
授業の概要	グローバル化が進む社会でキャラクター（マスコット）は多様なビジネスの要素を含んでいる。たとえばゆるキャラは地域に、スポーツマスコットは世界に、貢献しアピールしながらビジネスモデルをもっている。それらを学びよりビジネスを身近に感じてもらうことを目指し、キャラクターを使う意味について学ぶ。						
到達目標	<p>1. ビジネスの基本的な広告を知り、造形的なキャラクターを通じて広告とアートの融合的販売戦略を構築できる。そして現代におけるキャラクター（文芸的）所産に美的価値だけでなく、心理的販売促進的価値を理解する。【知識・理解】</p> <p>2. キャラクタービジネスを通じてマーケティングの要素を学び、それらの社会的意味を説明できる。【汎用的技能】</p> <p>3. キャラクタービジネスの特性を理解し、他のビジネスへの応用できる洞察力とキャラクターとビジネスを融合的に理解し、生活内に応用できる態度を育て社会に貢献する方策を考察できる。【態度・志向性】</p>						
授業計画	<p>第1回 キャラクタービジネスとは何かを考える視点を養うために：ビジネスにおいて、どのようなキャラクターが使用されているのかを知る。（教科書は第1章pp. 2-11）</p> <p>第2回 キャラクターの定義と日本産キャラクターの魅力について：日本産のキャラクターを例示し、キャラクターの系譜の分類と日本産のキャラクターの特徴（ゆるキャラを例示）について知る（教科書pp. 12-43）</p> <p>第3回 キャラクターの分類と多様性：キャラクターの分類ごとのメディア性やシンボルの意味について論じる。（教科書pp. 44-59）</p> <p>第4回 企業キャラクターの事例（不二家のペコちゃん）：ペコちゃんを用いた世論形成を時系列的に当時の事件を参考にしながら理解し、それらの事象を論じる。（教科書第2章pp. 62-82）</p> <p>第5回 キャラクターとマーケティングとの関係：ひきつづきペコちゃんの事例を参考にして、不二家の菓子メーカーとしてのマーケティングを学ぶ。（pp. 63-101）</p> <p>第6回 消費者視点へのアピールとキャラクターマーケティング：キャラクターを使用した売り方の工夫を理解し、論理的にそれらに応用できる基礎知識を学ぶ（教科書第3章pp. 104-121）</p> <p>第7回 消費者心理とキャラクターの特性：G・ジンメルの理論をもとに、現在のキャラクターの伝播について学び、消費者の心理の基礎を理解する。（pp. 122-133）</p> <p>第8回 ビジネス活用とキャラクターの魅力：キャラクターに対する好悪を知ることによって、ビジネスの対象者（ターゲット）を選定する方法を学ぶ（教科書第4章pp. 136-160）</p> <p>第9回 キャラクター商品への理解：大学生が好むキャラクターとグッズ使用のTPOについて学ぶ。（pp. 167-182）</p> <p>第10回 キャラクタービジネスのメリットとデメリット：ここまででマーケットから見たキャラクターの利点と不利な点を中心にこれまでの学習の中間的なまとめをおこなう。</p> <p>第11回 企業キャラクターの本質と法律：キャラクターグッズなどの法律関係を理解する。（教科書第5章pp. 183-195）</p> <p>第12回 キャラクターの商標権：商標権の目的、条件などを具体例をあげながら理解する。（pp. 196-200）</p> <p>第13回 キャラクタービジネスに関する法律：著作権、商標法、意匠法などキャラクタービジネスに必要な法律を中心に具体的な例（ウルトラマン、サザエさん）をあげて説明する。（教科書第6章pp. 212-233）</p> <p>第14回 キャラクターに関する諸問題について：漫画やアニメのキャラクターを利用した場合の現実的な問題点を学ぶ。（pp. 234-253）</p> <p>第15回 キャラクターのライセンスと授業内容のまとめ：ライセンスの話にふれた後・総復習と確認問題を出して理解度を検証する（第7章pp. 256-295）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習（詳細は授業内で指示：主に次回の授業で学ぶ教科書を読んでおくことと、キャラクターに関連するニュースを見ておくこと）（学習時間2時間）</p> <p>授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理をする。具体的には教科書にそって授業をしているので毎回の授業での復習をしておくこと。（学習時間2時間分）</p>						
授業方法	講義（各回設定のテーマについて講義をおこなう。各回の授業内で確認問題も解く）						
評価基準と評価方法	<p>評価基準と評価方法</p> <p>平常点40%：各回の授業内で毎回3問ずつ問題を出すのでその解答を提出。（到達目標1の到達度の確認）正しい解答は問題を出した次週に解答を示す。</p> <p>レポート20%：9回目に課題を提示する。10回目に提出。（到達目標2の到達度の確認）</p> <p>15回目の確認問題40%：授業で学習したキャラクタービジネスについての確認。（到達目標3の到達度の確認）</p> <p>課題に対するフィードバックの方法</p>						

評価基準と 評価方法	毎回の授業のはじめに前回の問題の解答を解説する。
履修上の注意	1. 毎回の授業内で実施する問題に対する解答はその授業内に提出すること。 2. 遅刻・早退は認めない
教科書	『キャラクター総論』、辻幸恵・梅村修・水野浩児著、白桃書房、2009年、ISBN 978-4-561-26509-2
参考書	『売れるキャラクター戦略』、いとうとしこ著、光文社新書、2016年、ISBN 978-4-334-03960-8



科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A／基礎演習						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ-	J0101A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	情報の整理方法と事実・意見の記述方法						
授業の概要	大学4年間の学習を円滑に進める上で必要と成る基礎知識を身に付ける。この授業では特に、情報の整理方法と事実・意見の記述方法とを学ぶ。						
到達目標	<p>(1) 知識・理解: 勉強と主体的学習との違いを掴む。</p> <p>(2) 汎用的技能: a. 情報の種類とそれぞれの整理方法とを掴む。 b. 文章・文書の種類とそれぞれの読解方法とを掴む。 c. 事実と意見との違いとそれぞれの記述方法とを掴む。</p> <p>(3) 態度・志向性: 授業を通じて、卒業研究の種を掴む。</p>						
授業計画	<p>01: 授業概要の説明と自己紹介 02: なぜメモやノートを取るのか 03: 情報の種類とそれぞれの整理方法 04: なぜ図書館に行くのか 05: 図書館の利用方法 06: 文章・文書の種類とそれぞれの読解方法 07: 読書レビュー 08: なぜ文章を書くのか 09: 分かりにくい文の特徴とその改善方法 10: なぜパソコンを使うのか 11: パソコン・ソフトの便利機能 12: なぜ文章に段落を設けるのか 13: 段落分けと文章の要約 14: 事実と意見との違い 15: 日本語・日本文化に関する小論文の指導</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>(1) 授業前学習（毎週2時間）：教員が事前に指示した重要語句や参考文献の予習。 (2) 授業後学習（毎週2時間）：授業内容の復習と期末課題の準備。</p>						
授業方法	<p>(1) 板書やスクリーンを活用しながら講義を行なったのち、授業内で完結する課題を与える。学生から得た正答や名案は受講者全員で共有する。 (2) 練習問題や課題を複数人で行なう機会が有る。</p>						
評価基準と評価方法	<p>(1) 授業内課題：50% 到達目標（1, 3）の確認。 教員が授業内で与えた課題に対して、積極的に、かつ、的確に回答したか。</p> <p>(2) 期末課題：50% 到達目標（2, 3）の確認。 授業内容に即した論理的文章の作成。</p>						
履修上の注意	ノート必須。 授業中の議論や作業には積極的に参加すること。						
教科書	無し。						
参考書	梅棹 忠雄（1969）『知的生産の技術』岩波書店 木下 是雄（1981）『理科系の作文技術』中央公論社						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A／基礎演習						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ-	J0101A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	情報の整理方法と事実・意見の記述方法						
授業の概要	大学4年間の学習を円滑に進める上で必要と成る基礎知識を身に付ける。この授業では特に、情報の整理方法と事実・意見の記述方法とを学ぶ。						
到達目標	<p>(1) 知識・理解: 勉強と主体的学習との違いを掴む。</p> <p>(2) 汎用的技能: a. 情報の種類とそれぞれの整理方法とを掴む。 b. 文章・文書の種類とそれぞれの読解方法とを掴む。 c. 事実と意見との違いとそれぞれの記述方法とを掴む。</p> <p>(3) 態度・志向性: 授業を通じて、卒業研究の種を掴む。</p>						
授業計画	01: 授業概要の説明と自己紹介 02: なぜメモやノートを取るのか 03: 情報の種類とそれぞれの整理方法 04: なぜ図書館に行くのか 05: 図書館の利用方法 06: 文章・文書の種類とそれぞれの読解方法 07: 読書レビュー 08: なぜ文章を書くのか 09: 分かりにくい文の特徴とその改善方法 10: なぜパソコンを使うのか 11: パソコン・ソフトの便利機能 12: なぜ文章に段落を設けるのか 13: 段落分けと文章の要約 14: 事実と意見との違い 15: 日本語・日本文化に関する小論文の指導						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	(1) 授業前学習（毎週2時間）：教員が指示した重要語句や参考文献の予習。 (2) 授業後学習（毎週2時間）：授業内容の復習と期末課題の準備。						
授業方法	(1) 板書やスクリーンを活用しながら講義を行なったのち、授業内で完結する課題を与える。学生から得た正答や名案は受講者全員で共有する。 (2) 練習問題や課題を複数人で行なう機会が有る。						
評価基準と評価方法	(1) 授業内課題：50% 到達目標（1, 3）の確認。 教員が授業内で与えた課題に対して、積極的に、かつ、的確に回答したか。 (2) 期末課題：50% 到達目標（2, 3）の確認。 授業内容に即した論理的文章の作成。						
履修上の注意	ノート必須。 授業中の議論や作業には積極的に参加すること。						
教科書	無し。						
参考書	梅棹 忠雄（1969）『知的生産の技術』岩波書店 木下 是雄（1981）『理科系の作文技術』中央公論社						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A／基礎演習						
担当教員	西川 純司					科目ナンバ-	J0101A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	情報の整理方法と事実・意見の記述方法						
授業の概要	大学4年間の学習を円滑に進める上で必要と成る基礎知識を身に付ける。この授業では特に、情報の整理方法と事実・意見の記述方法とを学ぶ。						
到達目標	<p>(1) 知識・理解: 勉強と主体的学習との違いを掴む。</p> <p>(2) 汎用的技能: a. 情報の種類とそれぞれの整理方法とを掴む。 b. 文章・文書の種類とそれぞれの読解方法とを掴む。 c. 事実と意見との違いとそれぞれの記述方法とを掴む。</p> <p>(3) 態度・志向性: 授業を通じて、卒業研究の種を掴む。</p>						
授業計画	01: 授業概要の説明と自己紹介 02: なぜメモやノートを取るのか 03: 情報の種類とそれぞれの整理方法 04: なぜ図書館に行くのか 05: 図書館の利用方法 06: 文章・文書の種類とそれぞれの読解方法 07: 読書レビュー 08: なぜ文章を書くのか 09: 分かりにくい文の特徴とその改善方法 10: なぜパソコンを使うのか 11: パソコン・ソフトの便利機能 12: なぜ文章に段落を設けるのか 13: 段落分けと文章の要約 14: 事実と意見との違い 15: 日本語・日本文化に関する小論文の指導						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	(1) 授業前学習（毎週2時間）：教員が事前に指示した重要語句や参考文献の予習。 (2) 授業後学習（毎週2時間）：授業内容の復習と期末課題の準備。						
授業方法	(1) 板書やスクリーンを活用しながら講義を行なったのち、授業内で完結する課題を与える。学生から得た正答や名案は受講者全員で共有する。 (2) 練習問題や課題を複数人で行なう機会が有る。						
評価基準と評価方法	(1) 授業内課題：50% 到達目標（1, 3）の確認。 教員が授業内で与えた課題に対して、積極的に、かつ、的確に回答したか。 (2) 期末課題：50% 到達目標（2, 3）の確認。 授業内容に即した論理的文章の作成。						
履修上の注意	ノート必須。 授業中の議論や作業には積極的に参加すること。						
教科書	無し。						
参考書	梅棹 忠雄（1969）『知的生産の技術』岩波書店 木下 是雄（1981）『理科系の作文技術』中央公論社						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ-	J0101B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	情報の整理方法と事実・意見の記述方法						
授業の概要	大学4年間の学習を円滑に進める上で必要と成る基礎知識を身に付ける。この授業では特に、人文科学でどのような研究が行なわれているかを学んだのち、日本語・日本文化の研究をそれぞれ実践する。						
到達目標	<p>(1) 知識・理解: a. 勉強と研究との違いを掴む。 b. 人文科学の研究が満たすべき条件を掴む。</p> <p>(2) 汎用的技能: a. 論述の手順とそれを支える資料の性質とを掴む。 b. 資料の種類とそれぞれの整理方法とを掴む。</p> <p>(3) 態度・志向性: 授業を通じて、卒業研究の種を掴む。</p>						
授業計画	<p>01: 授業概要の説明 02: 勉強と研究との違い 03: 人文科学と自然科学との違い 04: 人文科学研究の紹介 05: 人文科学研究が満たすべき条件 06: 俗説と学説との違い 07: 先行研究の整理方法 08: 科学的問いの立て方 09: 論述を支える資料の性質 10: 資料の種類とそれぞれの収集・整理方法 11: 人文科学研究実践 (1): 先行研究の整理 12: 人文科学研究実践 (2): 科学的問いの設定 13: 人文科学研究実践 (3): 論述を支える資料の収集 14: 人文科学研究実践 (4): 論述を支える資料の整理 15: 人文科学研究実践 (5): 研究の文章化</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>(1) 授業前学習 (毎週2時間): 教員が事前に指示した重要語句や参考文献の予習。 (2) 授業後学習 (毎週2時間): 授業内容の復習と期末課題の準備。</p>						
授業方法	<p>(1) 板書やスクリーンを活用しながら講義を行なったのち、授業内で完結する課題を与える。学生から得た正答や名案は受講者全員で共有する。 (2) 練習問題や課題を複数人で行なう機会がある。</p>						
評価基準と評価方法	<p>(1) 授業内課題: 50% 到達目標 (1, 3) の確認。 教員が授業内で与えた課題に対して、積極的に、かつ、的確に回答したか。</p> <p>(2) 期末課題: 50% 到達目標 (2, 3) の確認。 授業内容に即した論理的文章の作成。</p>						
履修上の注意	ノート必須。 授業中の議論や作業には積極的に参加すること。						
教科書	無し。						
参考書	梅棹 忠雄 (1969) 『知的生産の技術』岩波書店 木下 是雄 (1981) 『理科系の作文技術』中央公論社						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ-	J0101B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	情報の整理方法と事実・意見の記述方法						
授業の概要	大学4年間の学習を円滑に進める上で必要と成る基礎知識を身に付ける。この授業では特に、人文科学でどのような研究が行なわれているかを学んだのち、日本語・日本文化の研究をそれぞれ実践する。						
到達目標	<p>(1) 知識・理解: a. 勉強と研究との違いを掴む。 b. 人文科学の研究が満たすべき条件を掴む。</p> <p>(2) 汎用的技能: a. 論述の手順とそれを支える資料の性質とを掴む。 b. 資料の種類とそれぞれの整理方法とを掴む。</p> <p>(3) 態度・志向性: 授業を通じて、卒業研究の種を掴む。</p>						
授業計画	01: 授業概要の説明 02: 勉強と研究との違い 03: 人文科学と自然科学との違い 04: 人文科学研究の紹介 05: 人文科学研究が満たすべき条件 06: 俗説と学説との違い 07: 先行研究の整理方法 08: 科学的問いの立て方 09: 論述を支える資料の性質 10: 資料の種類とそれぞれの収集・整理方法 11: 人文科学研究実践 (1): 先行研究の整理 12: 人文科学研究実践 (2): 科学的問いの設定 13: 人文科学研究実践 (3): 論述を支える資料の収集 14: 人文科学研究実践 (4): 論述を支える資料の整理 15: 人文科学研究実践 (5): 研究の文章化						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	(1) 授業前学習 (毎週2時間): 教員が事前に指示した重要語句や参考文献の予習。 (2) 授業後学習 (毎週2時間): 授業内容の復習と期末課題の準備。						
授業方法	(1) 板書やスクリーンを活用しながら講義を行なったのち、授業内で完結する課題を与える。学生から得た正答や名案は受講者全員で共有する。 (2) 練習問題や課題を複数人で行なう機会がある。						
評価基準と評価方法	(1) 授業内課題: 50% 到達目標 (1, 3) の確認。 教員が授業内で与えた課題に対して、積極的に、かつ、的確に回答したか。 (2) 期末課題: 50% 到達目標 (2, 3) の確認。 授業内容に即した論理的文章の作成。						
履修上の注意	ノート必須。 授業中の議論や作業には積極的に参加すること。						
教科書	無し。						
参考書	梅棹 忠雄 (1969) 『知的生産の技術』岩波書店 木下 是雄 (1981) 『理科系の作文技術』中央公論社						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	西川 純司					科目ナンバ-	J0101B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	情報の整理方法と事実・意見の記述方法						
授業の概要	大学4年間の学習を円滑に進める上で必要と成る基礎知識を身に付ける。この授業では特に、人文科学でどのような研究が行なわれているかを学んだのち、日本語・日本文化の研究をそれぞれ実践する。						
到達目標	<p>(1) 知識・理解: a. 勉強と研究との違いを掴む。 b. 人文科学の研究が満たすべき条件を掴む。</p> <p>(2) 汎用的技能: a. 論述の手順とそれを支える資料の性質とを掴む。 b. 資料の種類とそれぞれの整理方法とを掴む。</p> <p>(3) 態度・志向性: 授業を通じて、卒業研究の種を掴む。</p>						
授業計画	<p>01: 授業概要の説明 02: 勉強と研究との違い 03: 人文科学と自然科学との違い 04: 人文科学研究の紹介 05: 人文科学研究が満たすべき条件 06: 俗説と学説との違い 07: 先行研究の整理方法 08: 科学的問いの立て方 09: 論述を支える資料の性質 10: 資料の種類とそれぞれの収集・整理方法 11: 人文科学研究実践 (1): 先行研究の整理 12: 人文科学研究実践 (2): 科学的問いの設定 13: 人文科学研究実践 (3): 論述を支える資料の収集 14: 人文科学研究実践 (4): 論述を支える資料の整理 15: 人文科学研究実践 (5): 研究の文章化</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>(1) 授業前学習 (毎週2時間): 教員が事前に指示した重要語句や参考文献の予習。 (2) 授業後学習 (毎週2時間): 授業内容の復習と期末課題の準備。</p>						
授業方法	<p>(1) 板書やスクリーンを活用しながら講義を行なったのち、授業内で完結する課題を与える。学生から得た正答や名案は受講者全員で共有する。 (2) 練習問題や課題を複数人で行なう機会がある。</p>						
評価基準と評価方法	<p>(1) 授業内課題: 50% 到達目標 (1, 3) の確認。 教員が授業内で与えた課題に対して、積極的に、かつ、的確に回答したか。</p> <p>(2) 期末課題: 50% 到達目標 (2, 3) の確認。 授業内容に即した論理的文章の作成。</p>						
履修上の注意	ノート必須。 授業中の議論や作業には積極的に参加すること。						
教科書	無し。						
参考書	梅棹 忠雄 (1969) 『知的生産の技術』岩波書店 木下 是雄 (1981) 『理科系の作文技術』中央公論社						

科目区分	日本語日本文学専攻専門教育科目						
科目名	近代文学講読／近代文学を読むB						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバ-	J72220
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	探偵小説を読むこと						
授業の概要	日本近代文学のあり方を考える作業の一環として、谷崎潤一郎「途上」と芥川龍之介「報恩記」の2作品をとりあげる。それぞれの作品の時代背景、成立、構成を調査した上で、その作家像、影響関係を精査し、必要に応じて、関連する他の作品をも読解する。						
到達目標	近代以降の諸作家、諸作品、文学思潮、もしくは文学理論等について、最新の情報、最新の研究成果を理解し、説得力のある形で主体的に発信できる高度なコミュニケーション能力や表現力を身につけることができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 作家谷崎潤一郎のこと 第3回 谷崎潤一郎の作品について 第4回 谷崎潤一郎「途上」講読 導入 第5回 谷崎潤一郎「途上」講読 応用 第6回 谷崎潤一郎「途上」講読 発展 第7回 谷崎潤一郎「途上」講読 展開 第8回 谷崎潤一郎「途上」講読 まとめ 第9回 芥川龍之介のこと 第10回 芥川龍之介「報恩記」講読 導入 第11回 芥川龍之介「報恩記」講読 応用 第12回 芥川龍之介「報恩記」講読 発展 第13回 芥川龍之介「報恩記」講読 展開 第14回 2作品のまとめと筆記試験 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	近代日本の文化と歴史について学習しておくことともに、授業中に提示した本文テキストを、あらかじめ精読すること。自宅、図書館等での勉学に80時間程度は必要であろう。						
授業方法	あらかじめ精読してきた本文の読みを各自が提示して、その読みが的確であるかどうかを相互に確認する作業を継続していく講読形式。						
評価基準と評価方法	到達目標としている「高度なコミュニケーション能力や表現力が身についているか」を評価するために筆記試験を実施する。その過程をも重視し、日常的な授業に対する取組状況を注視することとする。その割合は日常的な授業に対する取組状況50%、筆記試験50%とする。						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	プリントを使用する						
参考書	授業中に適宜指示						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	近代文学史／日本文学史B						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバ-	J72140
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「文学史」の視点から見る「作品」						
授業の概要	明治・大正・昭和期の文学作品を文学史の観点から読み解く。文学作品を個々別々のものとして捉えるのではなく、様々な連鎖の中で有機的に読み解く作業をなす。細部を通して見えてくる文学史の全体像の構築が最終目標である。						
到達目標	明治・大正・昭和期の文学を時流に沿いながら深く理解し、その文化史的意味、現代的な意義を享受することができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 近代の文学とは？ 第3回 明治期の文学 導入 第4回 明治期の文学 応用 第5回 明治期の文学 展開 第6回 大正期の文学 導入 第7回 大正期の文学 応用 第8回 大正期の文学 展開 第9回 昭和期の文学 導入 第10回 昭和期の文学 応用 第11回 昭和期の文学 展開 第12回 戦後の文学 導入 第13回 戦後の文学 応用 第14回 まとめと筆記試験 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	近代日本の文化と歴史について学習し、授業中に指示した本文テキストを精読しておくこと。関連する作品を数多く読む必要があるため、自宅、図書館等での勉強に80時間程度は必要であろう。						
授業方法	あらかじめ精読してきた本文の読みを授業時間の冒頭に各自が提示して、その読みが的確であるかどうかを相互に確認する作業を継続する講読形式。						
評価基準と評価方法	到達目標としている「日本近代の文学を深く理解し、その文化史的意味、現代的な意義を享受することができる」を評価するために筆記試験を実施する。その過程をも重視し、日常的な授業に対する取組状況を注視することとする。その割合は日常的な授業に対する取組状況50%、筆記試験50%とする。						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	『日本近代文学年表』 鼎書房 ISBN978-4-907282-30-1 C0091						
参考書	適宜、指示する。						



科目区分	日本語日本文学専攻専門教育科目						
科目名	近代文学特殊講義／近代文学を学ぶB						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバ-	J73370
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	時空を超えた物語						
授業の概要	文字面のみが主として問題となる高校までの国語に対し、大学で研究する文学には、映画等、周縁の分野との関連に注目し、想像力を働かせることで読みとれるものがあるという側面がある。文学作品を新たな角度から読み進める試みの一部として、映画(記録フィルムの種類を含む)を中心にして、様々な視点から物語の本質を探究することにする。						
到達目標	高校までの国語と、大学で研究する文学との違いを理解した上で、より深く、文学作品や映画、ドラマを楽しみ、説得力のある形で、その魅力を主体的に発信できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 梶尾真治の世界 第3回 『つばき、時跳び』の世界 第4回 『つばき、時跳び』の時間 第5回 並行世界 第6回 『黄泉がえり』の世界 第7回 クロノス・ジョウンターの伝説 第8回 タイムマシンの問題 第9回 この胸いっぱいのお愛を 第10回 ビューアーな愛の物語 第11回 ナミヤ雑貨店の奇蹟 第12回 時空を超えること 第13回 タイムライン 第14回 旅と文学・筆記試験 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	数多く、文学作品を読み、映画、ドラマを観るとともに、授業中に提示した本文テキストを、あらかじめ精読すること。自宅、図書館等での勉強に80時間程度は必要であろう。						
授業方法	講義形式に適宜、講読的要素を加味する。各自が、あらかじめ用意してきたものを、授業時間中に提示し、それを、どのように位置づけすればよいかを受講生間で相互に確認する作業を適宜、実施する。						
評価基準と評価方法	到達目標としている「大学で研究する文学との違いを理解し、その魅力を主体的に発信できる」を評価するために筆記試験を実施する。その過程をも重視し、日常的な授業に対する取組状況を注視することとする。その割合は日常的な授業に対する取組状況50%、筆記試験50%とする。						
履修上の注意	好奇心を旺盛にして積極的な授業参加を心がけること						
教科書	梶尾真治『つばき、時跳び』(徳間文庫) ISBN: 978-4-19-894299-1						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	近代文学の基礎／近代文学を読むA						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバ-	J72210
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	犯罪の観点から小説を読む						
授業の概要	日本近代文学のあり方を考える作業の一環として、泉鏡花「外科室」と志賀直哉「范の犯罪」の2作品をとりあげる。それぞれの作品の時代背景、成立、構成を調査した上で、その作家像、影響関係を精査し、必要に応じて、関連する他の作品をも読解する。						
到達目標	近代以降の諸作家、諸作品、文学思潮、もしくは文学理論等について、最新の情報、最新の研究成果を理解し、説得力のある形で主体的に発信できる高度なコミュニケーション能力や表現力を身につけることができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 作家泉鏡花のこと 第3回 泉鏡花の作品について 第4回 泉鏡花「外科室」講読 導入 第5回 泉鏡花「外科室」講読 応用 第6回 泉鏡花「外科室」講読 発展 第7回 泉鏡花「外科室」講読 展開 第8回 泉鏡花「外科室」講読 まとめ 第9回 志賀直哉のこと 第10回 志賀直哉「范の犯罪」講読 導入 第11回 志賀直哉「范の犯罪」講読 応用 第12回 志賀直哉「范の犯罪」講読 発展 第13回 志賀直哉「范の犯罪」講読 展開 第14回 2作品のまとめと筆記試験 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	近代日本の文化と歴史について学習しておくとともに、授業中に提示した本文テキストを、あらかじめ精読すること。自宅、図書館等での勉学に80時間程度は必要であろう。						
授業方法	あらかじめ精読してきた本文の読みを各自が提示して、その読みが的確であるかどうかを相互に確認する作業を継続していく講読形式。						
評価基準と評価方法	到達目標としている「高度なコミュニケーション能力や表現力が身につけているか」を評価するために筆記試験を実施する。その過程を把握するために日常的な授業に対する取組状況を注視することとする。その割合は日常的な授業に対する取組状況50%、筆記試験50%とする。						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	プリントを使用する						
参考書	授業中に適宜指示する						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	近代文学の研究／近代文学を学ぶA						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバ-	J73360
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	時空を超えた物語						
授業の概要	文字面のみが主として問題となる高校までの国語に対し、大学で研究する文学には、映画等、周縁の分野との関連に注目し、想像力を働かせることで読みとれるものがあるという側面がある。文学作品を新たな角度から読み進める試みの一部として、映画(記録フィルムの類を含む)を中心にして、様々な視点から物語の本質を探究することにする。						
到達目標	高校までの国語と、大学で研究する文学との違いを理解した上で、より深く、文学作品や映画、ドラマを楽しみ、説得力のある形で主体的に発信できる高度なコミュニケーション能力や表現力を身につけることができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 浅田次郎の世界 第3回 『おもかげ』のこと 第4回 時空を超える旅 第5回 タイタニック 第6回 ある日どこかで 第7回 タイムパラドックス 第8回 過去と未来 第9回 オーロラの彼方へ 第10回 鉄道員 第11回 メトロに乗って 第12回 ビューアーな愛の物語 第13回 フォーエバー・ヤング 第14回 旅と文学・筆記試験 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	数多く、文学作品を読み、映画、ドラマを観るとともに、授業中に提示した本文テキストを、あらかじめ精読すること。自宅、図書館等での勉強に80時間程度は必要であろう。						
授業方法	講義形式に適宜、講読的要素を加味する。各自が、あらかじめ用意してきたものを、授業時間中に提示し、それを、どのように位置づけすればよいかを受講生間で相互に確認する作業を適宜、実施する。						
評価基準と評価方法	到達目標としている「高度なコミュニケーション能力や表現力が身についているか」を評価するために筆記試験を実施する。その過程をも重視し、日常的な授業に対する取組状況を注視することとする。その割合は日常的な授業に対する取組状況50%、筆記試験50%とする。						
履修上の注意	好奇心を旺盛にして積極的な授業参加を心がけること						
教科書	浅田次郎『おもかげ』毎日新聞出版 ISBN:978-4-620-10832-2						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	行書法／書道実技（行書）						
担当教員	西山 恵里香					科目ナンバ-	J71430
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	行書の基本用筆を理解・習得した上で、行書の古典作品を臨書し、創作につなげる。						
授業の概要	行書の特徴を学習し、それを基に行書の用筆法を習得する。 行書の代表的な古典を臨書することにより、用筆法だけではなく、古典の歴史的背景も学ぶ。 学習した行書の用筆法をいかし、半切の創作を行う。						
到達目標	①行書の基本的な知識と技法を習得する。【知識・理解】【汎用的技能】 ②行書の代表的な古典に触れ、用筆法および歴史的背景を理解することができる。【知識・理解】						
授業計画	1、ガイダンス 硬筆による行書の基礎を習得する（行書の用筆法を習得し、行書の特徴を理解する。） 2、王羲之『蘭亭序』について①～『蘭亭序』の字の結構を学ぶ～ 四文字臨書 3、王羲之『蘭亭序』について②～『蘭亭序』の字の結構を学ぶ～ 六文字臨書 4、王羲之『蘭亭序』について③～『蘭亭序』の字のリズムを学ぶ～ 四文字臨書 5、王羲之『蘭亭序』について④～『蘭亭序』の字のリズムを学ぶ～ 六文字臨書 6、王羲之『蘭亭序』について⑤～半切作品のまとめ方～ 7、王羲之『蘭亭序』について⑥～半切作品のまとめ方 仕上げ～ 8、米芾、王鐸、傅山などの古典を学ぶ①～歴史的背景の理解～ 9、米芾、王鐸、傅山などの古典を学ぶ②～六文字臨書～ 10、米芾、王鐸、傅山などの古典を学ぶ③～細字臨書～ 11、日本の行書作品の学習①～六文字臨書～ 12、日本の行書作品の学習②～半切臨書～ 13、創作① 創作について 14、創作② 作品の変化について（墨の濃淡、字の大小等） 15、創作③ 半切作品の清書						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業計画に従って、次回授業ですることに目を通しておく。（学習時間：2時間） 授業後：授業内に出来なかった課題や技法を次回授業までに出来るようにしておく。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義：はじめの約30分で、各回講義で扱う古典の解説を行う。 実技：古典の歴史的な背景を理解したうえで、臨書を行う。						
評価基準と評価方法	提出作品50% 到達目標①の到達度確認 筆記試験30% 到達目標②の到達度確認 平常点20% 取り組み姿勢						
履修上の注意	書道の用意（筆、半紙、墨、新聞紙等）は、講義第2回目から毎時間必ず持参すること。 半紙は多めに持って来ること。 携帯電話のマナーは厳守。私語は慎む。 書展を行う可能性があるため、それに出品する作品を制作してもらうことがある。						
教科書	蘭亭叙〈五種〉[東晋・王羲之／行書]二玄社						
参考書	必要に応じてプリントを配布します。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	硬筆／書道実技（硬筆）						
担当教員	西山 恵里香					科目ナンバ-	J71420
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	文字を正しく丁寧に用途に応じて書けるよう、そのポイントを習得する。 また、それに必要な集中力を身につける。 今一度自分の文字を見直すことにより、より良い字が書けるよう意識する。						
授業の概要	楷書と行書の書き方を習得し、縦書き、横書きの書き方を学習する。 さらに、実用としてはがき、手紙、掲示文の書き方も学習する。 正しく丁寧に書けるようになるとともに、漢字の基本事項として常用漢字の筆順や部首名の確認も行う。						
到達目標	①文字を正しく丁寧に、用途に応じて書ける。 日常生活で美しい字を書くことを意識できるようになる。【汎用的技能】 ②漢字の基本事項を理解し、草書体や旧字体、書写体も読める。【知識・理解】						
授業計画	1、ガイダンス、漢字の基本事項、基本点画について 2、楷書体について 3、行書体について 4、楷書体と行書体を書き分ける 5、平仮名と片仮名について 6、縦書きと横書きについて 7、はがき、手紙について 8、掲示文の書き方について 9、質疑応答と実技および基本事項に関するテスト 10、筆ペンによる実用書—基本用筆について、名前を書く 11、筆ペンによる実用書—熨斗書について 12、筆ペンによる実用書—暑中見舞い、年賀状を書く 13、手紙を書く—手紙文の書き方①（草稿） 14、手紙を書く—手紙文の書き方②（清書） 15、手紙を書く—筆ペンで宛名を書く、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	講義前準備学習：各講義で扱う内容を確認し、実際に書いて予習してくる。（学習時間2時間） 講義後学習：講義で学んだ内容を自宅でも確認、練習する。 理論に関しては、小テストを行うのでしっかりと復習してくる。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義：各講義で扱う内容の解説をはじめの約30分で行う。小テストを行うこともある。 実技：各自で練習問題に取り組む。						
評価基準と評価方法	提出作品50% 到達目標①の到達度確認 小テスト30% 到達目標②の到達度確認 平常点20% 取り組み姿勢						
履修上の注意	書道実技（硬筆）1限は硬筆書写検定3級受験レベル 書道実技（硬筆）2限は硬筆書写検定2級受験レベル  それにともない、実技能力の確認を第一回の講義で行う。その後、授業登録までにクラス分けを発表する。  毎時提出課題があるため、欠席すると提出物もなく、評価できないので注意すること。  私語は慎む。携帯電話のマナーは厳守する。						
教科書	『硬筆書写検定・3級合格のポイント』日本習字普及協会、1200円＋税 適宜プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	硬筆／書道実技（硬筆）						
担当教員	西山 恵里香					科目ナンバ-	J71420
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	文字を正しく丁寧に用途に応じて書けるよう、そのポイントを習得する。 また、それに必要な集中力を身につける。 今一度自分の文字を見直すことにより、より良い字が書けるよう意識する。						
授業の概要	楷書と行書の書き方を習得し、縦書き、横書きの書き方を学習する。 さらに、実用としてはがき、手紙、掲示文の書き方も学習する。 正しく丁寧に書けるようになるとともに、漢字の基本事項として常用漢字の筆順や部首名の確認も行う。						
到達目標	①文字を正しく丁寧に、用途に応じて書ける。 日常生活で美しい字を書くことを意識できるようになる。【汎用的技能】 ②漢字の基本事項を理解し、草書体や旧字体、書写体も読める。【知識・理解】						
授業計画	1、ガイダンス、漢字の基本事項、基本点画について 2、楷書体について 3、行書体について 4、楷書体と行書体を書き分ける 5、平仮名と片仮名について 6、縦書きと横書きについて 7、はがき、手紙について 8、掲示文の書き方について 9、質疑応答と実技および基本事項に関するテスト 10、筆ペンによる実用書—基本用筆について、名前を書く 11、筆ペンによる実用書—熨斗書について 12、筆ペンによる実用書—暑中見舞い、年賀状を書く 13、手紙を書く—手紙文の書き方①（草稿） 14、手紙を書く—手紙文の書き方②（清書） 15、手紙を書く—筆ペンで宛名を書く、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	講義前準備学習：各講義で扱う内容を確認し、実際に書いて予習してくる。（学習時間2時間） 講義後学習：講義で学んだ内容を自宅でも確認、練習する。 理論に関しては、小テストを行うのでしっかりと復習してくる。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義：各講義で扱う内容の解説をはじめの約30分で行う。小テストを行うこともある。 実技：各自で練習問題に取り組む。						
評価基準と評価方法	提出作品50% 到達目標①の到達度確認 小テスト30% 到達目標②の到達度確認 平常点20% 取り組み姿勢						
履修上の注意	書道実技（硬筆）1限は硬筆書写検定3級受験レベル 書道実技（硬筆）2限は硬筆書写検定2級受験レベル  それにともない、実技能力の確認を第一回の講義で行う。その後、授業登録までにクラス分けを発表する。  毎時提出課題があるため、欠席すると提出物もなく、評価できないので注意すること。  私語は慎む。携帯電話のマナーは厳守する。						
教科書	『硬筆書写検定・3級合格のポイント』日本習字普及協会、1200円＋税 適宜プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	広報広告と社会						
担当教員	西川 純司					科目ナンバ-	J72600
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	広告・広報（PR）活動の理解						
授業の概要	<p>広告・広報（PR）活動についての基本的な知識を習得することを目指す。私たちはふつう広告や広報を受け取る側において、それらがどのようにして制作されているのかを知る機会がほとんどない。しかし、広告や広報が私たちに届けられるまでには多くの人や組織が関わり、多大な時間とお金がかけている。この講義では、広告の分類や広告に関わる組織、広告表現、広告関連の法規や規制、広報の多様性など、広告・広報活動を理解するために必要な基礎的な知識を学ぶ。実際にテレビCMやネット広告、クリエイターの仕事、広報活動などを見ながら解説していく。</p>						
到達目標	<p>（1）広告や広報の送り手（広告主・広告会社）がどのような流れで広告・広報を制作しているのか、その実務的なプロセスについて体系的な知識を習得することができる。【知識・理解】</p> <p>（2）実際の広告物を専門用語を使って分析できる。【汎用的技能】</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 インTRODクシヨN</li> <li>2 広告とは何か</li> <li>3 マーケティングと広告</li> <li>4 広告主と広告会社</li> <li>5 広告費</li> <li>6 広告表現①：比較広告</li> <li>7 広告表現②：アートディレクターの仕事</li> <li>8 広告媒体</li> <li>9 広告の効果</li> <li>10 広告関連の法規と規制</li> <li>11 インターネット広告</li> <li>12 広報（PR）の基本</li> <li>13 さまざまな広報活動</li> <li>14 レポート検討会</li> <li>15 まとめ</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習： 各回授業で扱うテーマに関するニュースや新聞記事を下調べする。（学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習： 授業で取り上げた内容の要点を確認・整理する。（学習時間：2時間）</p>						
授業方法	講義。ただし簡単なグループワークをする機会を設ける。						
評価基準と評価方法	<p>期末レポート 70%： 授業で学習した内容を踏まえたレポートが作成できているか評価する。到達目標（1）および（2）の到達度の確認。</p> <p>授業態度 30%： 各回提出のリアクションペーパーの内容・記述の的確さを評価する。到達目標（1）の到達度の確認。 なお、第14回にレポート検討会を実施し、レポート内容に対する評価をフィードバックする。</p>						
履修上の注意	2/3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。						
教科書	毎回プリントを配布する。						
参考書	<p>岸志津江・田中洋・嶋村和恵、『現代広告論 [新版]』、有斐閣、2008年</p> <p>日本パブリックリレーションズ協会編、『改訂版 広報・PR概論』、同友館、2012年</p>						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	古典文学史／日本文学史A						
担当教員	田中 まき					科目ナンバ-	J72130
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	古典文学の歴史を学び、それぞれの作品が生み出された歴史的な意味を考察する。						
授業の概要	古典文学がそれぞれの時代にどのように現れ、どのように享受されて来たのか考え、その特徴を講義する。						
到達目標	(1) 古典文学史について理解し、その流れを説明できる。【知識・理解】 (2) 古典文学作品の名称や作者名、その特徴について説明できる。【知識・理解】 (3) 古典文学に対して興味・関心を持って学び、それについて発信し、表現できる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 時代区分と『古事記』『日本書紀』 第2回 『万葉集』 第3回 漢文学の隆盛と勅撰和歌集の成立 第4回 物語文学 第5回 女流日記・随筆 第6回 歴史物語 第7回 説話集 第8回 和歌と歌学 第9回 軍記物語 第10回 能・狂言 第11回 文学の大衆化(浮世草子) 第12回 俳諧と松尾芭蕉 第13回 浄瑠璃と歌舞伎 第14回 和歌と国学 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：古典文学史の流れが理解できるよう、教科書を読んで整理する。(学習時間：2時間) 授業後学習：古典作品の名称や作者名、その特徴について説明できるよう復習する。(学習時間：2時間)						
授業方法	講義 文学史の展開や古典作品についてディスカッションやプレゼンテーションにも取り組む。						
評価基準と評価方法	期末試験 70% 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 小テスト 20% 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 取り組み姿勢 10% 到達目標(3)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	範囲を示して、小テストを実施する。 3分の2以上の出席に満たない者は試験を受ける資格がないものとする。						
教科書	『原色 新日本文学史[増補版]』(文英堂)978-4-578-27192-5						
参考書	適宜、授業中に提示する。						



科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	古典文学特殊講義／古典文学を学ぶB						
担当教員	東野 泰子					科目ナンバ-	J73350
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	鎌倉時代の日本文学を読むことを通して、現代につながる日本文化の独自性は何かを考える。						
授業の概要	武士や僧侶が権力を握り、文化の主たる担い手となっていた鎌倉時代には、戦う武士を描いた軍記物語や僧侶によって説かれた仏教説話が発達した。また、現代の日本語文につながる和漢混淆文という文体をもつ鎌倉時代文学は一般に広く知られた作品が多数存在し、現代の文化にも影響を与えている。広く知られた親しみやすい教材を用いて、鎌倉時代文学の基本的な事項を学び、これらの作品の何が人を感動させ、ながく読みつがれてきたのかについて考察する。						
到達目標	鎌倉時代文学史のおよその流れを説明できる。【知識・理解】 鎌倉時代文学の主要作品について、中学高校レベルの知識を確実なものにし、自分の言葉で説明できるようにする。【知識・理解】 鎌倉時代から現代にまでつながる日本文化の独自性について、自分の考えを述べ、新たな文化の創造について興味を持つ。【態度・志向性】						
授業計画	第一回 はじめに一現代の日本文化と古典文学 第二回 新古今和歌集 第三回 方丈記 ゆく川の流れ 第四回 平家物語① 祇園精舎 祇王 第五回 平家物語② 木曾最期 第六回 平家物語③ 敦盛最期 第七回 平家物語④ 那須与一 第八回 平家物語⑤ 先帝入水 剣巻「膝丸」「髭切」 第九回 宇治拾遺物語① 尼、地蔵をみること 第十回 宇治拾遺物語② 検非違使忠明 第十一回 十訓抄 大江山 第十二回 沙石集① 「くくるくつ」と「ひりひつ」 第十三回 沙石集② 或姫君事 第十四回 徒然草 つれづれなるままに 第十五回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習として、次回授業で扱う教材作品について、作品の概要を辞書等で調べ、中学高での学習内容を復習し、教材の意義について自分なりに考えておく。また、配付資料の教材文について、大意を短文にまとめる。（学習時間1時間程度）。 授業後学習として、教材文の現代語訳をし、文中の最重要ポイントをまとめる。また、自分なりの疑問点を挙げ、それに対する答えを辞書等で調べて書くことを試みる。（学習時間3時間程度）。						
授業方法	講義と演習。 毎回、授業のはじめに、前回授業の教材文のまとめや今回授業の教材文の大意を書いて提出してもらう（リアクションペーパー）。 授業で扱った教材文について、代表者に、中学高校レベルの解説をする簡単なプレゼンテーションを行ってもらう。						
評価基準と評価方法	平常点（出席状況、リアクションペーパー等の提出、小テスト）60%程度、期末レポート40%程度						
履修上の注意	理由のない遅刻、早退、途中退席は控えること。 授業中のスマートフォン、タブレット等は使用不可。電子辞書は使用可。						
教科書	教科書は指定しない。 毎時、資料を配付する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	古典文学の基礎／古典文学を読むA						
担当教員	田中 まき					科目ナンバ-	J72190
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	古典文学読解の基礎と『伊勢物語』の講読						
授業の概要	『伊勢物語』は在原業平とおぼしき「男」を主人公にした平安時代の歌物語である。その男の、様々な女性との恋のやり取りや、惟喬親王、友人との親愛の情などが百二十五章段に描かれている。本講義では、古文読解の能力を修得しながら、『伊勢物語』の本文を読み味わう。						
到達目標	(1) 古典文学史における『伊勢物語』の位置が説明できる。【知識・理解】 (2) 『伊勢物語』のおおよその口語訳ができる。【知識・理解】 (3) 基本的な古典語彙、文語文法などについて理解し、説明できる。【汎用的理解】						
授業計画	第1回 物語文学と『伊勢物語』の概説 第2回 『伊勢物語』の成立と構成について 第3回 『伊勢物語』第1段について 第4回 『伊勢物語』第4段について 第5回 『伊勢物語』第5段について 第6回 『伊勢物語』第6段について 第7回 『伊勢物語』第9段前半について 第8回 『伊勢物語』第9段後半について 第9回 『伊勢物語』第23段について 第10回 『伊勢物語』第23段について 第11回 『伊勢物語』第41段について 第12回 『伊勢物語』第69段について 第13回 『伊勢物語』第87段前半について 第14回 『伊勢物語』第87段後半について 第15回 『伊勢物語』の生成と享受についてのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：文語文法などの基礎的な知識を事前に学習する。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で取り上げた章段の読解を確認し、文法事項を整理する。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義と発表および質疑応答（プレゼンテーションおよびディスカッション）						
評価基準と評価方法	試験（期末試験と小テスト）60% 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 担当発表 30% 到達目標(2)(3)に関する到達度の確認。 平常点（質疑応答など）10% 到達目標(2)(3)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	各自に担当発表を課す。 遅刻、欠席は厳に慎むこと。 3分の2以上の出席に満たない者は試験を受ける資格がないものとする。						
教科書	『新校注 伊勢物語』片桐洋一・田中まき校注（和泉書院）						
参考書	『伊勢物語全読解』片桐洋一（和泉書院） 新編日本古典文学全集『伊勢物語』福井貞助（小学館） 新日本古典文学大系『伊勢物語』秋山 虔（岩波書店） 『伊勢物語全評釈』竹岡正夫（右文書院）						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	古典文学の研究／古典文学を学ぶA						
担当教員	田中 まき					科目ナンバ-	J73340
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	和歌文学と『古今和歌集』の研究						
授業の概要	<p>まず、和歌文学の歴史や歌体、修辞技巧などの和歌の特徴について講義し、さらには、最初の勅撰和歌集『古今和歌集』の成立や構成について、また、表現や歌語の問題について取り上げる。</p> <p>和歌を活字で読解して行くだけでなく、古写本の画像などを提示して、平安和歌の実態にも触れて行きたい。</p>						
到達目標	<p>(1)和歌の歌体や修辞技巧について理解し、説明できる。(知識・理解)</p> <p>(2)和歌文学における『古今和歌集』の歴史的位置や特徴を理解し、説明できる。(知識・理解)</p> <p>(3)和歌文学や古写本への興味・関心を持ち、それを具体的に発信し、表現できる。(態度・志向性)</p>						
授業計画	<p>第1回 和歌のリズムと歌体</p> <p>第2回 万葉仮名と『万葉集』</p> <p>第3回 平仮名と平安和歌</p> <p>第4回 和歌の修辞技巧：掛詞・縁語など</p> <p>第5回 屏風歌と歌合</p> <p>第6回 『古今和歌集』の成立とそのほかの勅撰和歌集</p> <p>第7回 『古今和歌集』の構成(部立・配列)</p> <p>第8回 『古今和歌集』の四季の歌</p> <p>第9回 『古今和歌集』の恋の歌</p> <p>第10回 『古今和歌集』の賀の歌</p> <p>第11回 『古今和歌集』の物名の歌</p> <p>第12回 『古今和歌集』の伝本</p> <p>第13回 『古今和歌集』の古注釈</p> <p>第14回 『古今和歌集』の影響と古今伝授</p> <p>第15回 まとめと試験</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前準備学習：次回テーマについて指示した内容を予習する。(学習時間：2時間)</p> <p>授業後学習：授業で学んだ和歌の特徴について確認し、復習する。</p> <p>授業で提示した古写本の文字が読めるようにする。(学習時間：2時間)</p>						
授業方法	和歌文学と『古今和歌集』について講義する。 古写本の読解についてはグループワークやディスカッションも取り入れて演習する。						
評価基準と評価方法	<p>期末試験 70% 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。</p> <p>小テスト 20% 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。</p> <p>授業に対する取り組み 10% 到達目標(3)に関する到達度の確認。</p>						
履修上の注意	遅刻、欠席を厳に慎むこと。 3分の2以上の出席に満たない場合は、単位認定できない。						
教科書	教科書は指定しない。毎回、資料を配付する。						
参考書	<p>笠間文庫『古今和歌集』(笠間書店)</p> <p>新日本古典文学大系『古今和歌集』(岩波書店)</p> <p>新日本古典文学全集『古今和歌集』(小学館)</p> <p>その他については、授業中に提示する。</p>						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	古文講読／古典文学を読むB						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ-	J72200
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	古典講読を通じた書誌学・国文法の理解						
授業の概要	各受講者が演習発表で取り上げる古典作品をひとつ選んだのち、まずは、古典に関する書誌学的知識を身に付ける。次いで、影印本の翻刻、古典日本語の直訳、難解語句に対する注釈を行ない、講読資料にまとめ上げる。更には、話す力および聞く力の向上を図って、発表担当者と受講者との質疑応答も行なう。						
到達目標	<p>(1) 知識・理解:</p> <p>a. 古典に関する書誌学知識を得る。</p> <p>b. 崩し字を読む力を得る。</p> <p>(2) 汎用的技能:</p> <p>a. 他者との意見交換や議論ができる。</p> <p>b. 学説が必ずしも定まっていないことに意識的である。</p> <p>c. 国文法の基礎を理解し、古典読解や日本語理解に役立てることができる。</p> <p>(3) 態度・志向性:</p> <p>授業を通じて、卒業研究の種を掴む。</p>						
授業計画	<p>01: 授業概要、授業計画、到達目標の説明</p> <p>02: 現行古典テキストと影印本との比較</p> <p>03: 影印本の翻刻</p> <p>04: 古典日本語の直訳とその難しさ</p> <p>05: 古典講読 (1): 書誌情報の整理</p> <p>06: 古典講読 (2): 翻刻の基本方針</p> <p>07: 古典講読 (3): 崩し字をどう起こすか</p> <p>08: 古典講読 (4): 漢字の崩し字</p> <p>09: 古典講読 (5): 古典日本語の名詞</p> <p>10: 古典講読 (6): 古典日本語の動詞</p> <p>11: 古典講読 (7): 古典日本語の統語</p> <p>12: 古典講読 (8): 直訳と意訳との違い</p> <p>13: 古典講読 (9): 原文をどの程度直訳するか</p> <p>14: 全体のまとめと期末課題指導</p> <p>15: 期末課題添削</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>(1) 授業前学習 (毎週2時間): 教員の指導を踏まえて、講読資料を作成。</p> <p>(2) 授業後学習 (毎週2時間): 授業内容の復習と期末課題の準備。</p>						
授業方法	講義および演習。演習発表の担当者が受講者および教員と質疑応答を行ない、そこから得られた知見を受講者全員で共有する。						
評価基準と評価方法	<p>(1) 授業内課題: 60%</p> <p>到達目標 (1, 3) の確認。</p> <p>教員が授業内で与えた課題に対して、積極的に、かつ、的確に回答したか。</p> <p>読み手に配慮した講読資料を作成し、古典講読を円滑に進めたか。</p> <p>(2) 期末課題: 40%</p> <p>到達目標 (2, 3) の確認。</p> <p>授業内容に即した論理的文章の作成。</p> <p>特段の理由無く3回以上欠席した者は、その最終成績を0点とする。</p>						
履修上の注意	特段の理由無く欠席した者に対する学習補助は一切行なわない。						
教科書	無し。						

参考書	児玉 幸多 (編) (1970) [2013] 『くずし字解説辞典 普及版』 東京堂出版 児玉 幸多 (編) (1981) [2011] 『くずし字用例辞典 普及版』 東京堂出版 飯倉 洋一 (編) (2017) 『アプリで学ぶくずし字 くずし字学習アプリKuLAの使い方』 笠間書院
-----	--

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	茶道文化と美術／茶道文化を学ぶ／茶道史						
担当教員	守屋 雅史					科目ナンバ-	J72500
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本における喫茶文化の歴史の変遷と、喫茶における美意識や精神性の形成と展開を概観する。						
授業の概要	今日世界では様々な「お茶」が飲まれている。中でも日本は中国の喫茶文化の大きな影響を三度も受けながら、「茶を喫すること」を特別な芸能にまで昇華させてきた。文芸や仏教との関わりの中で「喫茶」に関する美意識や精神性をとぎすませ、喫茶空間としての茶室の形態を整えながら喫茶に適した道具類も選定してきた。奈良期末から始まる日本の喫茶文化の歴史的な変遷を中心に、美意識や精神性の推移にも留意しながら、日本の伝統文化の特質を美術の視点とともに考察する。						
到達目標	(1) 関連する様々な事象の知識とともに、「喫茶」における日本の伝統文化のあり方や美的な傾向について深く理解することができる。【知識・理解】 (2) 「茶の湯」や「煎茶」という芸能を切り口に、日本の伝統文化の特色を考察し、次世代の人々や諸外国の人々に紹介することができるようになる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 イントロダクションー「お茶」とは何かー 第2回 中国唐代の「煮茶」ー陸羽と盧仝、法門寺出土茶器ー 第3回 奈良末～平安期の「茶」ー嵯峨天皇と季御読経ー 第4回 中国宋代の「点茶」と鎌倉期の「茶」ー明菴栄西と金沢文庫文書ー 第5回 南北朝・室町期の「茶」ー会所の茶、茶寄合(闘茶)、門前の茶屋ー 第6回 「茶の湯」の始まりと茶の湯道具ー珠光と武野紹鷗ー 第7回 「茶の湯」の大成と「侘教寄」ー御茶湯御政道と千利休ー 第8回 武家の「茶の湯」の展開ー古田織部・金森宗和・小堀遠州・片桐石州ー 第9回 公家の「茶の湯」の展開ー後水尾天皇から近衛家熙までー 第10回 茶道の成立と家元制度ー千宗旦と三千家ー 第11回 中国元明清時代の「泡茶」と日本の「煎茶」の始まり 第12回 煎茶文化の展開ー売茶翁高遊外、文人茶、宗匠茶ー 第13回 煎茶道具と茗識図録の時代 第14回 「茶の湯」の近代化と近代数寄者の登場 第15回 茶道文化と美術のまとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：第1回の授業で指示された、毎授業ごとの教科書の指定ページを读了し、図書館にある下記の参考書などを用いて、各回の授業のテーマに関する下調べをしておく。(学習時間：2時間) 授業後学習：ラインマーカーなどを用いて、配布したレジメのプリントの重点事項を確認し整理しておく。(学習時間：2時間) なお、日常生活の中で、近隣の博物館・美術館で開催される「喫茶に関する歴史や美術」などの展覧会を観覧すること、「お茶」に関連した新聞記事やテレビの特別番組などを視聴すること、「喫茶」に関する疑問点を機会のある時に質問して理解しておくことなども、授業外の学習における大切な取り組みである。						
授業方法	基本的には、各回設定のテーマに基づく講義を行なう。必要に応じて受講生の理解を深めるために、PCのプレゼンテーションソフトやインターネットを利用して、関連する内容の静止画像や動画などを表示・放映する。また、博物館に関連する新聞記事などの輪読、Q & A方式の双方向授業、グループやペアによる討議なども、時間との兼ね合いを見ながら実施してゆく。 なお、毎授業ごとに教科書の指定箇所に関するリアクションペーパーを用いた小テストを行う。						
評価基準と評価方法	期末試験70%：授業で扱った講義内容に関して、主として到達目標(1)の【知識・理解】の観点から評価する。 レポート15%：出題した課題に対する、内容の整理、自身のコメントや疑問点などの記述に対して、主として到達目標(2)の【汎用的技能】の観点から評価する。 平常点15%：授業や質疑応答への意欲、リアクションペーパーのコメントなどに関して、総合的に判断して評価する。 課題に対するフィードバックの方法 平常時の質問は授業中に解説し、レポートは講評を加えて返却する。						
履修上の注意	(1) 出席が授業回数数の3分の2以上になるように心がけること。 (2) 配布したレジメのプリントはA4版ポケットファイル(20ポケット)に綴じて、毎回の授業に持参すること。 (3) レポートとして、近隣の博物館等の茶の湯などの展覧会を見学したうえで内容をまとめる課題を出す場合があり、その際は交通費や入館料等は受講生の自己負担である。						
教科書	『千利休の「わび」とはなにか』神津朝夫著 KADOKAWA(角川ソフィア文庫) [2015] ISBN:978-4-04-408009-9 (本体価格:840円+消費税) なお、各回の授業ごとにレジメのプリントを適宜配布する。						
参考書	『茶の湯の歴史』神津朝夫著 角川学芸出版(角川選書455) [2009] ISBN:978-4-04-703455-6 『茶道具の鑑賞と基礎知識』茶道資料館編 淡交社 [2002] ISBN:978-4-473-01862-5 『茶道教養講座⑤ 千利休』八尾嘉男著 淡交社 [2016] ISBN:978-4-473-04135-7 『千利休「天下一」の茶人』田中仙堂著 宮帯出版社(茶人叢書) [2019] ISBN:978-4-8016-0118-5 『淡交社50周年記念出版 茶道学大系』(全11巻) 淡交社 [1999-2001] ISBN:978-4-473-01661-4 ほか 『茶道聚錦』(全13巻) 小学館 [1983-87] ISBN:978-4-093-84001-9 ほか 『茶道具の世界』(全15巻) 淡交社 [1999-2001] ISBN:978-4-473-01701-7 ほか 『煎茶道具名品集』小川後楽著 淡交社 [2003] ISBN:978-4-473-03104-7						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	社会言語学演習／社会言語学演習B						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ-	J73270
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	方言調査結果の集計と分析						
授業の概要	社会言語学は、社会とのかかわりにおいて言語をとらえようとする研究分野である。この演習では、方言の動態を調査し、その結果をまとめることで、地域方言研究のあり方を具体的かつ体系的に習得することを目指す。後期は、夏休みに実施する方言調査結果の集計と分析の方法について、体系的に学ぶ。						
到達目標	(1)調査した結果から、データを整理し、客観的な分析ができるようになる。(汎用的技能(2)) (2)分析結果を、説得力のある形で発表できるようになる。(汎用的技能(1)) (3)発表に対して、積極的に質疑できるようになる。(汎用的技能(3))						
授業計画	※ 8月初旬に方言調査を行なう。詳細は別途指示する。 第1回 調査票の回収 第2回 調査結果の管理方法 第3回 表計算ソフトでの集計方法 第4回 データ入力 第5回 入力データの見直し 第6回 調査結果の分析方法 第7回 各グループの分析方法の検討・確認 第8回 データ分析 第9回 データ分析(前回の続き) 第10回 発表内容と方法の検討 第11回 中間発表 第12回 発表内容と方法の見直し 第13回 最終発表(前半グループ) 第14回 最終発表(後半グループ) 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業計画前半のデータ入力やデータの分析は授業時間外での作業が必須となる。(学習時間:授業前後各2時間) また、授業計画後半の結果発表に際しては、発表内容の検討を授業時間内で行い、それによって授業外でも資料の作成を行う。(学習時間:授業前後各2時間)						
授業方法	演習:グループワークを基本とする。各グループで調査結果を整理・分析し、発表する。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価(授業時の質疑応答含む)40%(到達目標(1)に関する到達度の確認) 中間発表(質疑含む)20%(到達目標(2)(3)に関する到達度の確認) 最終発表(質疑含む)・レポート40%(到達目標(2)(3)に関する到達度の確認)						
履修上の注意	社会言語学調査法／社会言語学演習Aを履修した学生を対象とする。調査の集計には、共同作業を伴う。共同作業に責任を負わない者の履修は、控えること。						
教科書	プリントを配布するほか、授業中に紹介する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	社会言語学調査法／社会言語学演習A						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ-	J73260
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	地域方言調査の企画・立案・実施						
授業の概要	社会言語学は、社会とのかかわりにおいて言語をとらえようとする研究分野である。この演習では、方言の動態を調査し、その結果をまとめることで、地域方言研究のあり方を具体的かつ体系的に習得することを目指す。前期は、方言調査の実施にあたって、ことばの調査に関する企画・立案のしかたを学ぶ。夏休み中に、方言調査を実施する。調査研究を通して、人間同士の円滑なコミュニケーションとは何か、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションとは何かについてもいっしょに考えてみたい。						
到達目標	(1) 調査内容をよく理解したうえで、的確な調査票を作成できるようになる。(知識・理解(1)) (2) 方言調査の全体像を把握し、実践できるようになる。(汎用的技能(3))						
授業計画	<p>第1回 方言を調査すること 第2回 先行調査・研究の検討① 方言概説—音声・音韻— 第3回 先行調査・研究の検討② 方言概説—アクセント— 第4回 先行調査・研究の検討③ 方言概説—語彙・文法・表現法— 第5回 先行調査・研究の検討④ 前回の調査結果の検討—アクセント— 第6回 先行調査・研究の検討⑤ 前回の調査結果の検討—活用— 第7回 先行調査・研究の検討⑥ 前回の調査結果の検討—接続助詞、終助詞— 第8回 調査の準備・調査票の作成① 調査項目の設定 第9回 調査の準備・調査票の作成② 質問方法の選定 第10回 調査の準備・調査票の作成③ 質問内容の選定 第11回 模擬調査 第12回 調査票の改良 第13回 調査票の説明(前半グループ) 第14回 調査票の説明(後半グループ) 第15回 夏休み調査に向けて</p> <p>※ 8月初旬に方言調査を行なう。詳細は別途指示する。</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	調査票の作成には、授業外での準備が大切となるため、念入りに作成すること。調査目的に合わせて作成し、授業時に検討。検討結果を持ち帰り、調査票の改良に取り組む。(学習時間：授業前・後各2時間) このサイクルでより良いものを目指してほしい。						
授業方法	講義形式と演習形式をミックスさせた方法をとる。 第2～7回：前年までの調査については講義を行い、方言の概要については各自で調べて発表する演習形式をとる。 第8回以降は、調査票作成のためにグループワークを行う。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価(授業時の質疑応答含む)30%(到達目標(1)に関する到達度の確認) 発表30%(到達目標(1)(2)に関する到達度の確認) レポート(調査票含む)40%(到達目標(1)に関する到達度の確認)						
履修上の注意	8月初旬に2泊の方言調査を実施するので、参加することが望ましい。 ※要宿泊費・交通費。あわせて2～3万円程度。 ※調査・宿泊は朝来市近辺の予定。  調査に参加できない者、調査結果のまとめにかかわる共同作業に責任を負わない者は、履修を控えること。 社会言語学演習／社会言語学演習Bを合わせて履修することが望ましい。						
教科書	プリントを配布するほか、授業中に紹介する。						
参考書	授業中に紹介する。						



科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	社会言語学の基礎						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ-	J72550
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語の位相差を知る						
授業の概要	たとえば同じ内容のことを表現する場合でも、それを使う人の出身地や住む場所、年齢、社会階層、言語意等の違いによって言語にはさまざまな変種があり得る。この講義では、そのようなことばのバリエーションに注目し、その解を深めることを目指す。主に前半では地域差に注目し、後半はその他の位相差を取り扱う。						
到達目標	(1)日本語の位相差に関する基礎的知を身につけ、それを説明できる(知識・理解(1)) (2)日本語の位相差に関するデータを観察することで、正しい分析結果を導き出すことができる(汎用的技能(2))						
授業計画	第1回: 社会言語学の研究域 第2回: 方言のさまざまな分布と解釈 第3回: 発音の地域差 第4回: アクセントの地域差 第5回: 文法の地域差(1)―活用の地域差など― 第6回: 文法の地域差(2)―条件表現の地域差など― 第7回: 待遇表現・その他の地域差 第8回: ここまでのまとめ 第9回: 言語と属性(1)―性― 第10回: 言語と属性(2)―社会階層― 第11回: 言語と属性(3)―年齢差― 第12回: 言語と属性(4)―年齢・世代による変化― 第13回: 言語意識 第14回: 言語と文化 第15回: 総括						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前: 授業計画に従って、次回授業であることを調べておく。(学習時間: 2時間) 授業後: 授業内で前回の講義内容に関する小テストを毎回行うので、授業で学んだことをふまえて整理する。(学習時間: 2時間)						
授業方法	講義: 基本的には講義形式だが、受講者にgoogleフォームを用いてその場でアンケートを取るなど双方向型の授業も行う。また、毎回松蔭manabaを使って小テストを行い、授業内容に関するコメントを求める。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価(コメントシートの内容含む)20%(到達目標(1)に関する到達度の確認) 小テスト30%(到達目標(1)に関する到達度の確認) 中間試験20%(到達目標(1)(2)に関する到達度の確認) 期末試験30%(到達目標(1)(2)に関する到達度の確認)						
履修上の注意	・こちらが書き出したこと以外でも、自分で積極的にメモを取りノート作りをすることを心掛けてほしい(大学の学びの基本)。 ・私語を慎み、居眠りなども極力しないようにすること。注意しても直らない場合は退席を命じることがある(退席者は当該の回は欠席と見做す)。 ・受講者は、スマートフォンを持っているのであれば授業時にアンケートや小テスト等で使うので、用意しておいてほしい(もちろんなくても構わない)。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	木部暢子・竹田晃子・田中ゆかり・日高水穂・三井はるみ 編著『方言学入門』(2013、三堂) 小隆・篠崎晃一編『方言の発―知られざる地域差を知る』(2010、ひつじ書房)						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書とデザイン						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバ-	J73410
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	現代における「書」と「デザイン」の関係について考える						
授業の概要	いかに伝統的な「書」を日常生活に取り入れたり、商業的なデザインとして活用することができるかを考える。また、デザインとしての書の制作に取り組む。						
到達目標	①書とデザインの関係について、自分の言葉で語ることができる。【知識・理解】【汎用的技能】 ②日常生活に取り入れたり、「商品」などにふさわしいデザイン作品を、意図を明確にして制作することができる。【知識・理解】						
授業計画	1) ガイダンス (道具、授業の進め方について) 2) 「書」と「デザイン」について 3) 作品A (テーマの設定) 4) 作品A (用具・用材) 5) 作品A (墨色・線質) 6) 作品A (構成) 7) 批評会 (総合評価、次のテーマに向けて) 8) 作品B (用具・用材) 9) 作品B (墨色・線質) 10) 作品B (構成) 11) 批評会 (総合評価、次のテーマに向けて) 12) 作品C (用具・用材) 13) 作品C (墨色・線質) 14) 作品C (構成) 15) 批評会 (総合評価、まとめ)						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業前学習：制作テーマとなる題材、素材を考え、資料調査をすること。(学習時間：2時間) 授業後学習：次の作品に生かすことができるように、制作した作品の不足点を整理し、制作ノートにまとめること。(学習時間：2時間)						
授業方法	講義 実習 プレゼンテーション ディスカッション						
評価基準と評価方法	テーマ設定と作品60%：到達目標②の到達度確認 取り組み態度20%：到達目標①②の到達度確認 制作ノート20%：到達目標①の到達度確認 課題に関するフィードバック：作品やレポートについて、授業内で全体に向けてコメント、紹介する。						
履修上の注意	書道道具に関しては、ガイダンスで詳しく説明する。 関連する展覧会があれば鑑賞課題を設けることがある。 授業の成果を発表する場 (作品展など) を設ける予定である。 書道関係のワークショップがあれば、積極的に参加することが望ましい。 テーマへの関心、実技能力の向上を常に意識しておく必要がある。						
教科書	適宜プリントを配布						
参考書							

科目区分	日本語日本文学専攻専門教育科目						
科目名	書道講義						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバ-	J73470
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	書に関する総合的な知識を習得し、現代社会における書の役割について考える。						
授業の概要	書に関わる基本的な事項を学習し、習得する。 長い歴史の中で、書がどのように考えられ、どのように鑑賞されてきたのかを学習する。 伝統的な書が、現代社会において、どのような役割を果たすことができるのかを考える。						
到達目標	①書を総合的に理解できる。【知識・理解】 ②書について自分自身の言葉で論じることができる。【汎用的技能】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ガイダンス（授業内容や課題などの説明）、書に関わる諸分野について</li> <li>2) 書とは何か（書写と書道、作品について）</li> <li>3) 書道史について（中国と日本の書の歴史）</li> <li>4) 書はどのように考えられてきたのか①—中国の書論について</li> <li>5) 書はどのように考えられてきたのか②—中国の書論を読む</li> <li>6) 書はどのように考えられてきたのか③—日本の書論について</li> <li>7) 書はどのように考えられてきたのか④—日本の書論を読む（明治期以前）</li> <li>8) 書はどのように考えられてきたのか⑤—日本の書論を読む（明治期以後）</li> <li>9) 書の美について（書の美学、美的価値）</li> <li>10) 作品の鑑賞と制作について</li> <li>11) 文房四宝について（ゲストスピーカー招へい予定）</li> <li>12) 表具・作品の装丁について</li> <li>13) 書と他分野との関わりについて（文学、美術、工芸）</li> <li>14) 現代における書について（メディア表現としての書）</li> <li>15) まとめ、質疑応答、確認テスト</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：毎時、次時で取り扱う内容について予告するので、それについて下調べをすること。 （学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習：授業中に紹介した資料は必ず読み、各自の関心事項に関する資料調査を行う。 （学習時間：2時間）</p> <p>紹介した展覧会で鑑賞すること。</p>						
授業方法	毎時、設定のテーマについての講義を行い。 理解、関心を深めるため、グループディスカッションを行う。 書や美術工芸に関わるものを制作する実習も行う。						
評価基準と評価方法	<p>平常点20%：授業態度</p> <p>テスト40%：到達目標①の到達度確認</p> <p>レポート40%：到達目標②の到達度確認</p> <p>課題に関するフィードバック：テストは返却し、レポートは授業内で全体に向けてコメント、紹介する。</p>						
履修上の注意	関連する展覧会があれば美術館で鑑賞会を行うことがある。 受講者の人数によっては、文房四宝や表具などの体験型授業を行うことがある。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書の作品制作／書道実技（作品制作）						
担当教員	丸山果織・真鍋昌生・石井みや美					科目ナンバ-	J73520
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	自由制作。これまでの学習、経験をふまえて書作品を制作する。						
授業の概要	古典学習を踏まえた、基本的な書作品の制作を行う。その中で、各自が表現したいことを大切にすることは忘れない。制作手順を習得し、自らの作品を制作する。段階に応じ、個人に対して必要な助言・指導を行い、作品の完成へ導く。また、書と関わりの大きい水墨画や、書を引き立てる彩色についても学ぶ。さらに、作品にふさわしい印を制作する。						
到達目標	①自らの着想にもとづき、意図、書く内容、書体、書風、形式を明確にすることができる。【知識・理解】【態度・志向性】 ②①をもとに制作を進めることができる。【知識・理解】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 作品制作とは何か 【丸山】</li> <li>2) 古典学習から制作へ（古典作品について、制作ノートの作成） 【丸山】</li> <li>3) 作品制作A（集字・草稿） 【丸山】</li> <li>4) 作品制作A（助言・指導） 【丸山】</li> <li>5) 作品A発表、助言、指導 【丸山】</li> <li>6) 書作品と印①（印について、草稿、印稿、布字、運刀） 【真鍋】</li> <li>7) 書作品と印②（押印、補刀） 【真鍋】</li> <li>8) 作品制作B（書と水墨画～季節に応じた水墨画） 【石井】</li> <li>9) 作品制作B（書と彩色～季節に応じた彩色） 【石井】</li> <li>10) 作品制作B（発表、助言・指導、作品Cに向けて） 【丸山】</li> <li>11) 作品制作C（集字・草稿） 【丸山】</li> <li>12) 作品制作C（助言・指導） 【丸山】</li> <li>13) 作品制作C（展開） 【丸山】</li> <li>14) 作品制作C（印の制作） 【真鍋】</li> <li>15) 作品C発表、助言、指導、まとめ 【丸山】</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：次時の内容に関して下調べしておくこと。（学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習：実技添削物の復讐。（学習時間：2時間）</p> <p>紹介した展覧会で鑑賞すること。</p> <p>授業時間内での練習量では限界があるため、授業外でも自主的な臨書学習を希望する。</p> <p>紹介した展覧会で鑑賞すること。</p>						
授業方法	実技、指導解説						
評価基準と評価方法	<p>平常点（作品制作の取り組み姿勢）30%：到達目標①②の到達度確認</p> <p>制作ノート20%：到達目標①の到達度確認</p> <p>作品50%：到達目標②の到達度確認</p> <p>課題に関するフィードバック：作品は毎時添削し、制作ノートについては授業内で全体に向けてコメント、紹介する。</p>						
履修上の注意	<p>書道道具に関しては、ガイダンスで詳しく説明する。</p> <p>欠席するとその時間分の進行が遅れるので注意すること。</p> <p>印の制作や水墨画・彩色の授業は前後する可能性がある。</p> <p>関連する展覧会があれば鑑賞課題を設けることがある。</p> <p>授業の成果を発表する場（作品展など）を設ける予定である。</p> <p>書道関係のワークショップがあれば、積極的に参加することが望ましい。</p>						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書法の基礎と楷書法						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバ-	J71400
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	書道の基礎知識、書法基礎（楷書）						
授業の概要	書写、書道における総合的な基礎知識、及び、実技能力を身につける。 書写、書道教育に加え、実用の書においても、「楷書」の理解は重要である。 基本的な半紙や半切へ書き方はもちろん、臨書の意義を理解し、楷書の古典作品の臨書学習と鑑賞を行う。臨書学習をとおして、楷書作品の創作へつなげる。						
到達目標	①書写、書道の基礎知識について理解し、説明することができる。【知識・理解】【汎用的技能】 ②楷書の基本的な運筆法を理解、習得し、創作につなぐことができる。【知識・理解】						
授業計画	1) ガイダンス（道具、授業内容などの説明）、漢字の変遷について、書写と書道について 2) 楷書演習－唐時代① 《孔子廟堂碑》半紙練習 3) 楷書演習－唐時代② 《孔子廟堂碑》半紙清書 4) 楷書演習－唐時代③ 《孔子廟堂碑》半切1/2練習 5) 楷書演習－唐時代④ 《孔子廟堂碑》半切練習 6) 楷書演習－唐時代⑤ 《九成宮醴泉銘》半紙練習 7) 楷書演習－唐時代⑥ 《九成宮醴泉銘》半紙清書 8) 楷書演習－唐時代⑦ 《九成宮醴泉銘》半切練習 9) 楷書演習－唐時代⑧ 《九成宮醴泉銘》半切清書 10) 楷書演習－唐時代⑨ 《顔氏家廟碑》半紙練習 11) 楷書演習－北魏時代 《牛橛造像記》半紙練習 12) 楷書演習－日本の楷書 光明皇后《楽毅論》半紙練習 13) 楷書演習－半切臨書練習（《孔子廟堂碑》《九成宮醴泉銘》《顔氏家廟碑》《牛橛造像記》《楽毅論》より） 14) 楷書演習－半切臨書清書（《孔子廟堂碑》《九成宮醴泉銘》《顔氏家廟碑》《牛橛造像記》《楽毅論》より） 15) 楷書創作、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：次時の内容に関して下調べしておくこと。（学習時間：2時間） 授業後学習：実技添削物の復習。（学習時間：2時間） 紹介した展覧会で鑑賞すること。 授業時間内での練習量では限度があるため、授業外でも自主的な臨書学習を希望する。						
授業方法	講義及び実技						
評価基準と評価方法	平常点（作品制作への取り組み態度）20%：到達目標①②の到達度確認 レポート・小テスト30%：到達目標①の到達度確認 提出作品50%：到達目標②の到達度確認 課題に関するフィードバック：作品は毎時添削し、レポートについて、授業内で全体に向けてコメント、紹介する。						
履修上の注意	書道道具に関しては、ガイダンスで詳しく説明する。 関連する展覧会があれば鑑賞課題を設けることがある。 授業の成果を発表する場（作品展など）を設ける予定である。 書道関係のワークショップがあれば、積極的に参加することが望ましい。						
教科書	中国法書選31 欧陽詢『九成宮醴泉銘』二玄社、ISBN/4544005310 中国法書選32 虞世南『孔子廟堂碑』二玄社、ISBN/4544005329 必要に応じて資料を配布する。						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書法の基礎と楷書法						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバ-	J71400
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	書道の基礎知識、書法基礎（楷書）						
授業の概要	書写、書道における総合的な基礎知識、及び、実技能力を身につける。 書写、書道教育に加え、実用の書においても、「楷書」の理解は重要である。 基本的な半紙や半切へ書き方はもちろん、臨書の意義を理解し、楷書の古典作品の臨書学習と鑑賞を行う。臨書学習をとおして、楷書作品の創作へつなげる。						
到達目標	①書写、書道の基礎知識について理解し、説明することができる。【知識・理解】【汎用的技能】 ②楷書の基本的な運筆法を理解、習得し、創作につなぐことができる。【知識・理解】						
授業計画	1) ガイダンス（道具、授業内容などの説明）、漢字の変遷について、書写と書道について 2) 楷書演習－唐時代① 《孔子廟堂碑》半紙練習 3) 楷書演習－唐時代② 《孔子廟堂碑》半紙清書 4) 楷書演習－唐時代③ 《孔子廟堂碑》半切1/2練習 5) 楷書演習－唐時代④ 《孔子廟堂碑》半切練習 6) 楷書演習－唐時代⑤ 《九成宮醴泉銘》半紙練習 7) 楷書演習－唐時代⑥ 《九成宮醴泉銘》半紙清書 8) 楷書演習－唐時代⑦ 《九成宮醴泉銘》半切練習 9) 楷書演習－唐時代⑧ 《九成宮醴泉銘》半切清書 10) 楷書演習－唐時代⑨ 《顔氏家廟碑》半紙練習 11) 楷書演習－北魏時代 《牛橛造像記》半紙練習 12) 楷書演習－日本の楷書 光明皇后《楽毅論》半紙練習 13) 楷書演習－半切臨書練習（《孔子廟堂碑》《九成宮醴泉銘》《顔氏家廟碑》《牛橛造像記》《楽毅論》より） 14) 楷書演習－半切臨書清書（《孔子廟堂碑》《九成宮醴泉銘》《顔氏家廟碑》《牛橛造像記》《楽毅論》より） 15) 楷書創作、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：次時の内容に関して下調べしておくこと。（学習時間：2時間） 授業後学習：実技添削物の復習。（学習時間：2時間） 紹介した展覧会で鑑賞すること。 授業時間内での練習量では限度があるため、授業外でも自主的な臨書学習を希望する。						
授業方法	講義及び実技						
評価基準と評価方法	平常点（作品制作への取り組み態度）20%：到達目標①②の到達度確認 レポート・小テスト30%：到達目標①の到達度確認 提出作品50%：到達目標②の到達度確認 課題に関するフィードバック：作品は毎時添削し、レポートについて、授業内で全体に向けてコメント、紹介する。						
履修上の注意	書道道具に関しては、ガイダンスで詳しく説明する。 関連する展覧会があれば鑑賞課題を設けることがある。 授業の成果を発表する場（作品展など）を設ける予定である。 書道関係のワークショップがあれば、積極的に参加することが望ましい。						
教科書	中国法書選31 欧陽詢『九成宮醴泉銘』二玄社、ISBN/4544005310 中国法書選32 虞世南『孔子廟堂碑』二玄社、ISBN/4544005329 必要に応じて資料を配布する。						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文学専攻専門教育科目						
科目名	世界の近現代戯曲						
担当教員	枅井 智英					科目ナンバ-	J72670
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	戯曲の作劇術を俳優の演技という視点から考える。(レジナルド・ローズ『12人の怒れる男』の作劇術と演技について)						
授業の概要	舞台『12人の怒れる男』の舞台上演台本は、映画『12人の怒れる男』のシナリオを基に構成されている。このクラスでは、1957年製作の映画版を中心に俳優の演技(行動)分析から、どのように人物の性格が読み解けるか検証し、さらには作品のテーマの一つである「民主主義制度」という視点から、冷戦中に製作された1957年版と冷戦後に製作された1997年版を比較する。						
到達目標	①俳優の演技という視点から戯曲分析や上演分析を行う力を身につけ、応用できるようになる。(知識・理解) ②映像言語として俳優の動きの重要性とその役割をしっかりと自分の言葉で語るができるようになる。(汎用的技能) ③社会問題への関心を広げ、現代社会が抱える問題に積極的に参加できるようになる。(態度・志向性)						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作品とその背景</li> <li>2. 映画作品と戯曲について</li> <li>3. 映画『12人の怒れる男』(1957年版)を見る。① 映像資料を中心に作品を理解する</li> <li>4. 映画『12人の怒れる男』(1957年版)を見る。② 出来事の経緯についてまとめる</li> <li>5. 演技を考える: 与えられた状況(演じる役)</li> <li>6. 演技を考える: 与えられた状況(演技する環境)</li> <li>7. 演技を考える: キャラクター分析と内容理解① スイッチナイフに関する討論場面より</li> <li>8. 演技を考える: キャラクター分析と内容理解② トイレ休憩の場面より7番と8番を中心に</li> <li>9. 演技を考える: キャラクター分析と内容理解③ 前半の2番、5番、11番を中心に</li> <li>10. 物語の展開と作品の背景について</li> <li>11. 映画『12人の怒れる男』(1997年版)の特徴と時代背景</li> <li>12. 映画『12人の怒れる男』(1997年版)を見る。</li> <li>13. 1957年版と1997年版の登場人物の比較① 11番の比較</li> <li>14. 1957年版と1997年版の登場人物の比較② 2番、4番、7番を中心に</li> <li>15. 授業内容の要点のまとめ</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	(授業前準備学習) 各回授業で扱うテキスト(戯曲)を、登場人物の性格に深く関連した言動に注意を払いながら精読し、特に重要と思われる言動を2, 3ピックアップしておく。またなぜそれが重要だと言えるのか理由も述べるができるようにしておく。(学習時間2時間程度) (授業後学習) 授業で取り上げた内容や重要箇所について整理し、授業内で与えられた課題を松陰Manabaコースコンテンツに提出する。(学習時間2時間程度)						
授業方法	講義: 戯曲と映像の分析方法を提示し、ペアまたはグループで行い、その結果についてディスカッションを行う。時代背景や各場面のテーマに関しても、ディスカッションを中心に進め、その結果を受けて解説講義を行う。戯曲や映像の分析を。ペア又はグループで行い、その結果についてディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物(40%)、期末レポート(60%) 授業内での提出物: 各回提出のリアクションペーパー(講義内容についてのコメント・質問)の内容・記述の的確さを評価する。到達目標②と③の確認。 期末レポート: 指定されたテーマに示された問題を、戯曲と映像分析を中心に明確に議論して解決できる能力を評価する。到達目標①と② 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等に関しては翌週授業で紹介・解説する。レポートの講評は松陰Manabaで告知する。						
履修上の注意	授業回数2/3に満たないものは、レポート提出の資格を失うものとする。						
教科書	適宜プリントを配布。						
参考書	『Film Analysis 映画分析入門』マイケル・ライアン、メリッサ・レノス(著)、田畑暁生(翻訳) 『映画のどこをどう読むか(ジブリLibrary—映画理解学入門)』ドナルド・リチー(著)、三木宮彦・司馬叡三(翻訳)、スタジオジブリ						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	セリフ表現と演技法						
担当教員	枅井 智英					科目ナンバ-	J72680
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	『夏の夜の夢』のセリフ表現から、演技の基本的要素を理解し表現力を高める。						
授業の概要	実際に声に出してシェイクスピアの『夏の夜の夢』（『真夏の夜の夢』）の戯曲を読んで、小説と戯曲の違いの理解を深める。また、実際の舞台上映や映画の映像資料を通して、この劇を上演史を紹介する。そのうえでセリフ表現から演技や発声の基本を学び、声を使った表現力を高める。また俳優の演技という視点から映像や舞台分析できる能力の向上を目指す。						
到達目標	①戯曲のセリフを明瞭にわかりやすく読み聞かせることができる。(汎用的技能) ②『夏の夜の夢』を通してシェイクスピア劇の基本的な特徴を説明することができる。(知識・理解) ③演技体験から、演劇に対する興味・関心をより具体的なものとして意識することができる。(態度・志向性)						
授業計画	1. イントロダクション：授業の進め方、グループの組み分け 2. 1幕：オープニングの人間関係とシェイクスピア劇 3. 1幕：職人たちとエリザベス朝の演劇 4. 2幕：妖精の世界とギリシア神話 5. 2幕：恋人たちのセリフ表現 6. 3幕：職人たちの性格描写 7. 3幕：タイターニアとボトムスの夢の世界 8. 4幕：シェイクスピア劇の特徴としての夜明け。 9. 4幕：この場面の和訳を強調するためにはどうしたらよいか。 10. 5幕：劇中劇の効果について 11. 5幕：パックの独白 12. プレゼンテーションに向けて：配役決めと狙いを明確にする。 13. プレゼンテーションに向けて：効果的な表現方法 14. 各グループによる発表 15. 授業の総括、要点のまとめ。						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	(授業前準備学習) 各回授業で扱うテキスト(戯曲)を読み、理解できない言葉をしっかり調べて精読し、小さな声で音読しながら発話が難しい箇所を確認しておく。また、授業で提示された課題のテーマについても事前に調べておく。(学習時間2時間程度) (授業後学習) 授業で取り上げた内容や重要箇所について整理し、授業内で与えられた課題を松蔭Manabaコースコンテンツに提出する。(学習時間2時間程度)						
授業方法	講義：各回で取り上げられるテキスト(戯曲)の1場面を、グループに分かれて役を振り音読する。音読後に、この場面の登場人物の目的、そしてそれを表現する効果的な読み方をディスカッションする。この結果を受けて、必要な知識、情報などの解説を映像資料なども使いながら講義する。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物(40%)、最終プレゼンテーション(30%)とレポート(30%) 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー(講義内容についてのコメント・質問)の内容・記述の的確さを評価する。到達目標②と③の確認。 期末プレゼンテーションとレポート：『夏の夜の夢』の一場面をグループで演じる。その際にどのようなセリフ表現の工夫を試みたか、そのためにどのような取り組みをしたかをレポートについて提出する。到達目標①と②。 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等に関しては翌週授業で紹介・解説する。プレゼンテーションの講評は最終の授業で行い、レポートに関しては松蔭Manabaで告知する。						
履修上の注意	授業回数2/3に満たないものは、最終プレゼンテーションとレポート提出の資格を失うものとする。						
教科書	ウィリアム・シェイクスピア/小田島雄志訳『夏の夜の夢』白水社、1983						
参考書	佐和田敬司、藤原慎太郎、冬木ひろみ、丸本隆、八木斉子(編)『演劇学のキーワード』ペリかん社、2007						



科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	草書法／書道実技（草書）						
担当教員	西山 恵里香					科目ナンバ-	J72460
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	草書の基本用筆を理解・習得した上で、草書の古典作品を臨書し、創作につなげる。						
授業の概要	草書の特徴を学習し、それを基に草書の用筆法を習得する。 草書の代表的な古典を臨書することにより、用筆法だけではなく、古典の歴史的背景も学ぶ。 学習した草書の用筆法をいかし、半切の創作を行う。						
到達目標	①草書の基本的な知識と技法を習得する。【知識・理解】【汎用的技能】 ②草書の代表的な古典に触れ、用筆法および歴史的背景を理解することができる。【知識・理解】						
授業計画	1、ガイダンス 硬筆による草書の基礎を習得する（草書の用筆法を習得し、草書の特徴を理解する。） 2、『書譜』について①～『書譜』から草書の字の結構を学ぶ 四文字臨書 3、『書譜』について②～『書譜』から草書の字の結構を学ぶ～ 六文字臨書 4、『書譜』について③～草書の連綿と字のリズムを学ぶ～ 四文字臨書 5、『書譜』について④～草書の連綿と字のリズムを学ぶ～ 六文字臨書 6、『書譜』について⑤～半切作品のまとめ方～ 7、『書譜』について⑥～半切作品のまとめ方 仕上げ～ 8、『十七帖』について①～王羲之の草書を学ぶ～ 半紙臨書 9、『十七帖』について②～王羲之の草書を学ぶ～ 半切臨書 10、『中秋帖』について①～全紙作品のまとめ方～ 11、『中秋帖』について②～全紙作品のまとめ方 仕上げ～ 12、創作① 創作について 13、創作② 作品の変化について（墨の濃淡、字の大小等） 14、創作③ 創作（草稿） 15、創作④ 創作（清書） 仕上げ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業計画に従って、次回授業ですることにより目を通しておく。（学習時間2時間） 授業後：授業内に出来なかった課題や技法を次回授業までに出来るようにしておく。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義：はじめの約30分で、各回講義で扱う古典の解説を行う。 実技：古典の歴史的な背景を理解したうえで、臨書を行う。						
評価基準と評価方法	提出作品 50% 到達目標①の到達度確認 筆記試験 30% 到達目標②の到達度確認 平常点 20% 取り組み姿勢						
履修上の注意	書道の用意（筆、半紙、墨、新聞紙等）は、講義第2回目から毎時間必ず持参すること。 半紙は多めに持って来ること。 携帯電話のマナーは厳守。私語は慎む。 書展を行う可能性があるため、それに出品する作品を制作してもらうことがある。						
教科書	書譜（中国法書選No. 38）孫過庭 二玄社						
参考書	必要に応じてプリントを配布します。						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバ	J04090
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜2	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	日本近代の文化、文学の諸問題						
授業の概要	日本近代の文化、文学について、大学生生活の総決算としての卒業論文を執筆する手助けをする。卒業論文のテーマを教員の方から指示することはしないので、各自の関心、問題意識に応じて、それにふさわしい研究方法とその研究論文のありようを探究してもらうことになる。その補助として、適宜、最新の評論、研究論文の数々を教示することになるだろう。本当の意味での素晴らしい研究をなすためには、所謂「文学的常識」にまどわされることのない柔軟な発想と、細部に神経が行き届いた、総合的な面を忘れない物の見方が必要なことは言うまでもない。関連の様々な研究論文を実際に読み解くことを通して、本当の意味での学力を身につけ、立派な卒業論文を完成してもらいたい。						
到達目標	立派な卒業論文を完成させ、豊かな感受性をもって、生涯にわたって学び続けようとする姿勢を保持することができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 論文テーマの模索 1 第3回 論文テーマの模索 2 第4回 論文テーマの模索 3 第5回 論文テーマの模索 4 第6回 論文テーマの模索 5 第7回 論文テーマの模索 6 第8回 複数の論文テーマ選定 1 第9回 複数の論文テーマ選定 2 第10回 資料収集 1 第11回 資料収集 2 第12回 資料収集 3 第13回 資料収集 4 第14回 夏休みに向けて 1 第15回 夏休みに向けて 2 第16回 論文読み込み 1 第17回 論文読み込み 2 第18回 論文読み込み 3 第19回 論文テーマ決定 第20回 報告会 1 第21回 報告会 2 第22回 報告会 3 第23回 報告会 4 第24回 報告会 5 第25回 報告会 6 第26回 報告会 7 第27回 報告会 8 第28回 反省会 第29回 卒論試問 1 第30回 卒論試問 2						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	幅広い知見を得るべく努力すること。本文テキストの読解、自宅、図書館等での勉学に300～500時間程度は必要であろう。						
授業方法	適宜、最新の評論、研究論文を紹介するが、基本は各自の関心、問題意識に対応していくことになるので、個人指導が主たるものとなる。必要に応じての情報交換の場を設けることとする。						
評価基準と評価方法	卒業論文90%、卒論試問10% 到達目標「立派な卒業論文の完成して生涯にわたって学び続けようとする姿勢を保持することができる」の達成度を卒業論文の評価基準とし、卒論試問により「立派な卒業論文の完成」の完成度を確認する。						
履修上の注意	大学生生活の総決算にふさわしい卒業論文を執筆すべく努力すること オフィスアワー：9号館4階 火曜 12：30～13：00 木曜 12：20～12：50 教員の連絡先：19-20cjlshido[at]tcct.zaq.ne.jp ※[at]を@に置き換える。						

教科書	適宜、個別に、必要な本を指示。
参考書	適宜、個別に、必要な本を指示。

科目区分	日本語日本文学専攻専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	J04090
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業論文を作成する						
授業の概要	母語である日本語を「外国語として見る」ことは、それほど簡単なことではありません。なぜなら、私たちは無意識のうちに母語としての日本語を自由使いこなしているからです。しかし、日本語を分析したり、日本語学習者の間違いや、日本語に対する疑問について考えることを通じて、私たちが無意識に使っている日本語について客観的に考えていきます。それを通じて各自テーマを見つけ、卒業論文を作成します。 この授業は留学生との合同授業を行う場合もあります。						
到達目標	① 母語である「日本語」を客観的に分析し、問題をみつけることができる。【知識・理解】 ② 情報を主体的・批判的に受容し、論理的に判断する能力、自分の考えを適確に表現する高度なコミュニケーション能力の習得【汎用的技能】 ③ 自立した人間としての自己の確立と、身につけた知識を地域・社会に還元し他者と調和し生きる姿勢の習得【態度・志向性】						
授業計画	<p>&lt;前期&gt;</p> <p>第1回 卒業研究とは 第2回 各自のテーマについての発表と質疑応答1 第3回 各自のテーマについての発表と質疑応答2 第4回 各自のテーマについての発表と質疑応答3 第5回 参考文献の検索方法 第6回 データ収集の方法 第7回 データの分析 第8回 テーマ決定 第9回 各自のテーマについて発表と質疑応答4 第10回 各自のテーマについて発表と質疑応答5 第11回 各自のテーマについて発表と質疑応答6 第12回 各自のテーマについて発表と質疑応答7 第13回 各自のテーマについて個別指導1 第14回 各自のテーマについて個別指導2 第15回 前期のまとめと夏休みにすることの発表</p> <p>&lt;後期&gt;</p> <p>第16回 各自のテーマについての発表と質疑応答1 第17回 各自のテーマについての発表と質疑応答2 第18回 各自のテーマについての発表と質疑応答3 第19回 各自のテーマについての発表と質疑応答4 第20回 各自のテーマについての発表と質疑応答5 第21回 各自のテーマについての発表と質疑応答6 第22回 各自のテーマについての発表と質疑応答7 第23回 グラフや表の作り方 第24回 分析・考察の書き方 第25回 結論の書き方 第26回 要旨・参考文献の作成 第27回 卒業論文の完成 第28回 口頭試問1 第29回 口頭試問2 第30回 卒業論文発表会</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：課された資料を読むこと（授業外学習時間：2時間） 事後学習：授業中にわからなかったことやキーワードについて調べる（授業外学習時間：2時間） 発表担当者は図書館などを利用して、積極的に調べハンドアウトを作成すること。 それ以外にも、自分の選んだ卒業論文のテーマについては、図書館などを利用して積極的に調べ、卒論作成につなげていくこと。						
授業方法	講義と各自の発表、それに続く質疑応答を中心にする。						
評価基準と評価方法	卒論のテーマの発表と授業態度（40%）【到達目標①と②に関する達成度の確認】 卒業論文の制作と口頭試問（60%）【到達目標②と③に関する達成度の確認】  授業態度：授業への取り組み、グループ討議の参加度、発表に対するコメントなどにより総合的に評価する。 発表：発表態度、与えられたテーマについての内容、取り組みなどを評価する。						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席するだけでなく、積極的な授業参加望む。</li> <li>・欠席するときは必ず事前に連絡すること。</li> <li>・4/5以上出席がないと、受講資格を失う。</li> </ul> なお、授業の一環として留学生との交流や、学外見学・研修の可能性がある。						

教科書	適宜ハンドアウトを配布
参考書	授業の中で紹介する。

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ-	J04090
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業論文を書く						
授業の概要	日本語学、方言学、社会言語学に関する研究をテーマとして卒業論文を執筆する学生に対し、その方法や手段についての助言をし、指導を行う。研究と名がつくからには、どんな小さなことでも「何か新しいもの」を見つけてほしい。その過程で情報を収集し、分析する能力も養われるはずである。						
到達目標	(1)各自のテーマに沿って卒業論文を書き上げ、その中で自分の論を客観的に評価し、これからの課題を見出すことができる。(態度・志向性)(2)						
授業計画	<p>(前期)</p> <p>第1回 卒業論文とは</p> <p>第2回 各自の研究テーマの発表と検討①</p> <p>第3回 各自の研究テーマの発表と検討②</p> <p>第4回 各自の研究テーマの発表と検討③</p> <p>第5回 先行研究の調べ方</p> <p>第6回 データ収集の方法</p> <p>第7回 テーマ決定</p> <p>第8回 研究計画の提出と検討</p> <p>第9回 各自のテーマについての個別指導①</p> <p>第10回 各自のテーマについての個別指導②</p> <p>第11回 各自のテーマについての個別指導③</p> <p>第12回 各自のテーマについての個別指導④</p> <p>第13回 各自のテーマについての個別指導⑤</p> <p>第14回 各自のテーマについての個別指導⑥</p> <p>第15回 夏期休暇中の作業計画の提出と検討</p> <p>(後期)</p> <p>第16回 夏期休暇中の作業進捗状況の報告</p> <p>第17回 研究報告とそれに対する指導</p> <p>第18回 中間発表会①(論文題目・目次の報告含む)</p> <p>第19回 中間発表会②</p> <p>第20回 中間発表会に対する指導</p> <p>第21回 各自のテーマについての個別指導①</p> <p>第22回 各自のテーマについての個別指導②</p> <p>第23回 各自のテーマについての個別指導③</p> <p>第24回 各自のテーマについての個別指導④</p> <p>第25回 各自のテーマについての個別指導⑤</p> <p>第26回 各自のテーマについての個別指導⑥</p> <p>第27回 論文提出要領の確認・口頭試問日程決定</p> <p>第28回 提出直前相談</p> <p>第29回 卒論発表会①</p> <p>第30回 卒論発表会②</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	自分の興味・関心に従いテーマを決めることになるが、それが卒業研究として成り立つのかを見極めることも必要になってくるため、出来るだけ早くテーマ候補を探しておくことが肝要である。テーマが決まってからは、調査・分析はもちろんのこと、先行研究もよく読み込んでほしい。(学習時間:授業前後各2時間)						
授業方法	研究の進捗状況についての報告と指導を行う。全体で集まって報告しあい、ディスカッションする回と、個別に詳細を検討する(指導する)回とがある。						
評価基準と評価方法	論文審査(口頭試問を含む)100%(到達目標(1)に関する到達度の確認)						
履修上の注意	より良いものにするための努力を怠らないこと。全体でのディスカッションは積極的に発言すること(それが学生相互の利となります)。						

教科書	なし
参考書	なし

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	田中 まき					科目ナンバ-	J04090
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	古典文学および日本文化の研究						
授業の概要	和歌や物語などの古典文学や日本文化を対象に卒論を執筆するための助言、指導をおこなう。参考文献や資料などについて具体的にアドバイスする。、関係する論文や資料を探索し、それらを読んで、積極的に調査・研究を進める姿勢を持って、論文を完成する。						
到達目標	(1) 古典文学や日本文化について研究、考察し、その考察内容を卒論としてまとめて論じることができる。【知識・理解】 (2) 情報を主体的・批判的に受容し、論理的に判断できる。また、自分の考えを的確に表現することができる。【汎用的技能】 (3) 古典文学や日本文化に対する強い興味関心を持ち、その関心や考察内容を発信することができる。【態度・志向性】						
授業計画	<p>前期</p> <p>第1回 卒業研究についての概説</p> <p>第2回 予定している研究テーマについての発表</p> <p>第3回 研究テーマについての検討①</p> <p>第4回 研究テーマについての検討②</p> <p>第5回 研究テーマに関する書籍、関係論文の探索</p> <p>第6回 研究テーマに関する書籍、関係論文のまとめと評価①</p> <p>第7回 研究テーマに関する書籍、関係論文のまとめと評価②</p> <p>第8回 研究の進捗状況の報告①</p> <p>第9回 研究の進捗状況の報告②</p> <p>第10回 研究報告とそれに対する指導①</p> <p>第11回 研究報告とそれに対する指導②</p> <p>第12回 論文の書き方の指導①</p> <p>第13回 論文の書き方の指導②</p> <p>第14回 進捗状況の報告</p> <p>第15回 夏休みの課題の申告</p> <p>後期</p> <p>第1回 夏休み期間の進捗状況の報告</p> <p>第2回 研究報告とそれに対する指導</p> <p>第3回 論文の題目・目次（構成）の報告</p> <p>第4回 卒業論文の中間発表会①</p> <p>第5回 卒業論文の中間発表会②</p> <p>第6回 中間発表会に対する指導</p> <p>第7回 研究の方向性の確認</p> <p>第8回 研究報告とそれに対する指導</p> <p>第9回 進捗状況の報告発表</p> <p>第10回 論文の題目・目次（構成）の確認</p> <p>第11回 研究報告とそれに対する指導</p> <p>第12回 研究のまとめ①</p> <p>第13回 研究のまとめ②</p> <p>第14回 口頭試問</p> <p>第15回 卒業論文の成果報告会</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：テーマ周辺の論文を読み、調査、研究を進める。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で討論したことを踏まえ、研究内容を整理する。（学習時間：4時間）						
授業方法	卒論執筆のための説明や討論（ディスカッション） 研究の進捗状況についての報告（プレゼンテーション）と討論（ディスカッション） 研究内容や進め方についてのアドバイスや指導						
評価基準と評価方法	研究成果をまとめた論文（口頭試問を含む） 90% 到達目標（1）（2）（3）に関する到達度の確認。 卒業研究に対する取り組みや成果報告の口頭発表 10% 到達目標（1）（3）に関する到達度の確認。 評価規準については、ルブリックを提示し、それに基づいて評価する。						
履修上の注意	年間を通して、着実に作業し、研究して、最後に良い成果がまとめられるよう努力すること。						



教科書	特になし。
参考書	授業中に提示する。

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	正しいことばづかい						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ-	J02050
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「正しい」とされることばづかいを知り、「正しいことばづかい」について考える						
授業の概要	敬語や日本語の運用上の「正しさ」について講義する。受講生には適切な言語運用能力も養ってほしいが、その奥にあるルールを知り、規範主義的なものの見方だけではなく、記述主義的な考え方も身につけてほしい。						
到達目標	(1)日本語の敬語のしくみと運用について規範に則った適切な使用ができるようになる。(汎用的技能(1)) (2)日本語の適切な言語運用に関する知識を身につけることによって、ある状況におけることばの正誤判断(ふさわしいか否か)とその理由の説明ができるようになる。(知識・理解(1))						
授業計画	第1回 ガイダンス/敬語の種類とはたらき① 素材敬語と対者敬語 第2回 敬語の種類とはたらき② 尊敬語・謙譲語(謙譲語Ⅰ) 第3回 敬語の種類とはたらき③ 授受表現の敬語・丁寧語(謙譲語Ⅱ)・丁寧語 第4回 敬語の種類とはたらき④ 美化語/二重敬語 第5回 「(さ)せていただく」/間違いやすい敬語 第6回 丁寧に話すための方略/ポライトネス 第7回 ここまでのまとめ 第8回 ことばの乱れ? ① 「ら抜きことば」など 第9回 ことばの乱れ? ② 「コンビ敬語」など 第10回 文法とことばの正しさ 第11回 方言・位相とことばの正しさ 第12回 漢字表記と送り仮名 第13回 仮名遣い 第14回 まとめと記述課題 第15回 「正しいことばづかい」とは						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前:敬語を含め、授業計画にあることばの問題を身近な例で確認することに努める。(学習時間:2時間) 授業後:授業内で前回の講義内容に関する小テストを毎回行うので、授業で学んだことをふまえて整理する。(学習時間:2時間) 特に、前回の講義内容をふまえた上で講義を進めることになるため、復習を怠らないこと。						
授業方法	講義:基本的には講義形式だが、受講者にgoogleフォームを用いてその場でアンケートを取るなど双方向型の授業も行う。また、毎回松蔭manabaを使って小テストを行い、授業内容に関するコメントを求める。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価(コメントの記述内容を含む)20%(到達目標(1)に関する到達度の確認) 小テスト30%(到達目標(2)に関する到達度の確認) 中間試験20%(到達目標(1)(2)に関する到達度の確認) 期末試験30%(到達目標(1)(2)に関する到達度の確認)						
履修上の注意	・こちらが書き出したこと以外でも、自分で積極的にメモを取りノート作りをすることを心掛けてほしい(大学の学びの基本)。 ・私語を慎み、居眠りなども極力しないようにすること。注意しても直らない場合は退席を命じることがある(退席者は当該の回は欠席と見做す)。 ・受講者は、スマートフォンを持っているのであれば授業時にアンケートや小テスト等で使うので、用意してほしい(もちろんなくても構わない)。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	多文化共生論／多文化共生論基礎／多文化共生論A						
担当教員	辻野 理花					科目ナンバ-	J72100
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本社会と多文化共生						
授業の概要	グローバル化の世界的潮流の中で、国境を越えた人の移動が活発な時代を私たちは生きています。多文化共生とは、異なる文化的背景をもつ人たちがお互いに認め合い、共に生きることです。本講義では私たちの足元に存在する多様な文化について着目し、考察していきます。文化の多様性というのは、複数の社会の比較という方法を通してだけでなく、1つの社会の中にも存在します。そこで私たちが暮らす日本の社会にみられる多文化的な状況を知り、こうした状況の中での多様な文化との共生について考えていきます。テーマに応じて海外の事例についてもみていきます。						
到達目標	多文化共生についての理解を深める 【知識・理解】 身近に存在する文化の多様性について説明することができる 【知識・理解、汎用性技能】 グローバルな世界情勢とローカルでの状況との関連性を説明することができる 【汎用性技能】						
授業計画	<p>第1回イントロダクション  第2回日本社会における在住外国人の概要  第3回映像に見る多文化社会日本の歴史  第4回異文化接触空間と多文化イベント  第5回グローバル化と共生  第6回グローバル化と人の移動  第7回グローバル化と日本社会  第8回外国人労働と受入れのしくみ  第9回外国人労働者の受入れ制度の比較  第10回在住外国人と暮らし  第11回在日外国人と労働  第12回在住外国人の語りに耳を傾ける  第13回グループワーク  第14回グループプレゼンテーション  第15回映像から知る在日外国人と教育とまとめ</p> <p>講義の進度によって、順序や内容を変更することもあります  映像資料も必要に応じて活用しながら講義をします</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：事前に配布する資料について予習する。各回の授業内容について図書館・インターネットで下調べをする。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で学んだことをまとめる。授業内で指示したテーマ・課題について準備してくる。（学習時間：2時間） 授業で取り組む課題について、授業時間内に完成できなかった場合は、次回までに完成させてくること。 日ごろから世界情勢や日常の情景に目を向け、関心をもつ習慣を身につけてください						
授業方法	講義形式を主とし、必要に応じてグループワーク、プレゼンテーションを行います						
評価基準と評価方法	小テスト（複数回実施）60%、課題30%、授業中にかいてもらうリアクションペーパー・平常点10%で評価する						
履修上の注意	必要に応じて資料を配布する。授業中の課題に積極的に取り組んでください 授業の一環として学外見学を実施する場合があります						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	授業中に随時紹介します。 『多文化社会への道』駒井洋編著（明石書店） 『外国人労働者受け入れを問う』宮島喬・鈴木江里子（岩波書店）						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	多文化共生論応用／多文化共生論B						
担当教員	辻野 理花					科目ナンバ-	J72110
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	多文化社会における多様性の理解と共生						
授業の概要	多文化共生とは、異なる文化的背景をもつ人たちがお互いに認め合い、共に生きることです。本講義では、多文化社会における多様性についてジェンダー、マイノリティ、メディアをキーワードに考察していきます。映像資料も活用しながら、他者の目でとらえた文化、創りだされるイメージと表現やそれがもたらす影響などについても見ていきます。文化背景の異なる人々の相互理解と共生について考えていきましょう。						
到達目標	文化の多様性について理解を深める メディアをジェンダー、マイノリティの視点から分析・表現することができる 【知識・理解、態度・志向性】 ジェンダー、マイノリティ、多文化に関する社会テーマに関して具体的に説明することができる 【汎用性技能】						
授業計画	<p>第1回イントロダクション  第2回性の多様性  第3回文化とジェンダー  第4回フェミニズムとジェンダー研究  第5回ジェンダーと性別分業、性役割  第6回開発とジェンダー  第7回映像に見る開発とジェンダー  第8回労働とジェンダー  第9回ワーク・ライフ・バランス  第10回創られるジェンダーのイメージ①グループワーク  第11回創られるジェンダーのイメージ②ジェンダーステレオタイプを読み解く  第12回創られるイメージ：メディア・リテラシー PSA広告の分析  第13回私たちのメディアをつくる①グループワーク  第14回私たちのメディアをつくる②グループプレゼンテーション  第15回まとめ</p> <p>講義の進捗によって、順序や内容を変更することもあります  映像資料も必要に応じて活用しながら講義をします</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：事前に配布する資料について予習する。各回の授業内容について図書館・インターネットで下調べをする。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で学んだことをまとめる。授業内で指示したテーマ・課題について準備してくる。（学習時間：2時間） 授業で取り組む課題について、授業時間内に完成できなかった場合は、次回までに完成させてくること。 授業で学んだ視点から、みなさんが生活している社会について考えてみてください。						
授業方法	基本は講義形式で行うが、グループワークやディスカッションと発表を行うため、積極的な参加を望む						
評価基準と評価方法	小テスト50%、課題40%、平常点（授業中の提出物、授業への発言、貢献度等）10%						
履修上の注意	必要に応じて随時資料を配布する 「多文化共生論基礎（多文化共生論A）」を合わせて履修することが望ましい						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	『よくわかるジェンダー・スタディーズ』木村涼子他編著、2013、ミネルヴァ書房（ISBN 9784623065165） 『最新Study Guide メディア・リテラシー 入門編』鈴木みどり、2013、リベルタ出版（ISBN 9784903724379） 『Study Guideメディア・リテラシー ジェンダー編』鈴木みどり、2003、リベルタ出版（ISBN：4-947637-80-3） 『オランダ流ワーク・ライフ・バランス―「人生のラッシュアワー」を生き抜く人々の技法』中谷文美、2015、世界思想社（ISBN 9784790716464） その他授業中に随時紹介します。						

科目区分	日本語日本文学専攻専門教育科目						
科目名	第二言語習得論応用／第二言語習得論B／Practical Second Language Acqui						
担当教員	大和 祐子					科目ナンバ	J73300
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	第二言語習得						
授業の概要	第二言語習得論の基礎的な用語や理論を導入し、日本語教育をはじめとする言語教育になぜ第二言語習得のメカニズムを理解することが必要か、また外国語教育にどのように応用可能かを示す。						
到達目標	(1) 第二言語習得に関する基本的な用語が分かる。【知識・理解】 (2) 第二言語を習得する際に起こる現象について説明することができる。【知識・理解】 (3) 第二言語習得論で扱われる現象を自分自身の外国語学習経験と照らし合わせて考え、まとめることができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：復習 第3回：インプット重視の指導 第4回：言語形式に焦点を当てた指導 第5回：フィードバック 第6回：言語習得に及ぼす影響(1)年齢の影響 第7回：言語習得に及ぼす影響(2)バイリンガリズム 第8回：言語学習に成功する人とはどんな人か 第9回：個人差の影響(1)適性 第10回：個人差の影響(2)学習スタイル 第11回：個人差の影響(3)動機づけ 第12回：個人差の影響(4)学習者の性格 第13回：個人差の影響(5)学習ストラテジー 第14回：まとめと試験 第15回：試験返却・解説・質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う内容についての参考文献などでの予習。(学習時間：2時間) 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。(学習時間：2時間)						
授業方法	講義形式で行うが、グループワーク、簡単な課題も予定している。						
評価基準と評価方法	平常点（授業への貢献度、授業態度、リアクションペーパー等）50%：到達目標(2)および(3)の確認 期末試験50%：到達目標(1)、(2)、(3)の確認 課題に対するフィードバックの方法： リアクションペーパーのコメントについては、その週または翌週の授業内で紹介・解説する。 期末試験結果の講評は、第15回の授業内で行う。						
履修上の注意	1. 授業で配布したプリントは、各回の出席者のみ配布する。欠席のときは、松蔭manabaからダウンロードすること。 2. 授業回数の3分の1以上欠席した人は定期試験の受験資格を失うものとする。						
教科書	なし。授業で使用したスライドおよび資料は松蔭manabaからダウンロードできます。						
参考書	授業内で適宜紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	第二言語習得論基礎／第二言語習得論A／Fundamentals of Second Language						
担当教員	大和 祐子					科目ナンバ-	J73290
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	第二言語習得						
授業の概要	第二言語習得論の基礎的な用語や理論を導入し、日本語教育をはじめとする言語教育になぜ第二言語習得のメカニズムを理解することが必要か、また外国語教育にどのように応用可能かを示す。						
到達目標	(1) 第二言語習得に関する基本的な用語が分かる。【知識・理解】 (2) 第二言語を習得する際に起こる現象について説明することができる。【知識・理解】 (3) 第二言語習得論で扱われる現象を自分自身の外国語学習経験と照らし合わせて考え、まとめることができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：第二言語習得論とは 第3回：中間言語(1)独自のルール 第4回：中間言語(2)中間言語の発達 第5回：言語転移(1)母語の影響 第6回：言語転移(2)言語転移に影響する要因 第7回：習得順序 第8回：発達順序 第9回：インプットとアウトプット 第10回：アウトプットの効果 第11回：文法を教えることの意義(1)意識的な知識 第12回：文法を教えることの意義(2)教室での学習の意味 第13回：文法を教えることの意義(3)教室でのインプット 第14回：まとめと試験 第15回：試験返却・解説・質疑応答						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回授業で扱う内容についての参考文献などでの予習。(学習時間：2時間) 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。(学習時間：2時間)						
授業方法	講義形式で行うが、グループワーク、簡単な課題も予定している。						
評価基準と評価方法	平常点(授業への貢献度、授業態度、リアクションペーパー等)50%：到達目標(2)および(3)の確認 期末試験50%：到達目標(1)、(2)、(3)の確認 課題に対するフィードバックの方法： リアクションペーパーのコメントについては、その週または翌週の授業内で紹介・解説する。 期末試験結果の講評は、第15回の授業内で行う。						
履修上の注意	1. 授業で配布したプリントは、各回の出席者のみ配布する。欠席のときは、松蔭manabaからダウンロードすること。 2. 授業回数の3分の1以上欠席した人は定期試験の受験資格を失うものとする。						
教科書	なし。授業で使用したスライドおよび資料は松蔭manabaからダウンロードできます。						
参考書	授業内で適宜紹介する。						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	中国書道史						
担当教員	真鍋 昌生					科目ナンバ-	J72480
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	中国の書道史						
授業の概要	中国書道史を時代区分し、各時代の社会的、文化的背景を踏まえ当時の書の特徴を理解する。その際、具体的な作品を取り上げ鑑賞・臨書し、より理解を深める。						
到達目標	①漢字の発生からその変遷進化、書体の完成、書芸術の発生展開などがわかるようになる。【知識・理解】 ②中国の書の歴史の基本的事項について理解習得することができる。【知識・理解】						
授業計画	①ガイダンス、中国書道史について ②殷、西周（甲骨文、金文） ③西周、東周（石鼓文、帛書） ④秦、前漢（小篆、隸書） ⑤後漢（八分隸、漢碑） ⑥三国、西晋（殘紙、書人の登場） ⑦東晋（王羲之、王献之） ⑧南北朝（龍門二十品） ⑨隋、唐（墓誌銘、初唐の三大家） ⑩唐（中唐・晩唐の書、顔真卿） ⑪宗（淳化閣帖、北宋の四大家） ⑫元、明（趙孟頫、元末明初の書人） ⑬明（中期の書道興隆、董其昌） ⑭清（明末清初の書） ⑮清（揚州八怪、金石学、篆刻）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各授業で扱う内容について、下調べをするなどの予習をすること。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容について、重要な個所を確認・整理すること。（学習時間：2時間） 授業は中国史の時代区分を追いながら進める。よって、中学高校レベルの基礎教養を必要とするのでその復習をしておくこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点50% 課題・レポート50%：到達目標①②を確認						
履修上の注意	10回以上の出席が必要。不足の場合は評価対象外となる。 最低限のマナーを守ること。 授業に際してテキスト・プリントを忘れずに持参すること。  関連する展覧会があれば、美術館で鑑賞会を行うことがある。						
教科書	『書Ⅰ』（光村図書）490円（内税） 『書Ⅱ』（光村図書）490円（内税）						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	デジタル表現の基礎						
担当教員	西川 純司					科目ナンバ-	J72610
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	グラフィックソフトを使用したメディア制作						
授業の概要	この講義では、グラフィックソフト（IllustratorとPhotoshop）の基本的な操作方法を習得し、簡単なメディア制作を行う。具体的には、Illustratorを使用して、図形や線を描いたり、文章レイアウトを作ったりする方法を学ぶ。また、Photoshopを使って、画像を補正したり、修正・加工する方法を習得する。さらに、それらの基本的な操作方法を学んだうえで、簡単な広告物を制作できるようになることを目指す。						
到達目標	<p>(1) グラフィックソフトの基本的な機能を理解し、その操作方法を習得することができる。【汎用的技能】</p> <p>(2) メディア制作を通して、自らのアイデアを発信するための表現力を身につけることができる。【汎用的技能】</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 イントロダクション</li> <li>2 illustratorの基本： illustratorでできること</li> <li>3 図形や線を描く</li> <li>4 オブジェクトを編集する</li> <li>5 文字を入力する</li> <li>6 オブジェクトを取り込む</li> <li>7 中間課題①： illustratorを使ったメディア制作</li> <li>8 Photoshopの基本： Photoshopでできること</li> <li>9 色調を補正する</li> <li>10 選択範囲を操作する</li> <li>11 画像を修正・加工する</li> <li>12 中間課題②： Photoshopを使ったメディア制作</li> <li>13 フライヤー制作①</li> <li>14 フライヤー制作②</li> <li>15 制作課題の発表および講評</li> </ol> <p>・なお、授業の進展にあわせて内容を変更する可能性がある。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習： 授業で扱う内容の範囲をあらかじめ読んでおく。（学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習： 授業で取り上げた内容の要点を確認・整理する。（学習時間：2時間）</p>						
授業方法	<p>実習。</p> <p>松蔭manabaを利用して資料の共有、質疑応答を行う。</p>						
評価基準と評価方法	<p>制作課題 50%： 制作課題において自分のアイデアを表現できているか、表現の的確性・創造性を評価する。到達目標（1）および（2）の到達度の確認。</p> <p>中間課題 20%： ソフトの基本的な機能を理解し、操作方法を習得できているかを評価する。到達目標（1）の到達度の確認。</p> <p>授業態度 30%： 各回提出のリアクションペーパーの内容・記述の的確さを評価する。到達目標（1）および（2）の到達度の確認。</p> <p>なお、第15回の講評を通して、制作課題に対する評価をフィードバックする。</p>						
履修上の注意	<p>授業を欠席した場合は、次回までに必ず授業内容を自習しておくこと。</p> <p>2/3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。</p>						
教科書	『世界一わかりやすい Illustrator & Photoshop 操作とデザインの教科書』、ピクセルハウス、技術評論社、2018年、ISBN：978-4774195513						
参考書							



科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	東西芸術の文化史						
担当教員	上久保 真理					科目ナンバ-	J72570
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	異質な文化が出会うとき、新しいものが生まれる。						
授業の概要	「芸術」という概念はキリスト教西欧で生まれ、西欧主導で発展したと言える。「西」から見て異質なものは「東」と呼ばれ、その異質なもの同士が出会うとき、新たな文化的展開の可能性が生まれる。西欧はどのように東方と対峙し、日本のわたしたちはどのように西洋を受け止め、向き合ってきたのかを、幾つかの歴史的場面を取り上げて検証する。						
到達目標	1) 東西芸術の歴史の中で、異なる文化・伝統がどのように出会い、互いに影響しあって新たな文化的展開を生み出してきたかを学び、理解することができる。【知識・理解】 2) わたしたちのものの見方が文化・伝統によって裏打ちされており、その変化がわたしたちのものの見方を变えらることに気づく。【知識・理解】 3) 異文化との出会いがさらなる文化的発展につながりうることを意識し、積極的に学び、伝える姿勢をもつ。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 東と西 第2回 ギリシャは西方か？ 第3回 ギリシャ的世界観とローマ的世界観 第4回 キリスト教世界における東方と西方 第5回 異教徒たち 第6回 まだ見ぬ東方世界へ 第7回 日本と南蛮 第8回 旅・景色・庭園ーピクチャレスクー 第9回 ロマン主義ーエキゾチックなものへー 第10回 シノワズリー・ジャポニズム 第11回 ジャポニズムと印象主義 第12回 プリミティヴィズムー間文化的な問いー 第13回 西洋美術を纏うー東洋のわたしー 第14回 映画の中の異文化 第15回 日本から海外へ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：授業計画の各回のテーマについて、各自が前もってインターネットで検索、図書室で調べてみるなどして予習を行うこと(学習時間2時間)。 授業後学習：授業で取り上げた箇所の時代背景や、授業で興味を持った文化や作品・作家などについて、各自がさらに掘り下げて調べてみる(学習時間2時間)。 授業中に告知する展覧会などへ積極的に足を運び、生の作品に触れること。紹介した図書や映画も見てみて欲しい。						
授業方法	講義形式。 スライド、DVDなどの使用。 簡単なワークショップ、個人もしくはグループ単位での発表、ディスカッションも取り入れる。						
評価基準と評価方法	平常点(毎回のコメントを含む)30%、宿題レポートなどの提出物や発表20%、期末レポート50%の総合によって評価。						
履修上の注意	私語、携帯やメールの使用、授業中の出入りは慎むこと。 希望があれば費用各自負担・自由参加で学外見学することも可能。 授業の進行状況等により、毎回の授業計画に多少の変更の可能性もある。 ※質問は授業の前後で受け付けます。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に随時紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日韓対照言語学／日韓対照言語学基礎／日韓対照言語学A						
担当教員	金 智英					科目ナンバ-	J72070
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	言語学の視点から韓国語を勉強する						
授業の概要	韓国語と日本語は文の構成が類似しており、一般に学習しやすいといわれている。一方で、助詞の使用や表現方法において日本語とは異なる様相も見られる。その共通点と相違点にはどんなものがあるのか、不自然な表現は何に起因するのかを、対照言語学の視点から探っていく。 受講者は韓国語の初級レベル以上の知識があることが望ましい。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日韓における文構造の共通点と相違点ができる【知識・理解】</li> <li>●日韓における表現の違いを理解する【知識・理解】</li> <li>●母語（日本語）に対し、客観的に考えることができる【態度・志向性】</li> </ul>						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 「ハングル」と「カナ」 第3回 文の構成と用語説明 第4回 助詞 第5回 疑問詞疑問文 第6回 数詞と関連表現 第7回 指示詞と関連表現 第8回 まとめと中間試験 第9回 丁寧表現 第10回 尊敬表現 第11回 まとめ－丁寧語・尊敬語の運用 第12回 日本語と違う助詞を取る動詞 第13回 「-スル」と「-」 第14回 文をつなげる「テ」形と連結語尾「-」 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●予習：次回の学習内容をシラバスなどで確認し、関連用語を調べておく（2時間）</li> <li>●復習：学習内容をノートにまとめて疑問点を整理し、関連する韓国語の語彙や文法を覚えておく（2時間）</li> </ul>						
授業方法	・演習 講義を基本とするが、授業では参加者全員の意見交換などを行うので、積極的な参加が必要である						
評価基準と評価方法	受講態度・課題提出 20% 中間試験30% 期末試験50%						
履修上の注意	出席が10回に満たない場合、単位取得不可となる						
教科書	プリント配布						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日韓対照言語学応用／日韓対照言語学B						
担当教員	金 智英					科目ナンバ-	J72080
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	言語学の視点から韓国語を勉強する						
授業の概要	前期に続き、日本語と韓国語の共通点と相違点について学習する。まずは、外来語の取り入れ方、新造語の作り方を調べ、考察する。後半の授業では、日本語と韓国語において、お互いの母語話者が学習する際に見られる誤用を取り上げ、その原因を対照言語学の視点から考えていく。特に、後期には受講者のグループワークとその結果を発表する時間を設ける。受講者は韓国語の初級レベル以上の知識があることが望ましい。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日韓における文構造の共通点と相違点が見える【知識・理解】</li> <li>●日韓における表現の違いを理解する【知識・理解】</li> <li>●グループで協力して得た結果を分かりやすく伝えることができる【態度・汎用的技能】</li> <li>●母語（日本語）に対し、客観的に考えることができる【態度・志向性】</li> </ul>						
授業計画	第1回 ガイダンスと前期の内容確認 第2回 外来語の表記方法－規則をみつける－ 第3回 外来語の使用状況 第4回 韓国語の新造語 第5回 ●発表－日本語の新造語 第6回 まとめ－日韓における外来語・新造語－ 第7回 「テイル」と「-」 第8回 「テ」形に対応する「-」と「-」 第9回 受身表現 第10回 韓国語母語話者の日本語学習－誤用例から－ 第11回 日本語母語話者の韓国語学習－誤用例から－ 第12回 ●発表－公共の場所の韓国語案内を調べる－ 第13回 表現の違い－日本語に翻訳されたネットニュースから－ 第14回 翻訳練習－機械翻訳－ 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・予習：前もって次回の授業内容を確認し、関連用語や文法などを整理しておく（2時間） ・復習：学習した文法事項や言語学の用語などをノートにまとめ、韓国語の語彙や文法を覚える（2時間）						
授業方法	・演習 講義を基本とするが、グループワークや発表が複数回ある。なお、授業中は前期同様、参加者全員の意見交換もあるので、積極的な参加が必要である						
評価基準と評価方法	受講態度・課題提出 20% 発表 40% 期末試験 40%						
履修上の注意	出席が10回に満たない場合、単位取得不可となる						
教科書	プリント配布						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日中対照言語学／日中対照言語学基礎／日中対照言語学A						
担当教員	古川 典代					科目ナンバ-	J72050
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語と中国語の対照研究						
授業の概要	日本語と中国語を対照することにより、両者の差異と共通点について考える。日本語の中に見られる中国語の影響や、中国語への日本語の逆輸入などを把握し、同時代の2言語を比較対照しながら日本語を客観的に捉える視点を育成する。また、日本語教育の観点から、学習者の母語（中国語）を把握することで、学習者の母語の干渉についても理解を深める。						
到達目標	中国語の特性を認識し、日中両言語間の類似性と相違性を把握できる。【知識・理解】 日本と中国との異同の中から歴史的関係性に興味を持つことができる。【態度・志向性】						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>①中国・中国語概況</li> <li>②日本語にみられる中国語の影響と中国語にみられる日本語の影響</li> <li>③日中同形異義語</li> <li>④中国人にとって難しい日本語（作文）</li> <li>⑤中国人にとって難しい日本語（会話）</li> <li>⑥字幕翻訳について</li> <li>⑦日本語と中国語の文法の違い</li> <li>⑧アルファベットや数字によるコミュニケーション</li> <li>⑨日本と中国の文化・風習の違い</li> <li>⑩日中の飲食文化について</li> <li>⑪まとめ</li> <li>⑫受講生がテーマを決めて研究発表（習慣）</li> <li>⑬受講生がテーマを決めて研究発表（文化）</li> <li>⑭受講生がテーマを決めて研究発表（語彙・翻訳）</li> <li>⑮総括</li> </ul>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：日中の違いを毎回のテーマごとに対照するので、日頃から興味のアンテナを張り巡らせておく。各界のテーマをネットで調べるなど事前知識を用意しておく。（学習時間2時間）</p> <p>授業後学習：授業で取り上げた内容について疑問点を自分なりに調べてみる。次週の冒頭にける解答と照らし合わせる。後半に研究発表が控えているので、日頃から問題意識を持ち、情報収集する。（学習時2時間）</p>						
授業方法	<p>演習：毎回のテーマに合わせ、日中を対照して紹介する。その後、質疑応答を経て、理解を深める。コメントシートに自身の考えや、気づいた点などを書き込む。12回目の授業時より、自身が興味を持った事柄について調べ、10分程度の研究発表を行う。それに関してクラス内でディスカッションする。</p>						
評価基準と評価方法	平常点50%（授業中のパフォーマンス等。遅刻、早退、携帯いじり、居眠り、私語は各-1点）、研究発表30%、レポート20%						
履修上の注意	中国語の学習経験があるほうが望ましい。三分の二以上の出席が必要。						
教科書	毎回プリントを配布						
参考書	『日中対照言語学研究論文集』大河内康憲 くろしお出版						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日中対照言語学応用／日中対照言語学B						
担当教員	古川 典代					科目ナンバ-	J72060
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語と中国語の対照研究						
授業の概要	日本語と中国語を対照することにより、両者の差異と共通点について考える。前期で日中対照言語学の概要を把握したので、後期は代表論文を通して日中対照言語学の研究状況を把握する。また、日本語教育の観点から、学習者の母語（中国語）干渉について誤用例分析を行う。						
到達目標	日中対照言語学A（基礎）をベースとし、中国語母語話者への日本語教育時における母語の干渉について理解する。【知識・理解】 中国語を母語とする日本語学習者への日本語教授法の工夫ができる。【態度・志向性】						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>①中国の通過儀礼（結婚式事情）</li> <li>②日中祝祭日比較</li> <li>③外来語の受容と色彩感覚の差異</li> <li>④日本語と中国語の同形異義語</li> <li>⑤中国語の発音特性</li> <li>⑥中国語の文法特性</li> <li>⑦中国人日本語学習者の誤用分析</li> <li>⑧日本語と中国語の対照論文分析Ⅰ</li> <li>⑨日本語と中国語の対照論文分析Ⅱ</li> <li>⑩まとめ、ディスカッション、課題提示</li> <li>⑪個人研究発表1（国情の違い）</li> <li>⑫個人研究発表2（文化・風習の違い）</li> <li>⑬個人研究発表3（言葉の違い）</li> <li>⑭研究発表の補足と講評</li> <li>⑮総まとめ</li> </ul>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：日中の違いを毎回のテーマごとに対照するので、日頃から興味のアナテナを張り巡らせておく。各界のテーマをネットで調べるなど事前知識を用意しておく。（学習時間2時間）</p> <p>授業後学習：授業で取り上げた内容について疑問点を自分なりに調べてみる。次週の冒頭にける解答と照らし合わせる。後半に研究発表が控えているので、日頃から問題意識を持ち、情報収集する。（学習時間2時間）</p>						
授業方法	<p>演習：毎回のテーマに合わせて、日中を対照して紹介する。その後、質疑応答を経て、理解を深める。コメントシートに自身の考えや、気づいた点などを書き込む。8回目、9回目の授業では、既存の日中対象研究の論文を読む。これらにより理解を深めたうえで、11回目の授業時より、自身が興味を持った事柄について調べ、20分程度の研究発表を行う。それに関してクラス内でディスカッションする。</p>						
評価基準と評価方法	平常点50%（授業中のパフォーマンス等。遅刻、早退、携帯いじり、居眠り、私語は各-1点）、研究発表20%、レポート30%						
履修上の注意	中国語の学習経験があるほうが望ましい。三分の二以上の出席が必要。						
教科書	毎回プリントを配布						
参考書	『日中対照言語学研究論文集』大河内康憲 くろしお出版						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日英対照言語学／日英対照言語学基礎／日英対照言語学A						
担当教員	里井 真理子					科目ナンバ-	J72030
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語と英語の対照研究						
授業の概要	日本語と英語について歴史や文法など、いろいろな側面を対照研究することにより両者の差異と共通点を見ていきます。また日本語学習者、英語学習者にとって習得することが難しいと言われる「日本語らしさ」「英語らしさ」についても考えていきます。						
到達目標	(1)日本語と英語の特徴を知り、対照研究への興味・関心を具体的に意識することができる。【態度・志向性】 (2)日本語と英語の対照研究における、基本的な専門用語・事柄などの知識を理解することができる。【知識・理解】 (3)日本語と英語の対照研究における、基本的な専門用語・事柄についてわかりやすく説明・解説ができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 ガイダンス 英語と日本語の違いについて 第2回 言語の歴史 (1) 英語編 第3回 言語の歴史 (2) 日本語編 第4回 言語の語彙 日本語・英語の語彙的特徴 第5回 言語の語順 世界の言語の語順 日本語・英語の語順 第6回 言語の音声 日本語・英語の音声的特徴 第7回 言語の文字 世界の文字 日本語・英語の文字特徴 第8回 丁寧表現 日本語と英語の敬語 第9回 言語変種 日本語と英語の方言 第10回 言語と社会階級 第11回 性別・年齢による語差 第12回 言語接触 第13回 非言語伝達 第14回 言語と文化 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：予め提示された専門用語・事柄について下調べをする。(学習時間2時間) 授業後学習：配布プリント、授業ノートを参考に授業内容の確認・整理をする。 次の授業で復習テストによる理解度を確認する。(学習時間2時間)						
授業方法	講義：各授業テーマの導入、解説・講義を行います。 ペアまたはグループによるさまざまなQuiz・課題についてディスカッションを行います。						
評価基準と評価方法	授業時の活動及び授業態度(40%)、レポートテスト(60%) 授業時の活動及び授業態度：積極的にディスカッションに参加し、Quiz・課題についての内容・記述の的確さを評価します。到達目標(2)及び(3)に関する到達度を確認。 レポートテスト：各レポートテーマについて、授業で取り上げた専門用語・事柄に対する理解度、また説明・解説の簡潔さ、日本語または英語または対照研究についての興味・関心の明確性などについて評価します。到達目標(1)(2)(3)に関する到達目標を確認。						
履修上の注意	1. 毎回、授業始めに復習テストを行います。 2. マナーを守ること、授業への積極的参加を求めます。 3. 10回以上の出席がないと、受講資格を失います。 4. 質疑等は事前に予約をしてください。						
教科書	プリント配布						
参考書							

科目区分	日本語日本文学専攻専門教育科目						
科目名	日英対照言語学応用／日英対照言語学B						
担当教員	里井 真理子					科目ナンバ-	J72040
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語と英語の対照研究						
授業の概要	日本語と英語について歴史や文法など、いろんな側面を対照研究することにより両者の差異と共通点を見ていきます。また日本語学習者、英語学習者にとって習得することが難しいと言われる「日本語らしさ」「英語らしさ」についても考えていきます。						
到達目標	(1)日本語と英語の特徴における知識を深め、対照研究への興味・関心を具体的に意識することができる。【態度・志向性】 (2)日本語と英語の対照研究における、専門用語・事柄などの知識をさらに深めることができる。【知識・理解】 (3)日本語と英語の対照研究における、専門用語・事柄などについてより具体的に説明・解説できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 言語の歴史 (1) 英語編 (応用編) 第3回 言語の歴史 (2) 日本語編 (応用編) 第4回 言語の語彙 日本語・英語の語彙的特徴 (応用編) 第5回 言語の音声 日本語・英語の音声的特徴 (応用編) 第6回 言語の文字 世界の文字 日本語の文字 (応用編) 第7回 丁寧表現 日本語と英語の敬語 (応用編) 第8回 言語変種 日本語と英語の方言 (応用編) 第9回 言語と社会階級 (応用編) 第10回 性別・年齢による語差 (応用編) 第11回 言語とイメージ 日本語・英語の特徴 第12回 言語接触 (応用編) 第13回 非言語伝達 (応用編) 第14回 言語と文化 (応用編) 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習： 予め提示された専門用語・事柄について下調べをする。(学習時間2時間) 授業後学習： 配布プリント、授業ノートを参考に授業内容の確認・整理をする。 次の授業で復習テストによる理解度を確認する。(学習時間2時間)						
授業方法	講義：各授業テーマの導入、解説・講義を行います。 ペアまたはグループによるさまざまなQuiz・課題についてディスカッションを行います。						
評価基準と評価方法	授業時の活動及び授業態度(40%)、レポートテスト(60%) 授業時の活動及び授業態度：積極的にディスカッションに参加し、Quiz・課題についての内容・記述的的確さを評価します。到達目標(2)及び(3)に関する到達度を確認。 レポートテスト：各レポートテーマについて、授業で取り上げた専門用語・事柄に対する理解度、また説明・解説の簡潔さ、日本語または英語または対照研究についての興味・関心の明確性などについて評価します。到達目標(1)(2)(3)に関する到達目標を確認。						
履修上の注意	1. 毎回、授業始めに復習テストを行います。 2. マナーを守ること、授業への積極的参加を求めます。 3. 10回以上の出席がないと、受講資格を失います。 4. 質疑等は事前に予約をしてください。						
教科書	プリント配布						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語学の研究／日本語学を学ぶA						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ-	J73280
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語を主対象とする意味論						
授業の概要	言葉と意味との関係を理解したのち、我々が言葉の意味をどのように理解しているかを学ぶ。						
到達目標	<p>(1) 知識・理解:</p> <p>a. 言葉と意味との関係を掴む。</p> <p>b. 言語の曖昧性・多義性を掴む。</p> <p>(2) 汎用的技能:</p> <p>a. 学説が必ずしも定まっていなことに意識的である。</p> <p>b. 構造的単位とその構成要素とに意識的である。</p> <p>c. 科学的分析の基礎が実践できる。</p> <p>d. 意味の計算過程を辿ることができる。</p> <p>(3) 態度・志向性:</p> <p>授業を通じて、卒業研究の種を掴む。</p>						
授業計画	<p>01: 授業概要の説明</p> <p>02: 言葉と意味との関係</p> <p>03: 意味論と語用論との違い</p> <p>04: 第1章の講読</p> <p>05: 集合と関数</p> <p>06: 第2章の講読</p> <p>07: 命題論理</p> <p>08: 第3章の講読</p> <p>09: 述語論理</p> <p>10: 第4章の講読</p> <p>11: 構造、範疇、類型</p> <p>12: 第5章の講読</p> <p>13: 第7章の講読</p> <p>14: 全体のまとめと期末課題指導</p> <p>15: 期末課題添削</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>(1) 授業前学習（毎週2時間）：教員が指示した重要語句や参考文献の予習。</p> <p>(2) 授業後学習（毎週2時間）：授業内容の復習と期末課題の準備。</p>						
授業方法	<p>(1) 板書やスクリーンを活用しながら講義を行なったのち、授業内で完結する課題を与える。学生から得た正答や名案は受講者全員で共有する。</p> <p>(2) 練習問題や課題を複数人で行なう機会がある。</p>						
評価基準と評価方法	<p>(1) 授業内課題：50%</p> <p>到達目標（1, 3）の確認。</p> <p>教員が授業内で与えた課題に対して、積極的に、かつ、的確に回答したか。</p> <p>(2) 期末課題：50%</p> <p>到達目標（2, 3）の確認。</p> <p>授業内容に即した論理的文章の作成。</p>						
履修上の注意	特段の理由無く欠席した者に対する学習補助は一切行なわない。						
教科書	吉本 啓・中村 裕昭（2016）『現代意味論入門』くろしお出版						
参考書	田中 拓郎（2016）『形式意味論入門』開拓社						



科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教育実習の基礎／日本語教育演習A						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	J72320
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育の実習を行う技能を身につける						
授業の概要	日本語教育の模擬実習を行う。初級教材「みんなの日本語」の教材研究のあと、実習のためになさざまな教授法について概説する。また、導入、ドリルの種類、パターンプラクティス、文型練習、コミュニケーション練習など授業の流れにそって、その具体的な技術、学習者への対応など実習に必要な技術の指導をし、教案作成などの実習のための下準備をし、日本語教育における実習授業を実施する。授業の一環として、留学生との交流や学外での教育実習を予定している。そのため、授業時間外での留学生との合同授業や学内・学外での授業実習や見学を行うことがある。						
到達目標	① 教えるべき文型が理解できる。【知識・理解】 ② 教案を作ることができる。【知識・理解】 ③ 実際に日本語の授業を行うことができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 実習指導1・教授法 第2回 実習指導2・教材研究 色々な教え方 第3回 実習指導3・教材研究 パターンプラクティスに基づく練習 第4回 実習指導4・教案指導の書き方 第5回 実習指導5・教案指導を書く 第6回 文型の調べ方 第7回 文型の説明の仕方 第8回 初級のポイント 第9回 模擬授業1 L2, L3 第10回 模擬授業2 L4, L5 第11回 模擬授業3 L6, L7 第12回 模擬授業4 L8, L9 第13回 模擬授業5 L10, L11 第14回 実習授業 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	担当箇所の教案作り（学習時間2時間） 担当箇所の授業のプリント、PPTなどの準備（学習時間2時間）						
授業方法	講義形式で学んだあと、教壇で実習を行う。 授業見学やフィールドワークを行うこともある。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価 30% 教案・実習レポート20% 【到達目標①及び②に関する到達度の確認】 模擬授業50% 【到達目標③に関する到達度の確認】						
履修上の注意	・1クラス16名くらいを予定している。希望者多数の場合は以下の条件順に選考するので、必ず1回目の授業に出席すること。1回目の授業に参加しない者は受講を認めない。 1 4年生の人。 2 卒業後、TAを目指している人。 3 日本語教授法基礎ABと日本語教授法応用ABを既に履修済みの人。 ・実習科目であるので、4/5以上の出席がないと単位を認定できない。 ・学外の機関に見学や教育実習に行くことがある。						
教科書	みんなの日本語 初級I本冊（スリーエーネットワーク）2,500円 ISBN-10: 4883196038 ISBN-13: 978-4883196036						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教育実習の基礎／日本語教育演習A						
担当教員	岡田 裕子					科目ナンバ-	J72320
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育の実習を行う技能を身につける						
授業の概要	日本語教育の模擬実習を行う。初級教材「みんなの日本語」の教材研究のあと、実習のためになさざまな教授法について概説する。また、導入、ドリルの種類、パターンプラクティス、文型練習、コミュニケーション練習など授業の流れにそって、その具体的な技術、学習者への対応など実習に必要な技術の指導をし、教案作成などの実習のための下準備をし、日本語教育における実習授業を実施する。授業の一環として、留学生との交流や学外での教育実習を予定している。そのため、授業時間外での留学生との合同授業や学内・学外での授業実習や見学を行うことがある。						
到達目標	① 教えるべき文型が理解できる。【知識・理解】 ② 教案を作ることができる。【知識・理解】 ③ 実際に日本語の授業を行うことができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 実習指導1・教授法 第2回 実習指導2・教材研究 色々な教え方 第3回 実習指導3・教材研究 パターンプラクティスに基づく練習 第4回 実習指導4・教案指導の書き方 第5回 実習指導5・教案指導を書く 第6回 文型の調べ方 第7回 文型の説明の仕方 第8回 初級のポイント 第9回 模擬授業1 L2, L3 第10回 模擬授業2 L4, L5 第11回 模擬授業3 L6, L7 第12回 模擬授業4 L8, L9 第13回 模擬授業5 L10, L11 第14回 実習授業 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	担当箇所の教案作り（学習時間2時間） 担当箇所の授業のプリント、PPTなどの準備（学習時間2時間）						
授業方法	講義形式で学んだあと、教壇で実習を行う。 授業見学やフィールドワークを行うこともある。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価 30% 教案・実習レポート20% 【到達目標①及び②に関する到達度の確認】 模擬授業50% 【到達目標③に関する到達度の確認】						
履修上の注意	・1クラス16名くらいを予定している。希望者多数の場合は以下の条件順に選考するので、必ず1回目の授業に出席すること。1回目の授業に参加しない者は受講を認めない。 1 4年生の人。 2 卒業後、TAを目指している人。 3 日本語教授法基礎ABと日本語教授法応用ABを既に履修済みの人。 ・実習科目であるので、4/5以上の出席がないと単位を認定できない。 ・学外の機関に見学や教育実習に行くことがある。						
教科書	みんなの日本語 初級I本冊（スリーエーネットワーク）2,500円 ISBN-10: 4883196038 ISBN-13: 978-4883196036						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教育実習の実践／日本語教育演習B						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	J72330
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育の実習を行う技能を身につける						
授業の概要	日本語教育実習の第二段階として、学内の留学生を対象として日本語教育の教壇実習を行う。文型を積み重ね教育での日本語教育初級の流れと全体をつかみ、初中級、中級、上級へと続く日本語教育の基礎固めを行う。ここでは初級の4技能のうち特に「話す・聞く」教育に重点を置いて、実習を行う。この教壇実習では、学習者の反応など日本語教育の現場で起こる具体的、個別的な事例を体験し、多様化する学習者に対応できるような機会を提供することを目的とする。また、授業の一環として、留学生との交流や学外での教育実習を予定している。そのため、授業時間外での留学生との合同授業や学外での授業実習〔見学〕を行うことがある。また、このクラスは交換留学生も履修するクラスになっており、交換留学生に対して、日本語を教え直接フィードバックをもらうことで日本語を教える技能の上達を目指す。						
到達目標	① 教えるべき文型が理解できる。【知識・理解】 ② 教案を作ることができる。【知識・理解】 ③ 実際に日本語の授業を行うことができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 上手な教え方のコツ 第3回 上手な教え方の工夫 第4回 実習授業1 L11, L12 第5回 実習授業2 L13, L14 第6回 実習授業3 L15, L16 第7回 実習授業4 L17, L18 第8回 実習授業5 L19, L20 第9回 実習授業6 L21, 第10回 実習授業7 L22, 第11回 実習授業8 L23, 第12回 実習授業9 L24, 第13回 実習授業10 L25, 第14回 初級文型のまとめ 第15回 模擬授業の振り返り・まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	担当箇所の教案作り（学習時間2時間） 担当箇所の授業のプリント、PPTなどの準備（学習時間2時間）						
授業方法	講義形式で学んだあと、教壇で実習を行う。 授業見学やフィールドワークを行うこともある。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価 30% 教案・実習レポート20% 【到達目標①及び②に関する到達度の確認】 模擬授業50% 【到達目標③に関する到達度の確認】						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本語教育実習の基礎」あるいは「日本語教育演習A」を履修済みであること。</li> <li>・1クラス16名くらいを予定している。希望者多数の場合は以下の条件順に選考するので、必ず1回目の授業に出席すること。1回目の授業に参加しない者は受講を認めない。             <ol style="list-style-type: none"> <li>1 4年生の人。</li> <li>2 卒業後、TAを目指している人。</li> <li>3 日本語教授法基礎ABと日本語教授法応用ABを既に履修済みの人。</li> </ol> </li> <li>・実習科目であるので、4/5以上の出席がないと単位を認定できない。</li> <li>・学外の機関に見学や教育実習に実習に行くことがある。</li> </ul>						
教科書	みんなの日本語 初級Ⅰ本冊（スリーエーネットワーク）2,500円 ISBN-10: 4883196038 ISBN-13: 978-4883196036						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教育実習の実践／日本語教育演習B						
担当教員	岡田 裕子					科目ナンバ-	J72330
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育の実習を行う技能を身につける						
授業の概要	日本語教育実習の第二段階として、学内の留学生を対象として日本語教育の教壇実習を行う。文型を積み重ね教育での日本語教育初級の流れと全体をつかみ、初中級、中級、上級へと続く日本語教育の基礎固めを行う。ここでは初級の4技能のうち特に「話す・聞く」教育に重点を置いて、実習を行う。この教壇実習では、学習者の反応など日本語教育の現場で起こる具体的、個別的な事例を体験し、多様化する学習者に対応できるような機会を提供することを目的とする。また、授業の一環として、留学生との交流や学外での教育実習を予定している。そのため、授業時間外での留学生との合同授業や学外での授業実習〔見学〕を行うことがある。また、このクラスは交換留学生も履修するクラスになっており、交換留学生に対して、日本語を教え直接フィードバックをもらうことで日本語を教える技能の上達を目指す。						
到達目標	① 教えるべき文型が理解できる。【知識・理解】 ② 教案を作ることができる。【知識・理解】 ③ 実際に日本語の授業を行うことができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 上手な教え方のコツ 第3回 上手な教え方の工夫 第4回 実習授業1 L11, L12 第5回 実習授業2 L13, L14 第6回 実習授業3 L15, L16 第7回 実習授業4 L17, L18 第8回 実習授業5 L19, L20 第9回 実習授業6 L21, 第10回 実習授業7 L22, 第11回 実習授業8 L23, 第12回 実習授業9 L24, 第13回 実習授業10 L25, 第14回 初級文型のまとめ 第15回 模擬授業の振り返り・まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	担当箇所の教案作り（学習時間2時間） 担当箇所の授業のプリント、PPTなどの準備（学習時間2時間）						
授業方法	講義形式で学んだあと、教壇で実習を行う。 授業見学やフィールドワークを行うこともある。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価 30% 教案・実習レポート20% 【到達目標①及び②に関する到達度の確認】 模擬授業50% 【到達目標③に関する到達度の確認】						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本語教育実習の基礎」を履修済みであること。</li> <li>・1クラス16名くらいを予定している。希望者多数の場合は以下の条件順に選考するので、必ず1回目の授業に出席すること。1回目の授業に参加しない者は受講を認めない。             <ol style="list-style-type: none"> <li>1 4年生の人。</li> <li>2 卒業後、TAを目指している人。</li> <li>3 日本語教授法基礎ABと日本語教授法応用ABを既に履修済みの人。</li> </ol> </li> <li>・実習科目であるので、4/5以上の出席がないと単位を認定できない。</li> <li>・学外の機関に見学や教育実習に実習に行くことがある。</li> </ul>						
教科書	みんなの日本語 初級Ⅰ本冊（スリーエーネットワーク）2,500円 ISBN-10: 4883196038 ISBN-13: 978-4883196036						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教育入門						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	J01030
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育入門						
授業の概要	日本語を教えるためには、まず、日本語そのものについて知る必要がある。そのため、まず、母語としての日本語ではなく、外国語としての日本語をどのようにとらえるかを学んでいく。同時に、異文化間コミュニケーション、多文化共生についての理解を深めていく。						
到達目標	1. 日本語教育についての基礎的知識を身につける。【知識・理解①】						
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 日本語の特徴 第3回 序数詩 第4回 世界の文字 第5回 ひらがなを教えてみよう 第6回 変体仮名 第7回 敬語について 第8回 「すみません」の使い方 第9回 共通語の成り立ち 第10回 あいまいな日本語 第11回 「自分」を表す呼び方 第12回 忌み言葉 第13回 英語になった日本語 第14回 日本語のコミュニケーションストラテジー 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前課題：各回授業で扱う予定のキーワードを予習し事前課題をやってくる（学習時間2時間） 事後課題：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認し整理する。宿題として出された課題をmanaba上で提出する。（学習時間2時間）						
授業方法	基本は講義形式で行うが、グループワークやディスカッションも行うため、積極的な参加を望む。						
評価基準と評価方法	平常点（授業への発言や貢献度、取り組みも含む）50%、 小テスト、授業中課題10% 【到達目標①に関する到達度の確認】 期末レポートあるいは試験40% 【到達目標①に関する到達度の確認】						
履修上の注意	全講義回数の4/5以上の出席がなければ、期末レポートや試験を受ける資格を失う						
教科書	適宜プリントを配布						
参考書							

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法応用A						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	J7331A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やしなが、日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。						
授業の概要	日本語教育に必要な実践的知識と技能を学ぶ。日本語の文法・表記・音声などの基礎知識を踏まえて、それを外国語として教授する方法を具体的・実践的に学ぶ。初級の文型教育の特徴など教材研究をしながら、「外国語としての日本語」を非母語話者にどのように教授するのか、外国語教育とは何か違うのかという視点を獲得していく。この授業では特に「日本語の文法」の側面に注目し、それを外国語としてとらえた時どのような特徴があるのか、学習者には何が問題なのかを考えていく。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定しているので積極的な参加を望む。 シラバスに示したペースはあくまで目安であり、興味や理解度に応じて変わることがある。						
到達目標	① 日本語の文法の仕組みやルールに対する知識を学ぶことができる。【知識・理解】 ② よく似た文法の違いを日本語を母語としない人に説明することができる。【汎用的技能】 ③ 日本語学習者と交流し、世界から見た日本を知ることができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 はじめに 第2回 名詞文 第3回 形容詞文 第4回 動詞の分類1 活用による分類 第5回 動詞の分類2 動詞の種類 第6回 辞書形1 辞書形の作り方 第7回 辞書形2 辞書形を用いた文型 第8回 ます形 第9回 て形1 て形の作り方・意味 第10回 て形2 て形を用いた文型 第11回 た形1 た形の作り方・意味 第12回 た形2 た形を用いた文型 第13回 可能形・受身形・使役形 第14回 留学生との交流授業（日程が変わることもある） 第15回 まとめ及び到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習（学習時間2時間） 授業後学習：授業で学んだことのまとめと授業で取り上げた内容に関する課題や問題をやってくること。（学習時間2時間）						
授業方法	基本的には講義形式だが、課題をグループワークで解いたり、ディスカッションを行う。グループワークの報告をふまえ、授業事項について解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	・課題、試験などの総合評価とする。・小テストを含めてテストは必ず受けること。 提出物：10% 授業参加・積極性：50% 【到達目標③に関する達成度の確認】 期末試験あるいはレポート：40% 【到達目標①②に関する達成度の確認】 期末試験は授業内で取り扱った問題、課題、プリント、教科書などから出される。						
履修上の注意	日本語教授法基礎ABは学んでいるものとする。 自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して欲しい。 なお、授業の一環として留学生との交流や、学外見学・研修の可能性がある。 4/5以上出席がないと試験がうけられない可能性がある。						
教科書	『書き込み式でよくわかる 日本語教育文法講義ノート』アルク ISBN978-4757433922						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文学専攻専門教育科目						
科目名	日本語教授法応用A						
担当教員	岡田 裕子					科目ナンバ-	J7331A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やしなが、日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。						
授業の概要	日本語教育に必要な実践的知識と技能を学ぶ。日本語の文法・表記・音声などの基礎知識を踏まえて、それを外国語として教授する方法を具体的・実践的に学ぶ。初級の文型教育の特徴など教材研究をしながら、「外国語としての日本語」を非母語話者にどのように教授するのか、外国語教育とは何か違うのかという視点を獲得していく。この授業では特に「日本語の文法」の側面に注目し、それを外国語としてとらえた時どのような特徴があるのか、学習者には何が問題なのかを考えていく。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定しているので積極的な参加を望む。 シラバスに示したペースはあくまで目安であり、興味や理解度に応じて変わることがある。						
到達目標	① 日本語の文法の仕組みやルールに対する知識を学ぶことができる。【知識・理解】 ② よく似た文法の違いを日本語を母語としない人に説明することができる。【汎用的技能】 ③ 日本語学習者と交流し、世界から見た日本を知ることができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 はじめに 第2回 名詞文 第3回 形容詞文 第4回 動詞の分類1 活用による分類 第5回 動詞の分類2 動詞の種類 第6回 辞書形1 辞書形の作り方 第7回 辞書形2 辞書形を用いた文型 第8回 ます形 第9回 て形1 て形の作り方・意味 第10回 て形2 て形を用いた文型 第11回 た形1 た形の作り方・意味 第12回 た形2 た形を用いた文型 第13回 可能形・受身形・使役形 第14回 留学生との交流授業（日程が変わることもある） 第15回 まとめ及び到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習（学習時間2時間） 授業後学習：授業で学んだことのまとめと授業で取り上げた内容に関する課題や問題をやってもらうこと。（学習時間2時間）						
授業方法	基本的には講義形式だが、課題をグループワークで解いたり、ディスカッションを行う。グループワークの報告をふまえて、授業事項について解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	・課題、試験などの総合評価とする。 ・小テストを含めてテストは必ず受けること。 提出物：10% 授業参加・積極性：50% 【到達目標③に関する達成度の確認】 期末試験あるいはレポート：40% 【到達目標①②に関する達成度の確認】 期末試験は授業内で取り扱った問題、課題、プリント、教科書などから出される。						
履修上の注意	日本語教授法基礎ABは学んでいるものとする。 自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して欲しい。 なお、授業の一環として留学生との交流や、学外見学・研修の可能性がある。 4/5以上出席がないと試験が受けられない可能性がある。						
教科書	『書き込み式でよくわかる 日本語教育文法講義ノート』アルク ISBN978-4757433922						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法応用B						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	J7331B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やしなが、日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。						
授業の概要	多様化する学習者に対応できる実践的な知識と技能を学ぶ。日本語文法を分析することから、よく似た文法の使い分けや、学習者に教授するときの注意点などを考える。「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能の指導方法、誤用分析などを通して、中間言語研究への入門も行う。また、学習者の母語別の問題点の指導法などもとりあげる。年少者への日本語教育、国語教育、母語習得、継承言語など日本語教育をとりまく様々な問題点にもふれる。授業の中で留学生との合同授業を行うこともある。シラバスに示したペースはあくまで目安であり、興味や理解度に応じて変わることがある。						
到達目標	① 日本語の文法の仕組みやルールに対する知識を学ぶことができる。【知識・理解】 ② よく似た文法の違いを日本語を母語としない人に説明することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 はじめに 第2回 可能形 第3回 受身形・使役形 第4回 条件1 と・ば 第5回 条件2 たら・なら・ても 第6回 自動詞 第7回 他動詞 第8回 テンス1 る形・た形 第9回 テンス2 従属節のテンス 第10回 アスペクト1 アスペクトの用法 第11回 アスペクト2 従属節のアスペクト 第12回 モダリティ1 モダリティに関わる表現 第13回 モダリティ2 いろいろなモダリティ 第14回 終助詞 第15回 まとめと到達度確認						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	事前学習：業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習(学習時間2時間) 授業後学習：授業で学んだことのまとめと授業で取り上げた内容に関する課題や問題をやってくること。(学習時間2時間)						
授業方法	基本的には講義形式だが、課題をグループワークで行ったり、ディスカッションを行う。グループワークの報告をふまえ、重要事項について解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	・課題、試験などの総合評価とする。・小テストを含めてテストは必ず受けること。 提出物：10% 授業参加・積極性：50% 【到達目標①に関する達成度の確認】 期末試験あるいはレポート：40% 【到達目標①②に関する達成度の確認】 期末試験は授業内で取り扱った問題、課題、プリント、教科書などから出される。						
履修上の注意	日本語教授法基礎ABは学んでいるものとする。 自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して欲しい。 なお、授業の一環として留学生との交流や、学外見学・研修の可能性がある。 4/5以上出席がないと試験がうけられない可能性がある。						
教科書	『書き込み式でよくわかる 日本語教育文法講義ノート』アルク ISBN978-4757433922						
参考書	授業の中で紹介する。						



科目区分	日本語日本文学専攻専門教育科目						
科目名	日本語教授法応用B						
担当教員	岡田 裕子					科目ナンバ-	J7331B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やしなが、日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。						
授業の概要	多様化する学習者に対応できる実践的な知識と技能を学ぶ。日本語文法を分析することから、よく似た文法の使い分けや、学習者に教授するときの注意点などを考える。「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能の指導方法、誤用分析などを通して、中間言語研究への入門も行う。また、学習者の母語別の問題点の指導法などもとりあげる。年少者への日本語教育、国語教育、母語習得、継承言語など日本語教育をとりまく様々な問題点にもふれる。授業の中で留学生との合同授業を行うこともある。シラバスに示したペースはあくまで目安であり、興味や理解度に応じて変わることがある。						
到達目標	① 日本語の文法の仕組みやルールに対する知識を学ぶことができる。【知識・理解】 ② よく似た文法の違いを日本語を母語としない人に説明することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 はじめに 第2回 可能形 第3回 受身形・使役形 第4回 条件1 と・ば 第5回 条件2 たら・なら・ても 第6回 自動詞 第7回 他動詞 第8回 テンス1 る形・た形 第9回 テンス2 従属節のテンス 第10回 アスペクト1 アスペクトの用法 第11回 アスペクト2 従属節のアスペクト 第12回 モダリティ1 モダリティに関わる表現 第13回 モダリティ2 いろいろなモダリティ 第14回 終助詞 第15回 まとめと到達度確認						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	事前学習：業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習(学習時間2時間) 授業後学習：授業で学んだことのまとめと授業で取り上げた内容に関する課題や問題をやってくること。(学習時間2時間)						
授業方法	基本的には講義形式だが、課題をグループワークで行ったり、ディスカッションを行う。グループワークの報告をふまえ、重要事項について解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	・課題、試験などの総合評価とする。・小テストを含めてテストは必ず受けること。 提出物：10% 授業参加・積極性：50% 【到達目標①に関する達成度の確認】 期末試験あるいはレポート：40% 【到達目標①②に関する達成度の確認】 期末試験は授業内で取り扱った問題、課題、プリント、教科書などから出される。						
履修上の注意	日本語教授法基礎ABは学んでいるものとする。 自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して欲しい。 なお、授業の一環として留学生との交流や、学外見学・研修の可能性がある。 4/5以上出席がないと試験がうけられない可能性がある。						
教科書	『書き込み式でよくわかる 日本語教育文法講義ノート』アルク ISBN978-4757433922						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法基礎A						
担当教員	尾形 文					科目ナンバ-	J7212A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	外国人に対する日本語指導、つまり日本語教育の基礎的な知識の導入と実践に対応できる柔軟な思考を養う。						
授業の概要	日本語を外国語として教えるとはどういうことか、について考える。日本語学習者が必要としていること、また学習者の背景を踏まえながら日本語教育の基礎知識について学んでいく。日本語教師が常に直面する異文化コミュニケーションについても実際の教育現場を通して考えていきたい。さまざまな教授法、コースデザインなどについて述べる。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定されており、場合によっては学外の施設に見学に行く場合もある。						
到達目標	①代表的な外国語教授法に関する基礎的な知識及び日本語指導上不可欠な文法的知識を身に付け説明できる。【知識・理解】 ②交流授業を通して異文化コミュニケーションスキルを身につける。【汎用的技能】						
授業計画	第1回:オリエンテーション 第2回:コースデザインと何か 第3回:ニーズ分析 第4回:目標言語調査 第5回:言語資料分析 第6回:シラバスデザイン 第7回:カリキュラムデザイン 第8回:教室活動とは 第9回:外国語教授法5 OPI 第10回:「話す」ための教室活動 第11回:「書く」ための教室活動 第12回:「聞く」ための教室活動 第13回:総合的な教室活動 第14回:留学生との交流授業(日程が変わることもある) 第15回:まとめ及び到達度確認						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習:各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習(学習時間:2時間) 授業後学習:授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。(学習時間2時間)						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性はある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 課題:10% 授業参加・積極性:50% 【到達目標①に関する到達度の確認】 期末試験あるいはレポート:40% 【到達目標②に関する到達度の確認】						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した人は定期試験の受験資格を失うものとする。 自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して欲しい。 なお授業の一環として学外見学・研修の可能性もある。第1回目の授業で連絡先を公表するので、必ず出席すること。						
教科書	『日本語教育 よくわかる教授法』小林ミナ(2019)アルク ISBN 978-4757433175						
参考書	「日本語教育能力検定試験に合格するための基礎知識」岡田英夫 アルク ISBN978-4-7574-1011-4						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法基礎A						
担当教員	山極 美奈子					科目ナンバ-	J7212A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	外国人に対する日本語指導、つまり日本語教育の基礎的な知識の導入と実践に対応できる柔軟な思考を養う。						
授業の概要	日本語を外国語として教えるとはどういうことか、について考える。日本語学習者が必要としていること、また学習者の背景を踏まえながら日本語教育の基礎知識について学んでいく。日本語教師が常に直面する異文化コミュニケーションについても実際の教育現場を通して考えていきたい。さまざまな教授法、コースデザインなどについて述べる。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定されており、場合によっては学外の施設に見学に行く場合もある。						
到達目標	①代表的な外国語教授法に関する基礎的な知識及び日本語指導上不可欠な文法的知識を身に付け説明できる。【知識・理解】 ②交流授業を通して異文化コミュニケーションスキルを身につける。【汎用的技能】						
授業計画	第1回:オリエンテーション 第2回:コースデザインと何か 第3回:ニーズ分析 第4回:目標言語調査 第5回:言語資料分析 第6回:シラバスデザイン 第7回:カリキュラムデザイン 第8回:教室活動とは 第9回:外国語教授法5 OPI 第10回:「話す」ための教室活動 第11回:「書く」ための教室活動 第12回:「聞く」ための教室活動 第13回:総合的な教室活動 第14回:留学生との交流授業(日程が変わることもある) 第15回:まとめ及び到達度確認						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習:各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習(学習時間:2時間) 授業後学習:授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。(学習時間2時間)						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性もある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 課題:10% 授業参加・積極性:50% 【到達目標①に関する到達度の確認】 期末試験あるいはレポート:40% 【到達目標②に関する到達度の確認】						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した人は定期試験の受験資格を失うものとする。 自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して欲しい。 なお授業の一環として学外見学・研修の可能性もある。第1回目の授業で連絡先を公表するので、必ず出席すること。						
教科書	『日本語教育 よくわかる教授法』小林ミナ(2019)アルク ISBN 978-4757433175						
参考書	「日本語教育能力検定試験に合格するための基礎知識」岡田英夫 アルク ISBN978-4-7574-1011-4						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法基礎B						
担当教員	尾形 文					科目ナンバ-	J7212B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	外国人に対する日本語指導、つまり日本語教育の基礎的な知識の導入と実践に対応できる柔軟な思考を養う。						
授業の概要	日本語を外国語として教えるとはどういうことか、について考える。具体的には、言語教育について、「授業の計画と実施」という視点から考察、日本語教育におけるコミュニケーション教育や異文化理解と真理について学んだ後、言語習得と発達について考えていきたい。さまざまな背景を持つ学習者、年少者への日本語教育、また多様化する教材と教材分析などが主な項目となる。また、授業の中で留学生との交流授業が行われる場合があるので、積極的な参加を望む。						
到達目標	① 代表的な外国語教授法に関する基礎的な知識及び日本語指導上不可欠な文法的知識を身につける。【知識・理解】 ② 交流授業を通して異文化コミュニケーションスキルを身につける。【汎用的技能】						
授業計画	第1回:オリエンテーション 第2回:「教材」と「教具」 第3回:「教材」と「教具」を選ぶ 第4回:「教科書」について理解する 第5回: 教具を知って使いこなす 第6回: 日本語教育の評価 第7回: 主観テストと客観テスト 第8回: テストの結果と評価 第9回: 外国語教授法の流れ 第10回: 人々の往来とコミュニケーションの変化 第11回: 関連領域と外国語教授法 第12回: コミュニカティブアプローチの出現 第13回: 「言語」と「内容」を切り離さない 第14回: 外国語教授法の変遷から何を学ぶか 第15回: 技能別指導法 まとめ 及び 到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習:各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習(学習時間:2時間) 授業後学習:授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。(学習時間2時間)						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性もある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 課題:10% 授業参加・積極性:50% 【到達目標①に関する到達度の確認】 期末試験あるいはレポート:40% 【到達目標②に関する到達度の確認】						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した人は定期試験の受験資格を失うものとする。 自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して欲しい。なお授業の一環として学外見学・研修の可能性もある。						
教科書	『日本語教育 よくわかる教授法』小林ミナ (2019) アルク ISBN 978-4757433175						
参考書	「日本語教育能力検定試験に合格するための基礎知識」岡田英夫 アルク ISBN978-4-7574-1011-4						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法基礎B						
担当教員	山極 美奈子					科目ナンバ-	J7212B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	外国人に対する日本語指導、つまり日本語教育の基礎的な知識の導入と実践に対応できる柔軟な思考を養う。						
授業の概要	日本語を外国語として教えるとはどういうことか、について考える。具体的には、言語教育について、「授業の計画と実施」という視点から考察、日本語教育におけるコミュニケーション教育や異文化理解と真理について学んだ後、言語習得と発達について考えていきたい。さまざまな背景を持つ学習者、年少者への日本語教育、また多様化する教材と教材分析などが主な項目となる。また、授業の中で留学生との交流授業が行われる場合があるので、積極的な参加を望む。						
到達目標	① 代表的な外国語教授法に関する基礎的な知識及び日本語指導上不可欠な文法的知識を身につける。【知識・理解】 ② 交流授業を通して異文化コミュニケーションスキルを身につける。【汎用的技能】						
授業計画	第1回:オリエンテーション 第2回:「教材」と「教具」 第3回:「教材」と「教具」を選ぶ 第4回:「教科書」について理解する 第5回: 教具を知って使いこなす 第6回: 日本語教育の評価 第7回: 主観テストと客観テスト 第8回: テストの結果と評価 第9回: 外国語教授法の流れ 第10回: 人々の往来とコミュニケーションの変化 第11回: 関連領域と外国語教授法 第12回: コミュニカティブアプローチの出現 第13回: 「言語」と「内容」を切り離さない 第14回: 外国語教授法の変遷から何を学ぶか 第15回: 技能別指導法 まとめ 及び 到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習:各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習(学習時間:2時間) 授業後学習:授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。(学習時間2時間)						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性もある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 提出物:10% 授業参加・積極性:50% 【到達目標①に関する到達度の確認】 期末試験あるいはレポート:40% 【到達目標②に関する到達度の確認】						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した人は定期試験の受験資格を失うものとする。 自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して欲しい。なお授業の一環として学外見学・研修の可能性もある。						
教科書	『日本語教育 よくわかる教授法』小林ミナ (2019) アルク ISBN 978-4757433175						
参考書	「日本語教育能力検定試験に合格するための基礎知識」岡田英夫 アルク ISBN978-4-7574-1011-4						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語音韻史／日本語史A						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ-	J73150
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	古代日本語の音韻および表記の変遷						
授業の概要	音声と文字との関係を理解したのち、日本語における音韻・表記の歴史を学ぶ。						
到達目標	<p>(1) 知識・理解:</p> <p>a. 音と文字との関係を掴む。</p> <p>b. 音声と音韻との差異を掴む。</p> <p>c. 日本語の文字・表記の歴史に関する知識を得る。</p> <p>(2) 汎用的技能:</p> <p>a. 学説が必ずしも定まっていなことに意識的である。</p> <p>b. 構造的単位とその構成要素とに意識的である。</p> <p>(3) 態度・志向性:</p> <p>授業を通じて、卒業研究の種を掴む。</p>						
授業計画	<p>01: 授業概要の説明</p> <p>02: 『萬葉集』の表記法</p> <p>03: 音読みと訓読みとの違い</p> <p>04: 音声から文字への転写</p> <p>05: 文字から音声への推定</p> <p>06: 日本への漢字伝来</p> <p>07: 音仮名による音節表記</p> <p>08: 訓仮名による音節表記</p> <p>09: 音訓の交用</p> <p>10: 漢文と和文との違い</p> <p>11: 和文の成立</p> <p>12: 歌の文字化</p> <p>13: 万葉仮名文から仮名文へ</p> <p>14: 全体のまとめと期末課題指導</p> <p>15: 期末課題添削</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>(1) 授業前学習(毎週2時間): 教員が指示した重要語句や参考文献の予習。</p> <p>(2) 授業後学習(毎週2時間): 授業内容の復習と期末課題の準備。</p>						
授業方法	<p>(1) 板書やスクリーンを活用しながら講義を行なったのち、授業内で完結する課題を与える。学生から得た正答や名案は受講者全員で共有する。</p> <p>(2) 練習問題や課題を複数人で行なう機会がある。</p>						
評価基準と評価方法	<p>(1) 授業内課題: 50%</p> <p>到達目標(1, 3)の確認。</p> <p>教員が授業内で与えた課題に対して、積極的に、かつ、的確に回答したか。</p> <p>(2) 期末課題: 50%</p> <p>到達目標(2, 3)の確認。</p> <p>授業内容に即した論理的文章の作成。</p>						
履修上の注意	特段の理由無く欠席した者に対する学習補助は一切行なわない。						
教科書	佐竹 昭廣・木下 正俊・小島 憲之(校訂)(1998)『補訂版 万葉集 本文篇』塙書房						
参考書	<p>樺島 忠夫(1979)『日本の文字: 表記体系を考える』(岩波新書・黄版75) 岩波書店</p> <p>小松 茂美(1968)『かな: その成立と変遷』(岩波新書・青版679) 岩波書店</p> <p>服部 四郎[1951](1979)『新版 音韻論と正書法』大修館書店</p> <p>沖森 卓也(2003)『日本語の誕生: 古代の文学と表記』吉川弘文館</p>						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語入門						
担当教員	黒木 邦彦・池谷 知子					科目ナンバ-	J01020
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ことばの研究入門						
授業の概要	高校までの国語から、大学における日本語研究への橋渡しとして、日本語教育の視点も取り入れながら、日本語について客観的に観察・検討し、それによって自らのことばへの関心を引き出す。また、その中で日本語の音声・音韻、文字、語彙、文法等の研究に関するごく基礎的な知識を身につける。						
到達目標	① 日本語・日本語教育の諸研究に関する基礎的知識を身につけ、それらについての説明ができるようになる。(知識・理解)						
授業計画	<p>《黒木担当》</p> <p>第1回 日本語のイントロダクション  第2回 日本語の音声・音韻1 (子音・母音)  第3回 日本語の音声・音韻2 (アクセント・イントネーション)  第4回 日本語の文法1 (学校文法)  第5回 日本語の文法2 (現代の文法研究の考え方)  第6回 日本語のバリエーション1 (地域方言)  第7回 日本語のバリエーション2 (社会方言)  第8回 まとめと日本語の復習テスト</p> <p>《池谷担当》</p> <p>第9回 日本語教育のイントロダクション  第10回 世界の言語と日本語  第11回 日本語の文字1 (ひらがな・カタカナ)  第12回 日本語の文字2 (漢字)  第13回 日本語の語彙1 (和語・漢語)  第14回 日本語の語彙2 (外来語・和製英語・混種語)  第15回 まとめと日本語教育の復習テスト</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前：授業計画に従って、次回の授業内容について図書館・インターネット等で下調べをする。(学習時間：2時間) 授業後：授業時やmanaba等で復習のテストを行うことがあるので、授業で学んだことをふまえて整理すること。(学習時間：2時間) 図書館の学科コーナーにある日本語に関する初学者向けの文献をできるだけ多く読んでほしい。						
授業方法	・基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性もある。これらの活動も評価対象になる。 ・manabaを用いた小テスト・レポート等の課題を課すことがある。また、授業時にも小テスト等を行う。						
評価基準と評価方法	授業態度(授業へ取り組み・ペアワークなどの積極性、リアクションペーパーなどの総合的判断)40%、中間および期末試験40%、小テスト・課題20%【到達目標①に関する到達度の確認】						
履修上の注意	自分の覚え書きとしてのノートを作ることを心がけてほしい(大学の学びの基本です)。 ディスカッションや作業には積極的に参加すること。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	今井新悟(2018)『いちばんやさしい日本語教育入門』アスク ISBN: 978-4866391915 藤田保幸(2010)『緑の日本語学教本』和泉書院 ISBN: 978-4757605411 野田尚史・野田春美(2017)『日本語を分析するレッスン』大修館書店 ISBN: 978-4469213621						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日本語入門						
担当教員	黒木 邦彦・池谷 知子					科目ナンバ-	J01020
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ことばの研究入門						
授業の概要	高校までの国語から、大学における日本語研究への橋渡しとして、日本語教育の視点も取り入れながら、日本語について客観的に観察・検討し、それによって自らのことばへの関心を引き出す。また、その中で日本語の音声・音韻、文字、語彙、文法等の研究に関するごく基礎的な知識を身につける。						
到達目標	① 日本語・日本語教育の諸研究に関する基礎的な知識を身につけ、それらについての説明ができるようになる。(知識・理解)						
授業計画	<p>《池谷担当》</p> <p>第1回 日本語教育のイントロダクション  第2回 世界の言語と日本語  第3回 日本語の文字1 (ひらがな・カタカナ)  第4回 日本語の文字2 (漢字)  第5回 世界の文字  第6回 日本語の語彙1 (和語・漢語)  第7回 日本語の語彙2 (外来語・和製英語・混種語)  第8回 まとめと日本語教育の復習テスト</p> <p>《黒木担当》</p> <p>第9回 日本語のイントロダクション  第10回 日本語の音声・音韻1 (子音・母音)  第11回 日本語の音声・音韻2 (アクセント・イントネーション)  第12回 日本語の文法1 (学校文法)  第13回 日本語の文法2 (現代の文法研究の考え方)  第14回 日本語のバリエーション1 (地域方言)</p> <p>第15回 まとめと日本語の復習テスト</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前：授業計画に従って、次回の授業内容について図書館・インターネット等で下調べをする。(学習時間：2時間)</p> <p>授業後：授業時やmanaba等で復習のテストを行うことがあるので、授業で学んだことをふまえて整理すること。(学習時間：2時間)</p> <p>図書館の学科コーナーにある日本語に関する初学者向けの文献をできるだけ多く読んでほしい。  図書館の学科コーナーにある日本語に関する初学者向けの文献をできるだけ多く読んでほしい。</p>						
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性もある。これらの活動も評価対象になる。</li> <li>・manabaを用いた小テスト・レポート等の課題を課すことがある。また、授業時にも小テスト等を行う。</li> </ul>						
評価基準と評価方法	授業態度(授業へ取り組み・ペアワークなどの積極性、リアクションペーパーなどの総合的判断)40%、中間および期末試験40%、小テスト・課題20%【到達目標①に関する到達度の確認】						
履修上の注意	自分の覚え書きとしてのノートを作ることを心がけてほしい(大学の学びの基本です)。ディスカッションや作業には積極的に参加すること。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	今井新悟(2018)『いちばんやさしい日本語教育入門』アスク ISBN: 978-4866391915 藤田保幸(2010)『緑の日本語学教本』和泉書院 ISBN: 978-4757605411 野田尚史・野田春美(2017)『日本語を分析するレッスン』大修館書店 ISBN: 978-4469213621						



科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習A						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバ-	J0307A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の食文化						
授業の概要	日本とは何かを見つめ、様々な視点から検討することで、今、我々が生きている地域と文化のあるべき姿を問い直す。						
到達目標	様々なジャンルの作品を豊かな感受性をもって読むことを通じて、生涯にわたって学び続ける姿勢を保持することができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 日本文化のさまざま 第3回 郷土の料理 第4回 伝統食 第5回 季節の料理 第6回 肉食 第7回 こなもの 第8回 和菓子 第9回 洋菓子 第10回 そば食 第11回 うどん文化 第12回 名物料理 第13回 駅弁 第14回 美食家 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業中に提示した関連文献を、あらかじめ精読しておくこと。自宅、図書館等での勉学に80時間程度は必要であろう。						
授業方法	あらかじめ用意してきたものを各自が授業時間中に適宜、提示し、それらの差異を確認した上で、より良き結論に向けて討論する作業を継続していく演習形式。						
評価基準と評価方法	「様々なジャンルの作品の魅力を感じ、生涯にわたって学ぶ姿勢を保持できる」との到達目標への達成度を最終的に評価するためにレポート試験を実施する。授業に対する取組等の日常の勉学状況も、その過程を重視し評価することとする。その割合は日常的な授業に対する取組状況等70%、レポート試験30%とする。						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	嵐山光三郎『文人悪食』新潮文庫 ISBN：978-4-10-141905-3						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習A						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	J0307A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語として出会う「日本語」						
授業の概要	日本語教科書の教材分析を通して日本語を客観的に整理し、日本語母語話者の使っている日本語の実態に迫る。日本語教材を様々な角度から分析し、そこ日本語母語話者の話す日本語がどのように整理されているのか、またその言語表現の背後にある日本語使用と意識について、考えていく。演習はそれぞれが担当箇所を読み、まとめ、口頭発表する形式で進める。留学生との合同授業を行うこともある。						
到達目標	① 母語である「日本語」に対する深い知識を身につけることができる。【知識・理解】 ② 母語である「日本語」を客観的に分析することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 第一演習についての位置づけ 第2回 日本語文法への招待 第3回 日本語の品詞 第4回 名詞述語分と形容詞述語 第5回 語から文へ---助詞 第6回 文の要素のとりたて---焦点化 第7回 ハとガの話---主語か述語か 第8回 動詞述語 第9回 ヴォイス1---受身 第10回 ヴォイス2---使役 第11回 ヴォイス3---授受 第12回 ヴォイスの選択 第13回 テンス---述語のル形とタ形 第14回 アスペクト1---ル形・タ形とテイルの形 第15回 アスペクト2---テアル・テオク・テシマウ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：予習として該当する部分を読んで分からない言葉を調べること（授業外学習：2時間） 事後学習：各課の終わりにあるまとめの問題をやること、 発表担当者は図書館などを利用して、積極的に調べハンドアウトを作成すること。（授業外学習：2時間）						
授業方法	講義と各自の発表（プレゼンテーション）の後、それに関するディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	授業態度や参加度（30%） 発表（50%）とレポート（20%）【到達目標①と②に関する到達度の確認】 授業態度や参加度：授業への取り組み、グループ討議の参加度、発表に対するコメントなどにより総合的に評価する。 発表：発表態度、与えられたテーマについての内容、取り組みなどを評価する。						
履修上の注意	・出席するだけでなく、積極的な授業参加望む。 ・欠席するときは必ず事前に連絡すること。 ・4/5以上出席がないと、受講資格を失う。 なお、授業の一環として留学生との交流や、学外見学・研修の可能性がある。						
教科書	近藤安月子（2008）『日本語教師を目指す人のための日本語学入門』研究社（1800円） ISBN978-4-327-38452-4						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習A						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ-	J0307A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語の音韻論・形態論						
授業の概要	音韻論・形態論の基礎を学んだのち、先行研究の記述から不備や改善点を見付ける。						
到達目標	<p>(1) 知識・理解: 音声、音韻、文字の関係を掴む。</p> <p>(2) 汎用的技能: a. 学説が必ずしも定まっていないことに意識的である。 b. 構造的単位とその構成要素とに意識的である。 c. 科学的分析の基礎が実践できる。</p> <p>(3) 態度・志向性: 授業を通じて、卒業研究の種を掴む。</p>						
授業計画	<p>01: 授業概要の説明 02: 音声と文字との関係 03: 音声と文字との関係に関する文献の講読 04: 音声と文字との関係の総括 05: 音声と音韻との関係 06: 音声と音韻との関係に関する文献の講読 07: 音声と音韻との関係の総括 08: 語の構造 09: 語の構造に関する文献の講読 10: 語の構造の総括 11: 語、句、節の階層構造 12: 語、句、節の階層構造に関する文献の講読 13: 語、句、節の階層構造の総括 14: 全体のまとめと期末課題指導 15: 期末課題添削</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>(1) 授業前学習（毎週2時間）：教員が指示した重要語句や参考文献の予習。 (2) 授業後学習（毎週2時間）：授業内容の復習と期末課題の準備。</p>						
授業方法	<p>(1) 板書やスクリーンを活用しながら講義を行なったのち、授業内で完結する課題を与える。学生から得た正答や名案は受講者全員で共有する。 (2) 練習問題・課題を複数人で行なう機会がある。</p>						
評価基準と評価方法	<p>(1) 授業内課題：50% 到達目標（1, 3）の確認。 教員が授業内で与えた課題に対して、積極的に、かつ、的確に回答したか。</p> <p>(2) 期末課題：50% 到達目標（2, 3）の確認。 授業内容に即した論理的文章の作成。</p>						
履修上の注意	特段の理由無く欠席した者に対する学習補助は一切行なわない。						
教科書	川添 愛 (2017) 『働きたくないイタチと言葉がわかるロボット』朝日出版社						
参考書	<p>南 不二男 (1974) 『現代日本語の構造』大修館書店 上山 あゆみ (1991) 『はじめての人の言語学—ことばの世界へ』くろしお出版 小泉 保 (1993) 『日本語教師のための言語学入門』大修館書店 川原 繁人 (2015) 『音とことばのふしぎな世界：メイド声から英語の達人まで』（岩波科学ライブラリー244）、岩波書店 川原 繁人 (2017) 『「あ」は「い」より大きい!?: 音象徴で学ぶ音声学入門』ひつじ書房</p>						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文学第一演習A						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ-	J0307A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	身の回りのことばを見つめる						
授業の概要	方言に関するテキストを講読することによって、現代日本語の話しことばにおけるさまざまな問題点を明らかにしていく。 そののち、各自の興味・関心にしたがって、それぞれの課題を設定し発表する。						
到達目標	(1)文章を適切に要約することができる。(知識・理解(1)) (2)要約した内容をわかりやすく発表することができる。(汎用的技能(1)) (3)日本語の多様性について理解を深め、そこから適切な調査対象を見つけることができる。(汎用的技能(2))						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 発表の方法 第3回 日本語に関するテキストの講読①(第1講) 第4回 日本語に関するテキストの講読②(第2講) 第5回 日本語に関するテキストの講読③(第3講-1) 第6回 日本語に関するテキストの講読④(第3講-2,3) 第7回 日本語に関するテキストの講読⑤(第3講-4) 第8回 日本語に関するテキストの講読⑥(第4講-1,2) 第9回 日本語に関するテキストの講読⑦(第4講-3,4) 第10回 日本語に関するテキストの講読⑧(第4講-5,6,7) 第11回 日本語に関するテキストの講読⑨(第5講) 第12回 日本語に関するテキストの講読⑨(第6講) 第13回 日本語に関するテキストの講読⑨(第7講) 第14回 後期授業発表内容の検討 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前：次回講読分の予習が必要。疑問点等をチェックして授業に臨む。(学習時間：2時間) 授業後：授業後：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。(学習時間：2時間) また、各自が研究計画をすることになるため、身近な問題としてことばに敏感であってほしい。						
授業方法	演習形式 各回の担当箇所の発表ののち、内容についてのディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	発表(質疑に対する応答含む)40%(到達目標(1)(2)に関する到達度の確認) 日常的な授業に対する取り組み状況等の評価(テキストの内容に関する疑問点のあぶりだしと質疑)60%(到達目標(3)に関する到達度の確認)						
履修上の注意	講読、テーマ発表に際して、発表者には入念な準備を、参加者には活発な討論を期待する。						
教科書	山下好孝(2013)『関西弁講義』講談社(講談社学術文庫) ISBN-10: 4062921804 ISBN-13: 978-4062921800						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習A						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバ-	J0307A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文化としての芸術						
授業の概要	日本の美術の展開（飛鳥～桃山時代）について理解する。特に、書、絵画の分野に注目し、日本文化について考察する。						
到達目標	①日本の美術の展開（飛鳥～桃山時代）を理解する。【知識・理解】 ②日本文化について、また各自が関心をもつ分野について自らの言葉で論じることができる。【汎用的技能】【態度・志向性】						
授業計画	1) ガイダンス（演習の進め方、注意事項について） 2) 飛鳥時代 3) 奈良時代 4) 平安時代① 5) 平安時代② 6) 平安時代③ 7) 平安時代④ 8) 平安時代⑤ 9) 鎌倉時代① 10) 鎌倉時代② 11) 室町時代、桃山時代① 12) 室町時代、桃山時代② 13) 室町時代、桃山時代③ 14) 各自の関心事について小発表①～卒業論文に向けて 15) 各自の関心事について小発表②、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：購読テキストの予習。（学習時間：2時間） 授業後学習：購読テキストの復習。紹介した資料を必ず読むこと。関心事についての資料を積極的に調査すること。（学習時間：2時間）						
授業方法	購読、講義、演習、発表						
評価基準と評価方法	平常点（受講態度、討議への参加姿勢など）20%：到達目標①②の到達度確認 レポート・小テスト30%：到達目標①の到達度確認 発表50%：到達目標②の到達度確認 課題に関するフィードバック：テストは返却し、レポートは授業内で全体に向けてコメント、紹介する。						
履修上の注意	関連する展覧会があれば美術館で鑑賞会を行うことがある。 随時確認の小テストを行う。事前予告は授業中に行う。 芸術分野に関する京都や奈良への研修を予定している。 書道展を予定しており、そこに「各自の関心事について小発表①～卒業論文に向けて」の報告書を出品する。						
教科書	『日本美術101－鑑賞ガイドブック』神林恒道・新関伸也（三元社）2800円＋税 ISBN978-4-88303-228-0						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習B						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバ-	J0307B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の文化を継承するために						
授業の概要	日本とは何かを見つめ、様々な視点から検討することで、今、我々が生きている地域と文化のあるべき姿を問い直し、継承する。						
到達目標	様々なジャンルの作品を豊かな感受性をもって読むことを通じて、生涯にわたって学び続ける姿勢を保持することができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 日本文化の新たな姿 第3回 創作料理 第4回 食を評価すること 第5回 プロとアマ 第6回 給食 第7回 レストラン 第8回 コンビニ 第9回 スイート 第10回 管理食 第11回 携帯食 第12回 断食 第13回 栄養食 第14回 悪食家 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業中に提示した関連文献を、あらかじめ精読しておくこと。自宅、図書館等での勉学に80時間程度は必要であろう。						
授業方法	あらかじめ用意してきたものを各自が授業時間中に適宜、提示し、それらの差異を確認した上で、より良き結論に向けて討論する作業を継続していく演習形式。						
評価基準と評価方法	「様々なジャンルの作品の魅力を感じ、生涯にわたって学ぶ姿勢を保持できる」との到達目標への達成度を最終的に評価するためにレポート試験を実施する。授業に対する取組等の日常の勉学状況も、その過程を重視し評価することとする。その割合は日常的な授業に対する取組状況等70%、レポート試験30%とする。						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	嵐山光三郎『文人悪食』新潮文庫 ISBN：978-4-10-141905-3						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習B						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	J0307B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語として出会う「日本語」						
授業の概要	日本語教科書の教材分析を通して日本語を客観的に整理し、日本語母語話者の使っている日本語の実態を新たな観点から捉え直す作業をする。演習形式で進める。後半は4年次の卒業論文なども視野に入れ、自分自身のテーマを見つけていくための演習・訓練となる。留学生との合同授業を行うこともある。						
到達目標	① 母語である「日本語」に対する深い知識を身につけることができる。【知識・理解】 ② 母語である「日本語」を客観的に分析することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 夏休みのレポートの発表 第2回 夏休みのレポートの発表 第3回 イクとクル、テイクとテクル 第4回 単文から複文へ～従属節の色々 第5回 連体修飾節 第6回 時を表す従属節 第7回 条件を表す条件節 第8回 出来事の関係を表す従属節 第9回 モダリティの表現 第10回 出来事の間接づけ 第11回 終助詞 第12回 待遇表現—敬語 第13回 指示語 第14回 文から談話へ 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：予習として該当する部分を読んで分からない言葉を調べる（授業外学習：2時間） 事後学習：各課の終わりにあるまとめの問題をやること、発表担当者は図書館などを利用して、積極的に調べハンドアウトを作成すること。（授業外学習：2時間）						
授業方法	講義と各自の発表（プレゼンテーション）の後、それに関するディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	授業態度や参加度（30%） 発表（50%）とレポート（20%）【到達目標①と②に関する到達度の確認】 授業態度や参加度：授業への取り組み、グループ討議の参加度、発表に対するコメントなどにより総合的に評価する。 発表：発表態度、与えられたテーマについての内容、取り組みなどを評価する。						
履修上の注意	・出席するだけでなく、積極的な授業参加望む。 ・欠席するときは必ず事前に連絡すること。 ・4/5以上出席がないと、受講資格を失う。 なお、授業の一環として留学生との交流や、学外見学・研修の可能性もある。						
教科書	近藤安月子（2008）『日本語教師を目指す人のための日本語学入門』研究社（1800円） ISBN978-4-327-38452-4						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習B						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ-	J0307B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語の形態論・統語論・意味論						
授業の概要	統語論・意味論の基礎を学んだのち、先行研究の記述から不備や改善点を見付ける。						
到達目標	<p>(1) 知識・理解:</p> <p>a. 言葉と意味との関係を掴む。</p> <p>b. 言葉の曖昧性・多義性を掴む。</p> <p>(2) 汎用的技能:</p> <p>a. 学説が必ずしも定まっていなことに意識的である。</p> <p>b. 構造的単位とその構成要素とに意識的である。</p> <p>c. 科学的分析の基礎が実践できる。</p> <p>(3) 態度・志向性:</p> <p>授業を通じて、卒業研究の種を掴む。</p>						
授業計画	<p>01: 授業概要の説明</p> <p>02: 語、句、節の階層構造</p> <p>03: 語、句、節の階層構造に関する文献の講読</p> <p>04: 語、句、節の階層構造の総括</p> <p>05: 項構造と格標示との関係</p> <p>06: 項構造と格標示との関係に関する文献の講読</p> <p>07: 項構造と格標示との関係の総括</p> <p>08: 言葉と意味との関係</p> <p>09: 言葉と意味との関係に関する文献の講読</p> <p>10: 言葉と意味との関係の総括</p> <p>11: 言葉の曖昧性・多義性</p> <p>12: 言葉の曖昧性・多義性に関する文献の講読</p> <p>13: 言葉の曖昧性・多義性の総括</p> <p>14: 全体のまとめと期末課題指導</p> <p>15: 期末課題添削</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>(1) 授業前学習(毎週2時間): 教員が指示した重要語句や参考文献の予習。</p> <p>(2) 授業後学習(毎週2時間): 授業内容の復習と期末課題の準備。</p>						
授業方法	<p>(1) 板書やスクリーンを活用しながら講義を行なったのち、授業内で完結する課題を与える。学生から得た正答や名案は受講者全員で共有する。</p> <p>(2) 練習問題・課題を複数人で行なう機会がある。</p>						
評価基準と評価方法	<p>(1) 授業内課題: 50%</p> <p>到達目標(1, 3)の確認。</p> <p>教員が授業内で与えた課題に対して、積極的に、かつ、的確に回答したか。</p> <p>(2) 期末課題: 50%</p> <p>到達目標(2, 3)の確認。</p> <p>授業内容に即した論理的文章の作成。</p>						
履修上の注意	特段の理由無く欠席した者に対する学習補助は一切行なわない。						
教科書	川添 愛 (2017)『働きたくないイタチと言葉がわかるロボット』朝日出版社						
参考書	南 不二男 (1974)『現代日本語の構造』大修館書店 吉本 啓・中村 裕昭 (2016)『現代意味論入門』くろしお出版						



科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習B						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ-	J0307B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	身の回りのことばを見つめる						
授業の概要	前期のテキストの講読内容を踏まえ、後期は実際に自分でデータを取り分析することとする。あることばやことばの用い方に対して抱く「なんか変だ」「ちょっと気になる」「自分の使い方とは違う」等々の直感を、データ収集とデータ分析を通して、研究のレベルまで発展させていってほしい。						
到達目標	(1) 日本語の多様性について理解を深め、そこから適切な調査対象を見つけることができる。(汎用的技能(2)) (2) 基本的な知識と手法を用いてことばを分析できる。(汎用的技能(1)) (3) 他人の発表に際し、積極的に関心を持って質問や意見を言うことができる。(態度・志向性(2))						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 データの取り方 第3回 分析の方法 第4回 発表内容の検討① 第5回 発表内容の検討② 第6回 発表内容の検討③ 第7回 発表内容の検討④ 第8回 個人別演習発表① 第9回 個人別演習発表② 第10回 個人別演習発表③ 第11回 個人別演習発表④ 第12回 個人別演習発表⑤ 第13回 個人別演習発表⑥ 第14回 個人別演習発表⑦ 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前：次回講読分の予習が必要。疑問点等をチェックして授業に臨む。(学習時間：2時間) 授業後：授業後：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。(学習時間：2時間) また、各自が研究計画をすることになるため、身近な問題としてことばに敏感であってほしい。						
授業方法	演習形式 担当者の発表ののち、その内容についてのディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価(質疑内容含む) 60% (到達目標(1)(2)に関する到達度の確認) 発表(質疑に対する応答含む) 40% (到達目標(3)に関する到達度の確認)						
履修上の注意	テーマ発表に際して、発表者には入念な準備を、参加者には活発な討論を期待する。						
教科書	なし。						
参考書	山下好孝(2013)『関西弁講義』講談社(講談社学術文庫)						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習B						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバ-	J0307B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文化としての芸術						
授業の概要	日本の美術の展開（江戸～明治時代）について理解する。 特に、書、絵画の分野に注目し、日本文化について考察する。						
到達目標	①日本の美術の展開（江戸～明治時代）を理解する。【知識・理解】 ②日本文化について、また各自が関心をもつ分野について自らの言葉で論じることができる。【汎用的技能】【態度・志向性】						
授業計画	1) 江戸時代① 2) 江戸時代② 3) 江戸時代③ 4) 江戸時代④ 5) 江戸時代⑤ 6) 江戸時代⑥ 7) 江戸時代⑦ 8) 明治時代① 9) 明治時代② 10) 明治時代③ 11) 明治時代④ 12) 各自の関心事について発表～卒業論文に向けて① 13) 各自の関心事について発表～卒業論文に向けて② 14) 各自の関心事について発表～卒業論文に向けて③ 15) まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：購読テキストの予習。（学習時間：2時間） 授業後学習：講読テキストの復習。紹介した資料を必ず読むこと。関心事についての資料を積極的に調査すること。（学習時間：2時間）						
授業方法	購読、講義、演習、発表						
評価基準と評価方法	平常点（受講態度、討議への参加姿勢など）20%：到達目標①②の到達度確認 レポート・小テスト30%：到達目標①の到達度確認 発表50%：到達目標②の到達度確認 課題に関するフィードバック：テストは返却し、レポートは授業内で全体に向けてコメント、紹介する。						
履修上の注意	関連する展覧会があれば美術館で鑑賞会を行うことがある。 随時確認の小テストを行う。事前予告は授業中に行う。 芸術分野に関する京都や奈良への研修を予定している。 書道展を予定しており、「各自の関心事について発表～卒業論文に向けて」の報告書を展示する。						
教科書	『日本美術101－鑑賞ガイドブック』神林恒道・新関伸也（三元社）2800円＋税 ISBN978-4-88303-228-0						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習A						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバ-	J0408A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	食を通して見た日本文化						
授業の概要	日本とは何かを見つめ、様々な視点から検討することで、今、我々が生きている時代のあり方を考え、継承していくべきものに迫る。						
到達目標	様々なジャンルの作品を豊かな感受性をもって読むことを通じて、生涯にわたって学び続ける姿勢を保持することができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 歴史家と食文化 第3回 棋士と食文化 第4回 文楽と食文化 第5回 大道芸人と食文化 第6回 建築家と食文化 第7回 役人と食文化 第8回 司会者と食文化 第9回 脚本家と食文化 第10回 画家と食文化 第11回 漫画家と食文化 第12回 登山家と食文化 第13回 評論家と食文化 第14回 科学者と食文化 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業中に提示した関連文献を、あらかじめ精読しておくこと。自宅、図書館等での勉学に80時間程度は必要であろう。						
授業方法	あらかじめ用意してきたものを各自が授業時間中に適宜、提示し、それらの差異を確認した上で、より良き結論に向けて討論する作業を継続していく演習形式。						
評価基準と評価方法	到達目標「様々なジャンルの作品の魅力を感じ、生涯にわたって学ぶ姿勢を保持できる」への達成度を評価するためにレポート試験を実施する。授業に対する取組等の日常の勉学状況も、その過程を重視し評価することとする。その割合は日常的な授業に対する取組状況等70%、レポート試験30%とする。						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	『そばと私』文春文庫 ISBN：978-4-16-790706-8						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習A						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	J0408A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語として出会う「日本語」						
授業の概要	<p>母語である日本語を「外国語として見る」ことは、それほど簡単なことではありません。なぜなら、私たちは無意識のうちに母語としての日本語を自由使いこなしているからです。</p> <p>そこで、日本語の話し言葉を分析したり、日本語学習者の間違いや、日本語に対する疑問について考えることを通じて、私たちが無意識に使っている日本語について客観的に考えていきます。第2演習は卒業研究のための演習です。授業中にふと疑問に思ったことはできるだけノートにとっておくことをおすすめします。「きれい」と「美しい」は何が違うんだろうというような小さな疑問でも後からじっくり考えるためのヒントとなります。留学生との合同授業を行う場合もあります。</p>						
到達目標	<p>① 母語である「日本語」を客観的に分析することができる。【汎用的技能】</p> <p>② 卒論につながるテーマを見つけることができる。【汎用的技能】</p> <p>③ 参考文献や資料をさがすことができる。【汎用的技能】</p>						
授業計画	<p>第1回 第2演習の位置づけについての概説</p> <p>第2回 語彙分析とは</p> <p>第3回 語彙分析方法</p> <p>第4回 語彙分析に関する研究の紹介</p> <p>第5回 語彙分析に関係した研究テーマ</p> <p>第6回 アンケート調査の方法について</p> <p>第7回 アンケートの調査項目の立て方</p> <p>第8回 アンケートの結果分析</p> <p>第9回 クロス集計</p> <p>第10回 アンケートの調査を元にした研究の紹介</p> <p>第11回 アンケート調査に関係した研究テーマ</p> <p>第12回 卒論の書き方</p> <p>第13回 卒論で使うべき言葉</p> <p>第14回 参考文献の書き方</p> <p>第15回 前期のまとめとレポートについての指示</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>事前学習：予習として該当する部分を読んで分からない言葉を調べる（授業外学習：2時間）</p> <p>事後学習：各課の終わりにあるまとめの問題をやること、発表担当者は図書館などを利用して、積極的に調べハンドアウトを作成すること。（授業外学習：2時間）</p> <p>それ以外にも、自分の選んだ卒業論文のテーマについては、図書館などを利用して積極的に調べ、卒論作成につなげていくこと。</p>						
授業方法	講義と各自の発表（プレゼンテーション）の後、それ続いてディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	<p>授業態度や参加度（30%）</p> <p>発表（50%）とレポート（20%）【到達目標①と②に関する到達度の確認】</p> <p>授業態度や参加度：授業への取り組み、グループ討議の参加度、発表に対するコメントなどにより総合的に評価する。</p> <p>発表：発表態度、与えられたテーマについての内容、取り組みなどを評価する。</p>						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席するだけでなく、積極的な授業参加望む。</li> <li>・欠席するときは必ず事前に連絡すること。</li> <li>・4/5以上出席がないと、受講資格を失う。</li> </ul> <p>なお、授業の一環として留学生との交流や、学外見学・研修の可能性はある。</p>						
教科書	適宜ハンドアウトを配布						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習A						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ-	J0408A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	身の回りのことばを研究へとつなげる						
授業の概要	第一演習では「身近な日本語」を取り上げ、それが研究対象となることを、講読（理論）と演習（実践）を通して学んできた。第二演習では、実際に自分自身で「身近な日本語」を研究する段階に入る。各自の興味・関心にしたがって、前期は論文を読み、その要約を発表する。後期は実際に調査し、分析した結果を発表する。 この一連の内容は、できるだけ卒論につながるようなものを目指す（前期内容は「先行研究」、後期内容は「結果・考察」）ため、研究テーマの候補は早い段階から探しておくこと。						
到達目標	(1) テキストの的確な要約ができるようになる。（汎用的技能(1)） (2) 先行研究に対して批判的な目を持ち、問題点を見つけることができるようになる。（知識・理解(1)および汎用的技能(1)） (3) 他人の発表に際し、積極的に関心を持って質問や意見を言うことができるようになる。（態度・志向性(1)および(2)）						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 近接領域の論文の検討 第3回 先行研究の読み方・まとめ方 第4回 個人別演習発表① 第5回 個人別演習発表② 第6回 個人別演習発表③ 第7回 個人別演習発表④ 第8回 個人別演習発表⑤ 第9回 個人別演習発表⑥ 第10回 個人別演習発表⑦ 第11回 個人別演習発表⑧ 第12回 個人別演習発表⑨ 第13回 個人別演習発表⑩ 第14回 個人別演習発表⑪ 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	演習形式で行うため、発表の準備が中心となる。念入りに準備すること。（授業前学習時間：2時間） また、演習での討論において問題となった箇所の確認や自分の考えのまとめを、授業後に行っておくこと。（授業後学習時間：2時間）						
授業方法	演習：個別の課題について調査や分析を行い、発表する。 そののち、発表内容について全員でディスカッションする。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価（発表に対する質疑内容を含む）60%（到達目標(1)(2)に関する到達度の確認） 発表40%（到達目標(3)に関する到達度の確認）						
履修上の注意	演習に際して、発表者には入念な準備と、参加者には活発な討論を期待する。						
教科書	なし。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文学第二演習A						
担当教員	田中 まき					科目ナンバ-	J0408A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	『源氏物語』と王朝文化の探究						
授業の概要	『源氏物語』を題材にして、そこに描かれている装束や行事など、平安時代の貴族の生活と文化について探究する。 『源氏物語』は五十四帖に及ぶ大部な物語なので、1年間の演習で、その全体を細かく読解して行くのは難しいので、本演習では、まず、『源氏物語』の絵巻や画帖で絵画化されている場面を入り口にして、『源氏物語』の世界を考察する。 各人が探究する問題は、登場人物や展開などの『源氏物語』そのものについてでもよく、物語に描かれた平安時代の生活や文化について取り上げてよい。 それぞれの興味、関心に従って、『源氏物語』とその周辺の問題について探究する。						
到達目標	(1) 『源氏物語』の概要や特徴について理解し、説明できる。【知識・理解】 (2) 『源氏物語』を通して、古典文学や日本文化について説明できる。【汎用的技能】 (3) 古典文学や日本文化への興味・関心を持ち、その関心を表現できる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 物語文学の展開相と『源氏物語』の概説の講義 第2回 『源氏物語』の成立と構成についての講義 第3回 『源氏物語』の伝本についての講義 第4回 『源氏物語』絵についての講義 第5回 桐壺巻の演習 第6回 帚木巻の演習 第7回 空蝉巻の演習 第8回 夕顔巻の演習 第9回 若紫巻の演習 第10回 葵巻の演習 第11回 賢木巻の演習 第12回 須磨巻の演習 第13回 明石巻の演習 第14回 藤裏葉巻の演習 第15回 『源氏物語』第1部のまとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：演習で取り扱う物語概要を理解し、展開を確認する。(2時間) 授業後学習：演習で取り扱った本文を読解し、物語の展開や享受の様相を確認する。 『源氏物語』を通して、日本文化に興味を持ち、探究する。(2時間)						
授業方法	講義と演習(プレゼンテーションとディスカッション)						
評価基準と評価方法	演習の発表内容 60% 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 小テスト 20% 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 演習に対する取り組み姿勢 20% 到達目標(3)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	遅刻、欠席を厳に慎むこと。 3分の2以上の出席に満たない場合は、単位認定できない。						
教科書	源氏物語ハンドブック 鈴木日出男編(三省堂) 978-4-385-41034-0						
参考書	『源氏物語評釈』(角川書店) 新日本古典文学大系『源氏物語』(岩波書店) 新編日本古典文学全集『源氏物語』(小学館) 『源氏物語図典』(小学館) その他については、授業中に提示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習B						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバ-	J0408B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	食を通して見た日本文化						
授業の概要	日本とは何かを見つめ、様々な視点から検討することで、今、我々が生きている時代と文化のあり方を見極め、継承していく。						
到達目標	様々なジャンルの作品を豊かな感受性をもって読むことを通じて、生涯にわたって学び続ける姿勢を保持することができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 文豪と食文化 第3回 俳優と食文化 第4回 歌手と食文化 第5回 俳人と食文化 第6回 歌人と食文化 第7回 詩人と食文化 第8回 旅人と食文化 第9回 脚本家と食文化 第10回 学者と食文化 第11回 随筆家と食文化 第12回 歌舞伎役者と食文化 第13回 演劇作者と食文化 第14回 映画監督と食文化 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業中に提示した関連文献を、あらかじめ精読しておくこと。自宅、図書館等での勉学に80時間程度は必要であろう。						
授業方法	あらかじめ用意してきたものを各自が授業時間中に適宜、提示し、それらの差異を確認した上で、より良き結論に向けて討論する作業を継続していく演習形式。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価80%、レポート20%						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	『そばと私』文春文庫 ISBN：978-4-16-790706-8						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習B						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ-	J0408B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語として出会う「日本語」						
授業の概要	<p>母語である日本語を「外国語として見る」ことは、それほど簡単なことではありません。なぜなら、私たちは無意識のうちに母語としての日本語を自由使いこなしているからです。</p> <p>そこで、日本語の話し言葉を分析したり、日本語学習者の間違いや、日本語に対する疑問について考えることを通じて、私たちが無意識に使っている日本語について客観的に考えていきます。</p> <p>第2演習は卒業研究のための演習です。授業中にふと疑問に思ったことはできるだけノートにとっておくことをおすすめします。「きれい」と「美しい」は何が違うんだろうというような、小さな疑問でも後からじっくり考えるためのヒントとなります。留学生との合同授業を行う場合もあります。</p>						
到達目標	<p>① 母語である「日本語」を客観的に分析することができる。【汎用的技能】</p> <p>② 卒論につながるテーマを見つけることができる。【汎用的技能】</p> <p>③ 参考文献や資料をさがすことができる。【汎用的技能】</p>						
授業計画	<p>第1回 研究テーマの選び方</p> <p>第2回 テーマの絞り方</p> <p>第3回 先行研究の探し方</p> <p>第4回 先行研究の纏め方</p> <p>第5回 資料のまとめかた</p> <p>第6回 参考文献の書き方・探し方</p> <p>第7回 データの取り方</p> <p>第8回 データの整理</p> <p>第9回 データの解析</p> <p>第10回 予測の立て方</p> <p>第11回 Excelによる表やグラフの作り方</p> <p>第12回 わかりやすいデータ提示</p> <p>第13回 結果のまとめ方</p> <p>第14回 予測と結果が異なる場合の考え方</p> <p>第15回 総まとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>事前学習：予習として該当する部分を読んで分からない言葉を調べる（授業外学習：2時間）</p> <p>事後学習：各課の終わりにあるまとめの問題をやること、発表担当者は図書館などを利用して、積極的に調べハンドアウトを作成すること。（授業外学習：2時間）</p> <p>それ以外にも、自分の選んだ卒業論文のテーマについては、図書館などを利用して積極的に調べ、卒論作成につなげていくこと。</p>						
授業方法	講義と各自の発表（プレゼンテーション）の後、それ続いてディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	<p>授業態度や参加度（30%）</p> <p>発表（50%）とレポート（20%）【到達目標①②③に関する到達度の確認】</p> <p>授業態度や参加度：授業への取り組み、グループ討議の参加度、発表に対するコメントなどにより総合的に評価する。</p> <p>発表：発表態度、与えられたテーマについての内容、取り組みなどを評価する。</p>						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席するだけでなく、積極的な授業参加望む。</li> <li>・欠席するときは必ず事前に連絡すること。</li> <li>・4/5以上出席がないと、受講資格を失う。</li> </ul> <p>なお、授業の一環として留学生との交流や、学外見学・研修の可能性がある。</p>						
教科書	適宜ハンドアウトを配布						
参考書	授業の中で紹介する。						



科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文学第二演習B						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ-	J0408B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	身の回りのことばを研究へとつなげる						
授業の概要	第一演習では「身近な日本語」を取り上げ、それが研究対象となることを、講読（理論）と演習（実践）を通して学んできた。第二演習では、実際に自分自身で「身近な日本語」を研究する段階に入る。各自の興味・関心にしたがって、前期は論文を読み、その要約を発表する。後期は実際に調査し、分析した結果を発表する。 この一連の内容は、できるだけ卒論につながるようなものを目指す（前期内容は「先行研究」、後期内容は「結果・考察」）ため、研究テーマの候補は早い段階から探しておくこと。						
到達目標	(1) 目的に応じた的確な分析をすることができるようになる。（知識・理解(1)および汎用的技能(1)） (2) 他人の発表に際し、積極的に関心を持って質問や意見を言うことができるようになる。（態度・志向性(1)および(2)）						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 調査結果のまとめ方 第3回 分析の方法 第4回 個人別演習発表① 第5回 個人別演習発表② 第6回 個人別演習発表③ 第7回 個人別演習発表④ 第8回 個人別演習発表⑤ 第9回 個人別演習発表⑥ 第10回 個人別演習発表⑦ 第11回 個人別演習発表⑧ 第12回 個人別演習発表⑨ 第13回 個人別演習発表⑩ 第14回 個人別演習発表⑪ 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	演習形式で行うため、発表の準備が中心となる。念入りに準備すること。（授業前学習時間：2時間） また、演習での討論において問題となった箇所の確認や自分の考えのまとめを、授業後に行っておくこと。（授業後学習時間：2時間）						
授業方法	演習：個別の課題について調査や分析を行い、発表する。 そののち、発表内容について全員でディスカッションする。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価（発表に対する質疑内容を含む）60%（到達目標(2)に関する到達度の確認） 発表40%（到達目標(1)に関する到達度の確認）						
履修上の注意	演習に際して、発表者には入念な準備と、参加者には活発な討論を期待する。 演習で遅刻・欠席があると、授業自体が成り立たなくなるため、なるべく遅刻・欠席はしないように。やむを得ない場合は、必ず連絡すること。						
教科書	なし。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文学専攻専門教育科目						
科目名	日本語日本文学第二演習B						
担当教員	田中 まき					科目ナンバ-	J0408B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	『源氏物語』と王朝文化の探究						
授業の概要	『源氏物語』を題材にして、そこに描かれている装束や行事など、平安時代の貴族の生活と文化について探究する。 『源氏物語』は五十四帖に及ぶ大部な物語なので、1年間の演習で、その全体を細かく読解して行くのは難しいので、本演習では、まず、『源氏物語』の絵巻や画帖で絵画化されている場面を入り口にして、『源氏物語』の世界を考察する。 各人が探究する問題は、登場人物や展開などの『源氏物語』そのものについてでもよく、物語に描かれた平安時代の生活や文化について取り上げてよい。 それぞれの興味、関心に従って、『源氏物語』とその周辺の問題について探究する。						
到達目標	(1) 『源氏物語』の概要や特徴について理解し、説明できる。【知識・理解】 (2) 『源氏物語』を通して、古典文学や日本文化について説明できる。【汎用的技能】 (3) 古典文学や日本文化への興味・関心を持ち、その関心を表現できる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 『源氏物語』の巻名と梗概についての講義 第2回 若菜上巻の演習 第3回 若菜下巻の演習 第4回 柏木巻の演習 第5回 鈴虫巻の演習 第6回 夕霧巻の演習 第7回 御法巻の演習 第8回 幻巻の演習 第9回 匂宮巻の演習 第10回 橋姫巻の演習 第11回 総角巻の演習 第12回 東屋巻の演習 第13回 浮舟巻の演習 第14回 夢浮橋巻の演習 第15回 『源氏物語』第2部・第3部についてのまとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：演習で取り扱う物語概要を理解し、展開を確認する。(2時間) 授業後学習：演習で取り扱った本文を読解し、物語の展開や享受の様相を確認する。 『源氏物語』を通して、日本文化に興味を持ち、探究する。(2時間)						
授業方法	講義と演習(プレゼンテーションとディスカッション)						
評価基準と評価方法	演習の発表内容 60% 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 小テスト 20% 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 演習に対する取り組み姿勢 20% 到達目標(3)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	遅刻、欠席を厳に慎むこと。 3分の2以上の出席に満たない場合は、単位認定できない。						
教科書	源氏物語ハンドブック 鈴木日出男編(三省堂) 978-4-385-41034-0						
参考書	『源氏物語評釈』(角川書店) 新日本古典文学大系『源氏物語』(岩波書店) 新編日本古典文学全集『源氏物語』(小学館) 『源氏物語図典』(小学館) その他については、授業中に提示する。						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日本語文法史／日本語史B						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ-	J73160
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	古典日本語力の強化						
授業の概要	古典日本語文法の基礎を習得したのち、作歌・作文を通して、古典日本語の素養を身に付ける。						
到達目標	<p>(1) 知識・理解： 古典日本語文法の基礎を習得し、古典に対する苦手意識を解消する。</p> <p>(2) 汎用的技能： a. 構造的単位とその構成要素とに意識的である。 b. 外界を正確に言語化できる。</p> <p>(3) 態度・志向性： 授業を通じて、卒業研究の種を掴む。</p>						
授業計画	01: 授業概要の説明 02: 古典日本語と現代日本語との関係 03: 体言に見る国文法の欠陥 04: 用言に見る国文法の欠陥 05: 付属語に見る国文法の欠陥 06: 受身・自発・可能および使役の表現 07: 受身・自発・可能および使役の表現を使った作歌・作文 08: 否定の表現 09: 否定の表現を使った作歌・作文 10: 時間の表現 11: 時間の表現を使った作歌・作文 12: 妥当性・可能性の表現 13: 妥当性・可能性の表現を使った作歌・作文 14: 意志・勧誘・願望の表現 15: 意志・勧誘・願望の表現を使った作歌・作文						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	(1) 授業前学習（毎週2時間）：教員が指示した重要語句や参考文献の予習。 (2) 授業後学習（毎週2時間）：授業内容の復習と期末課題の準備。						
授業方法	(1) 板書やスクリーンを活用しながら講義を行なったのち、授業内で完結する課題を与える。学生から得た正答や名案は受講者全員で共有する。 (2) 練習問題や課題を複数人で行なう機会がある。						
評価基準と評価方法	(1) 授業内課題：60% 到達目標（1, 3）の確認。 教員が授業内で与えた課題に対して、積極的に、かつ、的確に回答したか。 (2) 期末課題：40% 到達目標（2, 3）の確認。 授業内容に即した芸術的文章の作成。						
履修上の注意	特段の理由無く欠席した者に対する学習補助は一切行なわない。						
教科書	無し。						
参考書	清瀬 義三郎 則府（1971）「連結子音と連結母音と：日本語動詞無活用論」『國語學』86、pp. 42-56、國語學會 小田 勝（2015）『実例詳解 古典文法総覧』和泉書院						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日本書道史						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバ-	J71490
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の書は、中国から漢字を受容することから始まり、日本独自の美意識のもと、展開されてきた。その中で、各時代の社会的背景も大きく関わる。今日に至るまでの日本の書の変遷を理解することで、日本文化について考えていく。						
授業の概要	日本書道史を時代区分し、各時代の社会的、文化的背景をふまえ当時の書の特徴を理解する。文字を受容してから戦後現代に至るまでの日本の書について考察する。その際、具体的な作品を取り上げ、鑑賞しながら進める。						
到達目標	①日本の書の展開、各時代の書の特徴について理解することができる。【知識・理解】 ②日本の書について、各時代の社会的、文化的背景について理解したうえで、自分の言葉で論じることができる。【汎用的技能】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ガイダンス、日本書道史について</li> <li>2) 漢字の伝来以前と漢字の受容</li> <li>3) 奈良時代①（中国の書）</li> <li>4) 奈良時代②（天平文化・万葉仮名）</li> <li>5) 平安時代前期（唐様・三筆とその周辺）</li> <li>6) 平安時代中期～後期①（和様・三蹟とその周辺）</li> <li>7) 平安時代中期～後期②（仮名の誕生から完成）</li> <li>8) 平安時代中期～後期③（仮名と古今和歌集、料紙）</li> <li>9) 平安時代末期～鎌倉時代（俊成・定家、平家納経）</li> <li>10) 室町時代（墨跡）</li> <li>11) 安土桃山～江戸初期（寛永の三筆とその周辺）</li> <li>12) 江戸時代～明治初期（御家流、文人の書）</li> <li>13) 明治・大正時代（楊守敬の来日、古筆復興、毛筆廃止論）</li> <li>14) 昭和初期・戦後現代</li> <li>15) 今日の書の展望（ゲストスピーカーによる講義）</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：次時の内容について教科書を読んで予習すること。（学習時間：2時間） 授業後学習：扱った内容を復習すること。また、授業中に紹介した資料は必ず読み、各自の関心事項に関する資料調査を行うこと。（学習時間：2時間） 紹介した展覧会で鑑賞すること。						
授業方法	講義、グループワーク、ディスカッション						
評価基準と評価方法	平常点20%：授業態度 テスト50%：到達目標①の到達度確認 課題・レポート30%：到達目標②の到達度確認 課題に関するフィードバック：テストは返却し、レポートは授業内で全体に向けてコメント、紹介する。						
履修上の注意	随時小テストを行う。事前予告は授業中に行う。 関連する展覧会があれば美術館で鑑賞会を行うことがある。						
教科書	『決定版 日本書道史』名児耶明監修、芸術新聞社、ISBN978-4-87586-166-9 2800円＋税金 適宜プリントを配布する。						
参考書	『書学挙要－書の歴史と文化－』魚住和晃・萩信雄編、藝文書院、ISBN4-907823-03-7						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本の近現代戯曲						
担当教員	枅井 智英					科目ナンバ-	J71660
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	如月小春の戯曲『DOLL』を読む。						
授業の概要	1980年代を代表する劇作家如月小春の『DOLL』を読む。戯曲を場面ごとに読んで、戯曲の構造を理解していく。そして戯曲と上演との関係も映像記録などを使って説明していく。また、テーマとなっている高校生の自殺という社会問題がどのように描かれているかの考察も行っていく。						
到達目標	①舞台上演を前提とした日本の小劇場戯曲の基本的な特徴について予備知識のない人がわかるように説明できるようになる。(知識・理解) ②現代社会という視点から戯曲を読み、現在の社会が抱える問題を分析して理解を深めて自分の考えを述べ、レポートを作成できる能力をつける。(汎用的技能) ③社会が抱える課題への関心を高め、自分でリサーチできる能力を身につける。(態度・志向性)						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作品の説明：上演記録、そしてテーマとその背景について</li> <li>2. 小説と違った戯曲にある約束事についての解説</li> <li>3. 第1場：場所の描写、登場人物の紹介</li> <li>4. 第2場：みどりの人物描写、夢の世界の表現</li> <li>5. 刑事たちと1980年代という時代の関係</li> <li>6. 第3場：いづみの人物描写 優等生という苦悩、独白の役割について</li> <li>7. 第4場：麻里の人物描写 高校生の受験に対する意識、将来の悩みとは</li> <li>8. 第5場：京子の人物描写 大人への反抗とその理由</li> <li>9. 第6場：恵子の人物描写 他人への気遣い、自己主張の難しさ</li> <li>10. 第7場：海という存在についての考察</li> <li>11. 第8場：刑事たちの劇における役割について</li> <li>12. 第9場：「なぜ、少女たちはみずになったのか」というメッセージについての考察</li> <li>13. まとめ① 象徴としての刑事たち</li> <li>14. まとめ② 劇構造におけるサスペンスについて</li> <li>15. まとめ③ このテーマは現代社会にも当てはまることなのかを考えてみる</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>(授業前準備学習) 各回授業で扱うテキスト(戯曲)を読み、戯曲の特徴や登場人物の心情の理解を深める。また、次回の授業テーマと関連した課題として、提示された社会現象、歴史に関する事柄の詳細を調べる。(学習時間2時間程度)</p> <p>(授業後学習) 授業で取り上げた内容や重要箇所について整理し、授業内で与えられた課題を松蔭Manabaコースコンテンツに提出する。(学習時間2時間程度)</p>						
授業方法	講義：戯曲と映像の分析方法を提示し、ペアまたはグループで行い、その結果についてディスカッションを行う。時代背景や各場面のテーマに関しても、ディスカッションを中心に進め、その結果を受けて解説講義を行う。戯曲や映像の分析を。ペア又はグループで行い、その結果についてディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	<p>授業内での提出物(40%)、期末レポート(60%)</p> <p>授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー(講義内容についてのコメント・質問)の内容・記述の的確さを評価する。到達目標②と③の確認。</p> <p>期末レポート：戯曲の社会的なテーマを議論して明確に述べ、戯曲と上演の特徴をどれだけ理解しているか評価する。到達目標①と②</p> <p>課題に対するフィードバックの方法</p> <p>リアクションペーパーのコメント・質問等に関しては翌週授業で紹介・解説する。レポートの講評は松蔭Manabaで告知する。</p>						
履修上の注意	授業回数2/3に満たないものは、レポート提出の資格を失うものとする。						
教科書	授業時にコピーを配布する。						
参考書	『如月小春のフィールドノート』如月小春(著)、而立書房						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日本美術史						
担当教員	守屋 雅史					科目ナンバ-	J72580
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の建築・絵画・書跡・彫刻・工芸などにおける美術の歴史的な変遷を概観する。						
授業の概要	世界の様々な地域では多彩な「美術」が不断に創造され、変容していきながらも地域文化の特色を形造ってきた。日本では東アジア地域の東端に位置し、美術の分野においても中国大陸や朝鮮半島をはじめとした海外文化の影響を何度も受けてきた。そしてその都度、外来の美術様式を租借しつつ絶えず和様化をはかり、潤潤で静謐な、あるいは躍動的で熱気を帯びた、独自の美的世界を創造してきた。原始から現代に至る日本美術の歴史的変遷を概観し、その中で展開した美意識や思想性にも注視しながら、美術からみた日本文化の特質を考察する。						
到達目標	(1) 原始から現代までの多様な美術に関連する一連の変遷を理解することで、日本の文化の特質についての深い知識を身につけることができる。【知識・理解】 (2) 次世代の人々や諸外国の人々に、日本の美術をベースとしながら、伝統文化の特色を紹介することができるようになる。【汎用的技能】 (3) 一連の美術の変遷を知ること、豊かな感性を持って自身の美術に関する指向性を認識し、深く学び続けようとする姿勢を持つことができる。【態度・指向性】						
授業計画	第1回 インTRODクシヨン 「美術」とは何かー 第2回 縄文・弥生・古墳時代の美術ー原始美術と古代美術のはじまりー 第3回 飛鳥・奈良時代の美術ー古代国家の造形、仏教美術を中心にー 第4回 平安時代前期の美術ー密教美術の展開を中心にー 第5回 平安時代後期の美術ー浄土教美術と院政期の諸相ー 第6回 鎌倉・南北朝時代の美術ー王朝美術の継承と武家の嗜好ー 第7回 室町時代の美術ー北山美術と東山美術の諸相ー 第8回 桃山時代の美術ー織豊政権と初期徳川政権の美術ー 第9回 江戸時代前期の美術ー寛永美術の展開ー 第10回 江戸時代中期の美術ー元禄美術の展開ー 第11回 江戸時代後期の美術ー化政美術の展開ー 第12回 明治期の美術ー文明開化と近代精神の揺らぎー 第13回 大正・昭和前期の美術ーモダニズムと軍国主義ー 第14回 昭和後期・平成期の美術ー戦後から現代へー 第15回 日本美術史のまとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：第1回の授業で指示された、毎授業ごとの教科書の指定ページを読了し、図書館にある下記の参考書などを用いて、各回の授業のテーマに関する下調べをしておく。(学習時間：2時間) 授業後学習：ラインマーカーなどを用いて、配布したレジメのプリントの重点事項を確認し整理しておく。(学習時間：2時間) なお、日常生活の中で、近隣の博物館・美術館で開催される日本美術の展覧会を観覧すること、日本美術に関連する新聞記事やテレビの特別番組などを視聴すること、日本美術に関する疑問点を機会のある時に質問して理解しておくことなども、授業外の学習における大切な取り組みである。						
授業方法	基本的には、各回設定のテーマに基づく講義を行なう。必要に応じて受講生の理解を深めるために、PCのプレゼンテーションソフトやインターネットを利用して、関連する内容の静止画像や動画などを表示・放映する。また、博物館に関連する新聞記事などの輪読、Q&A方式の双方向授業、グループやペアによる討議なども、時間との兼ね合いを見ながら実施してゆく。 なお、毎授業ごとに教科書の指定箇所に関するリアクションペーパーを用いた小テストを行う。						
評価基準と評価方法	期末試験70%：授業で扱った講義内容に関して、主として到達目標(1)の【知識・理解】の観点から評価する。 レポート15%：出題した課題に対する、内容の整理、自身のコメントや疑問点などの記述に関して、主として到達目標(2)の【汎用的技能】と(3)【態度・指向性】の観点から評価する。 平常点15%：授業や質疑応答への意欲、リアクションペーパーのコメントなどに関して、総合的に判断をして評価する。 課題に対するフィードバックの方法 平常時の質問は授業中に解説し、レポートは講評を加えて返却する。						
履修上の注意	(1) 出席が授業回数数の3分の2以上になるように留意すること。 (2) 配布したレジメのプリントはA4版ポケットファイル(20ポケット)に綴じて、毎回の授業に持参すること。 (3) レポートとして、近隣の博物館等の日本美術の展覧会を見学したうえで内容をまとめる課題を出す場合があり、その際は交通費や入館料等は受講生の自己負担である。						
教科書	『増補新装〔カラー版〕日本美術史』辻惟雄監修 美術出版社〔2018〕ISBN:978-4-568-40065-6 (本体価格:1,900円+消費税) なお、各回の授業ごとにレジメのプリントを適宜配布する。						
参考書	『日本美術史 美術出版ライブラリー-歴史編』山下裕二・高岸輝監修 美術出版社(2014) ISBN:978-4-568-38907-4 『日本美術の歴史』辻惟雄著 東京大学出版会(2012) ISBN:978-4-13-082086-8 『教養の日本美術史』古田亮監修 ミネルヴァ書房(2019) ISBN:978-4-623-08515-6 『別冊太陽 日本美術史入門』河野元昭監修 平凡社(2014) ISBN:978-4-582-94566-9 『日本美術全集 1-24巻+別巻1-2』前川誠郎ほか編集 講談社(1990-94) ISBN:4-06-196401-1 ほか 『放送大学教材 日本美術史』佐藤康宏著 放送大学教育振興会(2008) ISBN:978-4-595-30822-2 『日本美術全史 世界が見た名作の系譜』田中英道著 講談社学術文庫 No.2107(2012) ISBN:978-4-06-292107-7 『最高の教養を身につける 世界に誇る日本美術史』上野憲示著 徳間書店(2019) ISBN:978-4-19-864973-9						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日本文化を学ぶ／日本文化を学ぶB						
担当教員	田中 まき					科目ナンバ-	J72180
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	王朝びとの生活と文化						
授業の概要	<p>平安時代の貴族たちがどのような邸に住み、どのような装束を身にまとい、どのような生活を送っていたのかを考察し、さらに、そこに形成されていった華やかで雅(みやび)な平安時代の文化について明らかにしたい。</p> <p>本授業では、『源氏物語』や『枕草子』、また『紫式部日記』などの王朝日記に現れている王朝人の暮らしや文化について講義する。当時の貴族生活や儀礼・行事について理解しやすいよう、パソコンやDVDの画像をスクリーンに提示したりしながら解説する。</p>						
到達目標	<p>(1) 平安貴族の暮らしと文化について理解し、説明できる。【知識・理解】</p> <p>(2) 日本文化における平安時代の文化の特徴を説明することができる。【汎用的技能】</p>						
授業計画	<p>第1回 王朝人の住まい</p> <p>第2回 男性の装束</p> <p>第3回 女性の装束</p> <p>第4回 装い(化粧・整髪など)</p> <p>第5回 貴族の食事</p> <p>第6回 信仰と生活習慣(物忌み、方違え)</p> <p>第7回 貴族の宮仕え(官位官職)</p> <p>第8回 通過儀礼(袴着・元服・裳着など)</p> <p>第9回 恋愛と結婚</p> <p>第10回 算賀・葬送</p> <p>第11回 年中行事と節会(七夕・相撲節会など)</p> <p>第12回 祭礼(賀茂の祭など)</p> <p>第13回 貴族の教養</p> <p>第14回 貴族の遊び(音楽・蹴鞠など)</p> <p>第15回 まとめと試験</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前準備学習：平安時代の文化について興味を持ち、それらが扱われた資料や書籍を読む。(2時間)</p> <p>授業後学習：授業で学んだ平安時代の文化や関連する事項について要点を確認、整理する。(2時間)</p>						
授業方法	講義(平安時代の文化について考察したことについてディスカッションやプレゼンテーションにも取り組む。)						
評価基準と評価方法	<p>期末試験 70% 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。</p> <p>小テスト 20% 到達目標(1)に関する到達度の確認。</p> <p>取り組みに対する意欲・関心などの姿勢 10% 到達目標(2)に関する到達度の確認。</p>						
履修上の注意	<p>毎回、プリントを配布するので、遅刻、欠席をしないこと。</p> <p>期末試験だけでなく、小テストも実施する。</p> <p>3分の2以上の出席に満たない者は試験を受ける資格がないものとする。</p>						
教科書	プリントを使用する。						
参考書	授業中に提示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文学・文化入門／日本文化入門						
担当教員	田中 まき・丸山 果織					科目ナンバ-	J01040
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文学・文化についての基礎						
授業の概要	日本語日本文化学科の学生として理解しておかなければならない日本文学と文化の基礎的な事柄について学ぶ。						
到達目標	(1) 日本の文学と文化について基礎的な事柄について理解し、説明できる。【知識・理解】 (2) 日本の文学と文化の、時代の変化を理解し、その特徴を説明できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 日本の歴史・文学・美術における時代区分など(田中) 第2回 干支について(田中) 第3回 暦について(田中) 第4回 和歌の歌体・修辞技巧について(田中) 第5回 物語・語り物について(田中) 第6回 能・狂言について(田中) 第7回 浄瑠璃・歌舞伎について(田中) 第8回 年中行事について(田中) 第9回 文字の変遷について(丸山) 第10回 日本美術(古代～近世)について(丸山) 第11回 日本美術(近代～現代)について(丸山) 第12回 芸道について(丸山) 第13回 祭祀儀礼について(丸山) 第14回 四季について(丸山) 第15回 手紙の書き方(丸山)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：次回の授業で扱う課題について提示された事柄について調べる。(学習時間：2時間) 授業後学習：授業で学んだ事柄について確認し、整理する。 授業中に提示した課題について調べ、レポートなどにまとめる。(学習時間：2時間)						
授業方法	講義と演習 演習としては、調べて来たことを発表するプレゼンテーションを取り入れる。						
評価基準と評価方法	小テスト40% 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 レポート40% 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 平常点(授業内に書き込んだワークシート、リアクションペーパー、プレゼンテーションを含めた授業に対する取り組み)20% 到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	遅刻・欠席をしないこと。理由のない遅刻、早退、途中退席は出席に数えない。 各回、授業内に書き込んだワークシートの提出や小テストを実施するので、出席することが重要。 3分の2以上の出席に満たない場合は、単位認定できない。						
教科書	教科書は指定しない。適宜、資料を配付する。						
参考書	授業中に提示する。						



科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日本文学・文化入門／日本文化入門						
担当教員	田中 まき・丸山 果織					科目ナンバ-	J01040
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文学・文化についての基礎						
授業の概要	日本語日本文学学科の学生として理解しておかなければならない日本文学と文化の基礎的な事柄について学ぶ。						
到達目標	(1) 日本の文学と文化について基礎的な事柄について理解し、説明できる。【知識・理解】 (2) 日本の文学と文化の、時代の変化を理解し、その特徴を説明できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 日本の歴史・文学・美術における時代区分など (丸山) 第2回 文字の変遷について (丸山) 第3回 日本美術(古代～近世)について (丸山) 第4回 日本美術(近代～現代)について (丸山) 第5回 芸道について (丸山) 第6回 祭祀儀礼について (丸山) 第7回 四季について (丸山) 第8回 手紙の書き方 (丸山) 第9回 干支について (田中) 第10回 暦について (田中) 第11回 和歌の歌体・修辞技巧について (田中) 第12回 物語・語り物について (田中) 第13回 能・狂言について (田中) 第14回 浄瑠璃・歌舞伎について (田中) 第15回 年中行事について (田中)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：次回の授業で扱う課題について提示された事柄について調べる。(学習時間：2時間) 授業後学習：授業で学んだ事柄について確認し、整理する。 授業中に提示した課題について調べ、レポートなどにまとめる。(学習時間：2時間)						
授業方法	講義と演習 演習としては、調べて来たことを発表するプレゼンテーションを取り入れる。						
評価基準と評価方法	小テスト40% 到達目標 (1) (2) に関する到達度の確認。 レポート40% 到達目標 (1) (2) に関する到達度の確認。 平常点(授業内に書き込んだワークシート、リアクションペーパー、プレゼンテーションを含めた授業に対する取り組み)20% 到達目標 (1) (2) に関する到達度の確認。						
履修上の注意	遅刻・欠席をしないこと。理由のない遅刻、早退、途中退席は出席に数えない。 各回、授業内に書き込んだワークシートの提出や小テストを実施するので、出席することが重要。 3分の2以上の出席に満たない場合は、単位認定できない。						
教科書	教科書は指定しない。適宜、資料を配付する。						
参考書	授業中に提示する。						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	ファンタジーの世界						
担当教員	釣 馨					科目ナンバ-	J73750
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ファンタジーの起源と構造、およびファンタジーの現代性について理解する						
授業の概要	ファンタジーは、神話や伝承から得た着想をテーマに掲げ、魔法などの空想的な要素が一貫性のある設定として導入されている。一方でファンタジーは架空の世界にもかかわらず、その世界には作品が書かれた地域やその時代の文化や思想が背景にある。それらを3大ファンタジー（『指輪物語』『ナルニア国物語』『ゲド戦記』）と現代の新しいファンタジーの中に読み取りつつ、比較、整理する。						
到達目標	ファンタジーの起源や構造、またそれらが時代を反映しながらどのように変化してきたのかを理解できる。またファンタジーが映画やアニメのような新しいジャンルにどのように浸透し、活用されているかを理解できる。最終授業の筆記試験でファンタジーに対する自分なりの理解と考えをまとめることができる。最終的には、ファンタジーというジャンルを通して、多様な媒体によるコミュニケーションの諸相に触れることで、深い知識を身につけ、異文化・多文化の存在と価値を十分に理解することができる（【知識・理解】1）。						
授業計画	第1回 ファンタジーとは何か 定義・歴史・構造 第2回 『指輪物語』(1) 映画版の鑑賞 作品の概要 第3回 『指輪物語』(2) 物語の構成と素材について 第4回 『ナルニア国物語』の特徴 第5回 『ゲド戦記』(1) 映画版の鑑賞 作品の概要 第6回 『ゲド戦記』(2) 物語の構成と映画版との違い 第7回 「ハリー・ポッター」シリーズ(1) 「秘密の部屋」の鑑賞と作品全体の概要 第8回 「ハリー・ポッター」シリーズ(2) 作品が反映する現代社会の問題 第9回 「ハリー・ポッター」シリーズ(3) ヴォルデモートに見られる悪と血統の問題 第10回 「ハリー・ポッター」シリーズ(4) 他のファンタジー作品との比較 第11回 『千と千尋の神隠し』(1) 作品の鑑賞 物語の概要 第12回 『千と千尋の神隠し』(2) 善と悪の問題とイニシエーション 第13回 『千と千尋の神隠し』(3) 女性と労働 第14回 『アナと雪の女王』の革新性 第15回 まとめと筆記試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業で映画になったファンタジー作品を部分的に鑑賞するが、全体を通して見る時間がないので、授業の前に各自で作品を見ておくこと（学習時間2時間）。また毎回授業のまとめと意見を書くプリントに、自分で見たり読んだりした作品の小レポートを書く欄を設けるので、自分で興味を持った作品を選び、書き込んでおくこと（学習時間2時間）。						
授業方法	講義と演習。毎回、取り上げる作品のワンシーンを見ながら解説していきます。ひとつの作品につきテーマを決めてグループでディスカッションしてもらい、その内容をまとめ、簡単なプレゼンテーションをしてもらいます。						
評価基準と評価方法	平常点50点(毎回の授業の最後に専用の用紙に簡単なまとめと自分なりの解釈を書いてもらい、評価します)と筆記試験50点。						
履修上の注意	出席を重視します。						
教科書	教科書は使用せず、随時プリントを配布します。						
参考書	小谷真理『ファンタジーの冒険』、脇明子『魔法ファンタジーの世界』、アーシュラ・K・ル＝グウィン『夜の言葉 ファンタジー・SF論』、島田裕己『ハリー・ポッター 現代の聖書』、河野真太郎『戦う姫、働く少女』						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	文芸創作法						
担当教員	打田 素之					科目ナンバ-	J72760
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	物語の文法を学びながら、ヒット作の創作方法を探る。						
授業の概要	ハリウッド映画の法則、ファンタジーの文法について学ぶ。エンタテインメントと「芸術」の境界がどこにあるのかについても考える。						
到達目標	【知識・理解】 虚構作品の法則性を指摘することができる。 【汎用的技能】 物語の法則に従って、フィクションを作成できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. 映画の脚本術 (1) インTRODクシヨN</li> <li>3. 同 (2) フェースト・インシデント</li> <li>4. 同 (3) ターニングポイント</li> <li>5. 同 (4) クライマックスとエンディング</li> <li>6. 物語の文法 (1) 登場人物の機能</li> <li>7. (2) 禁止・留守・禁を破る</li> <li>8. (3) 敵の出現・戦い</li> <li>9. (4) 呪術の贈与</li> <li>10. (5) 援助者の出現・呪具</li> <li>11. (6) 帰還と追跡</li> <li>12. (7) 難題の解決・婚礼</li> <li>13. エンタメと文学 (1) ライトノベルと大衆小説</li> <li>14. 同 (2) 文芸作品</li> <li>15. まとめとテスト</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	事前学習：いろいろな物語を鑑賞する。(2時間) 事後学習：いろいろな映像作品を見る。(2時間)						
授業方法	講義。テーマについて解説した後、常に質問に答える質疑応答形式で行う。						
評価基準と評価方法	平常点(56%)：質疑応答の内容を3段階で評価する。 期末テスト(44%)：講義内容を問う問題 + 自作の物語(シナリオ・粗筋)作成。 講義内容を問う問題では、到達目標に掲げた「虚構作品における法則性」を問い(知識・理解)、自作物語の作成では、簡単な「フィクションの作成」を行ってもら(汎用的機能)。						
履修上の注意	2/3以上の出席に満たない者は受験資格を失う。						
教科書	プリント配布。						
参考書	芦刈いずみ『時計仕掛けのハリウッド映画』(角川SSC新書) W・プロップ『昔話の形態学』(水声社) 大塚英志『ストーリーメーカー』(星海社新書) さやわか『文学の読み方』(星海社新書)						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	文法の基礎知識／文法・敬語の基礎知識						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ-	J72020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語を主対象とする文法論						
授業の概要	音声、音素、文字の関係を理解したのち、言語の構造・単位と曖昧性・多義性とを学ぶ。						
到達目標	<p>(1) 知識・理解:</p> <p>a. 音声、音素、文字の関係を掴む。</p> <p>b. 言語の曖昧性・多義性を掴む。</p> <p>(2) 汎用的技能:</p> <p>a. 学説が必ずしも定まっていないことに意識的である。</p> <p>b. 構造的単位とその構成要素とに意識的である。</p> <p>c. 科学的分析の基礎が実践できる。</p> <p>(3) 態度・志向性:</p> <p>授業を通じて、卒業研究の種を掴む。</p>						
授業計画	<p>01: 授業概要の説明</p> <p>02: 音声、音素、文字の関係</p> <p>03: 第1章の講読</p> <p>04: 第2章の講読</p> <p>05: 語の構造</p> <p>06: 語、句、節の階層構造</p> <p>07: 第3章の講読</p> <p>08: 意味論</p> <p>09: 第4章の講読</p> <p>10: 第5章の講読</p> <p>11: 語用論</p> <p>12: 第6章の講読</p> <p>13: 第7章の講読</p> <p>14: 全体のまとめと期末課題指導</p> <p>15: 期末課題添削</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>(1) 授業前学習（毎週2時間）：教員が指示した重要語句や参考文献の予習。</p> <p>(2) 授業後学習（毎週2時間）：授業内容の復習と期末課題の準備。</p>						
授業方法	<p>(1) 板書やスクリーンを活用しながら講義を行なったのち、授業内で完結する課題を与える。学生から得た正答や名案は受講者全員で共有する。</p> <p>(2) 練習問題や課題を複数人で行なう機会がある。</p>						
評価基準と評価方法	<p>(1) 授業内課題：50%</p> <p>到達目標（1, 3）の確認。</p> <p>教員が授業内で与えた課題に対して、積極的に、かつ、的確に回答したか。</p> <p>(2) 期末課題：50%</p> <p>到達目標（2, 3）の確認。</p> <p>授業内容に即した論理的文章の作成。</p>						
履修上の注意	特段の理由無く欠席した者に対する学習補助は一切行なわない。						
教科書	広瀬 友紀（2017）『ちいさい言語学者の冒険』岩波書店						
参考書	<p>上山 あゆみ（1991）『はじめての人の言語学—ことばの世界へ』くろしお出版</p> <p>小泉 保（1993）『日本語教師のための言語学入門』大修館書店</p> <p>川添 愛（2017）『働きたくないイタチと言葉がわかるロボット』朝日出版社</p>						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	プレゼンテーションの方法						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ-	J02060
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	調査・探究方法および効果的発表技法の学習						
授業の概要	<p>文献資料やデータベースで調査・探究したことを文章にまとめ、それらを人前で効果的に発表する技法を学ぶ。 具体的には、次のような授業を展開する。</p> <p>(1) 文献資料やデータベースを使って、日本語・日本文化の学術的調査を行なう。 (2) 日本語・日本文化を対象とする学術的調査とその結果とを文章化する。 (3) (2) で作成した文章を、短時間で理解できるスライドに組み替え、プレゼンテーションを行なう。 (4) 発表を聞き、内容を批判的に検討する。</p>						
到達目標	<p>特に上記(2)(3)(4)について、以下の到達目標を定める。</p> <p>(2) 調査・探求したことを文章やスライドにまとめることができる。(汎用的技能(2)) (3) 作成した資料を使って、聴衆に分かり易く訴え掛けることができる。(汎用的技能(1)) (4) 発表を聞き、内容を批判的に検討することができる。(汎用的技能(2)(3))</p>						
授業計画	<p>第01回 授業概要と目標の説明 第02回 文献資料の探し方とデータベースの使い方についての説明 第03回 課題の決定と関連事項の調査・探究 第04回 Word資料作成方法の説明 第05回 Word資料作成 第06回 Word資料を使っての発表と質疑応答①: 学術的文章の体裁 第07回 Word資料を使っての発表と質疑応答②: 人の興味を引く「はじめに」の書き方 第08回 Word資料を使っての発表と質疑応答③: 行論および論証の方法 第09回 発表についての討議と自己評価 第10回 Powerpointによるスライド資料作成方法の説明 第11回 スライド資料作成 第12回 スライド資料を使っての発表と質疑応答①: 第13回 スライド資料を使っての発表と質疑応答② 第14回 スライド資料を使っての発表と質疑応答③ 第15回 発表についての討議と自己評価、全体のまとめ</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	論文の読解、Wordによる発表資料作成、PowerPointによる発表資料作成ともに、最低でも準備に各4時間は要する。						
授業方法	<p>演習: 基本的にはプレゼンテーションを行う。その準備のため、数回の講義を行う。 また、回によっては、パソコンを操作し、資料作成に当たる時間が授業の大半を占めることもある。</p>						
評価基準と評価方法	<p>発表のために作成した資料とプレゼンテーションの内容: 80% (到達目標(2)(3)に関する到達度の確認) 授業への意欲・取り組み(質問や質疑応答の質): 20% (到達目標(4)に関する到達度の確認)</p>						
履修上の注意	<p>(1) 無断遅刻・欠席は厳禁。 (2) 3分の2以上出席しなければ、単位は認定されない。 (3) 授業は普通教室のほか、パソコン教室や図書館でも行なうので、事前連絡に注意。</p>						
教科書	無し。						
参考書	無し。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	プレゼンテーションの方法						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ-	J02060
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	調査・探究方法および効果的発表技法の学習						
授業の概要	<p>文献資料やデータベースで調査・探究したことを文章にまとめ、それらを人前で効果的に発表する技法を学ぶ。 具体的には、次のような授業を展開する。</p> <p>(1) 文献資料やデータベースを使って、日本語・日本文化の学術的調査を行なう。 (2) 日本語・日本文化を対象とする学術的調査とその結果とを文章化する。 (3) (2) で作成した文章を、短時間で理解できるスライドに組み替え、プレゼンテーションを行なう。 (4) 発表を聞き、内容を批判的に検討する。</p>						
到達目標	<p>特に上記(2)(3)(4)について、以下の到達目標を定める。</p> <p>(2) 調査・探求したことを文章やスライドにまとめることができる。(汎用的技能(2)) (3) 作成した資料を使って、聴衆に分かり易く訴え掛けることができる。(汎用的技能(1)) (4) 発表を聞き、内容を批判的に検討することができる。(汎用的技能(2)(3))</p>						
授業計画	<p>第01回 授業概要と目標の説明 第02回 文献資料の探し方とデータベースの使い方についての説明 第03回 課題の決定と関連事項の調査・探究 第04回 Word資料作成方法の説明 第05回 Word資料作成 第06回 Word資料を使っての発表と質疑応答①: 学術的文章の体裁 第07回 Word資料を使っての発表と質疑応答②: 人の興味を引く「はじめに」の書き方 第08回 Word資料を使っての発表と質疑応答③: 行論および論証の方法 第09回 発表についての討議と自己評価 第10回 Powerpointによるスライド資料作成方法の説明 第11回 スライド資料作成 第12回 スライド資料を使っての発表と質疑応答①: 第13回 スライド資料を使っての発表と質疑応答② 第14回 スライド資料を使っての発表と質疑応答③ 第15回 発表についての討議と自己評価、全体のまとめ</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	論文の読解、Wordによる発表資料作成、PowerPointによる発表資料作成ともに、最低でも準備に各4時間は要する。						
授業方法	<p>演習: 基本的にはプレゼンテーションを行う。その準備のため、数回の講義を行う。 また、回によっては、パソコンを操作し、資料作成に当たる時間が授業の大半を占めることもある。</p>						
評価基準と評価方法	<p>発表のために作成した資料とプレゼンテーションの内容: 80% (到達目標(2)(3)に関する到達度の確認) 授業への意欲・取り組み(質問や質疑応答の質): 20% (到達目標(4)に関する到達度の確認)</p>						
履修上の注意	<p>(1) 無断遅刻・欠席は厳禁。 (2) 3分の2以上出席しなければ、単位は認定されない。 (3) 授業は普通教室のほか、パソコン教室や図書館でも行なうので、事前連絡に注意。</p>						
教科書	無し。						
参考書	無し。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	プレゼンテーションの方法						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ-	J02060
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	調査・探究方法および効果的発表技法の学習						
授業の概要	<p>文献資料やデータベースで調査・探究したことを文章にまとめ、それらを人前で効果的に発表する技法を学ぶ。 具体的には、次のような授業を展開する。</p> <p>(1) 文献資料やデータベースを使って、日本語・日本文化の学術的調査を行なう。 (2) 日本語・日本文化を対象とする学術的調査とその結果とを文章化する。 (3) (2) で作成した文章を、短時間で理解できるスライドに組み替え、プレゼンテーションを行なう。 (4) 発表を聞き、内容を批判的に検討する。</p>						
到達目標	<p>特に上記(2)(3)(4)について、以下の到達目標を定める。</p> <p>(2) 調査・探求したことを文章やスライドにまとめることができる。(汎用的技能(2)) (3) 作成した資料を使って、聴衆に分かり易く訴え掛けることができる。(汎用的技能(1)) (4) 発表を聞き、内容を批判的に検討することができる。(汎用的技能(2)(3))</p>						
授業計画	<p>第01回 授業概要と目標の説明 第02回 文献資料の探し方とデータベースの使い方についての説明 第03回 課題の決定と関連事項の調査・探究 第04回 Word資料作成方法の説明 第05回 Word資料作成 第06回 Word資料を使っての発表と質疑応答①: 学術的文章の体裁 第07回 Word資料を使っての発表と質疑応答②: 人の興味を引く「はじめに」の書き方 第08回 Word資料を使っての発表と質疑応答③: 行論および論証の方法 第09回 発表についての討議と自己評価 第10回 Powerpointによるスライド資料作成方法の説明 第11回 スライド資料作成 第12回 スライド資料を使っての発表と質疑応答①: 第13回 スライド資料を使っての発表と質疑応答② 第14回 スライド資料を使っての発表と質疑応答③ 第15回 発表についての討議と自己評価、全体のまとめ</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	論文の読解、Wordによる発表資料作成、PowerPointによる発表資料作成ともに、最低でも準備に各4時間は要する。						
授業方法	<p>演習: 基本的にはプレゼンテーションを行う。その準備のため、数回の講義を行う。 また、回によっては、パソコンを操作し、資料作成に当たる時間が授業の大半を占めることもある。</p>						
評価基準と評価方法	<p>発表のために作成した資料とプレゼンテーションの内容: 80% (到達目標(2)(3)に関する到達度の確認) 授業への意欲・取り組み(質問や質疑応答の質): 20% (到達目標(4)に関する到達度の確認)</p>						
履修上の注意	<p>(1) 無断遅刻・欠席は厳禁。 (2) 3分の2以上出席しなければ、単位は認定されない。 (3) 授業は普通教室のほか、パソコン教室や図書館でも行なうので、事前連絡に注意。</p>						
教科書	無し。						
参考書	無し。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	プレゼンテーションの方法						
担当教員	西川 純司					科目ナンバ-	J02060
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	調査・探究方法および効果的発表技法の学習						
授業の概要	<p>文献資料やデータベースで調査・探究したことを文章にまとめ、それらを人前で効果的に発表する技法を学ぶ。 具体的には、次のような授業を展開する。</p> <p>(1) 文献資料やデータベースを使って、日本語・日本文化の学術的調査を行なう。 (2) 日本語・日本文化を対象とする学術的調査とその結果とを文章化する。 (3) (2)で作成した文章を、短時間で理解できるスライドに組み替え、プレゼンテーションを行なう。 (4) 発表を聞き、内容を批判的に検討する。</p>						
到達目標	<p>特に上記(2)(3)(4)について、以下の到達目標を定める。</p> <p>(2) 調査・探求したことを文章やスライドにまとめることができる。(汎用的技能(2)) (3) 作成した資料を使って、聴衆に分かり易く訴え掛けることができる。(汎用的技能(1)) (4) 発表を聞き、内容を批判的に検討することができる。(汎用的技能(2)(3))</p>						
授業計画	<p>第01回 授業概要と目標の説明 第02回 文献資料の探し方とデータベースの使い方についての説明 第03回 課題の決定と関連事項の調査・探究 第04回 Word資料作成方法の説明 第05回 Word資料作成 第06回 Word資料を使っての発表と質疑応答①: 学術的文章の体裁 第07回 Word資料を使っての発表と質疑応答②: 人の興味を引く「はじめに」の書き方 第08回 Word資料を使っての発表と質疑応答③: 行論および論証の方法 第09回 発表についての討議と自己評価 第10回 Powerpointによるスライド資料作成方法の説明 第11回 スライド資料作成 第12回 スライド資料を使っての発表と質疑応答①: 第13回 スライド資料を使っての発表と質疑応答② 第14回 スライド資料を使っての発表と質疑応答③ 第15回 発表についての討議と自己評価、全体のまとめ</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	論文の読解、Wordによる発表資料作成、PowerPointによる発表資料作成ともに、最低でも準備に各4時間は要する。						
授業方法	<p>演習: 基本的にはプレゼンテーションを行う。その準備のため、数回の講義を行う。 また、回によっては、パソコンを操作し、資料作成に当たる時間が授業の大半を占めることもある。</p>						
評価基準と評価方法	<p>発表のために作成した資料とプレゼンテーションの内容: 80% (到達目標(2)(3)に関する到達度の確認) 授業への意欲・取り組み(質問や質疑応答の質): 20% (到達目標(4)に関する到達度の確認)</p>						
履修上の注意	<p>(1) 無断遅刻・欠席は厳禁。 (2) 3分の2以上出席しなければ、単位は認定されない。 (3) 授業は普通教室のほか、パソコン教室や図書館でも行なうので、事前連絡に注意。</p>						
教科書	無し。						
参考書	無し。						



科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	メディア・文芸入門						
担当教員	打田 素之・西川 純司					科目ナンバ-	J01100
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本社会におけるメディア現象を分析するための基礎的な知識とその方法を学ぶ。						
授業の概要	この授業は2名の教員によるオムニバスの授業です。 さまざまな文芸作品（マンガ・アニメ・小説・映画、他）を取り上げて、それらがどのような意味を持っているかを、その分析方法と共に考えていきます。また、こうした文芸作品がどのようなメディア環境のもとで作られ、伝えられ、消費されているのかについても合わせてみていくことで、日本社会におけるメディア現象に総合的にアプローチします。 前半は文芸作品が置かれているメディア環境をみていきます。後半はそうした文芸ジャンルの作品分析について学びます。						
到達目標	(1) 現代日本社会におけるメディア現象について説明することができる【知識・理解】 (2) 様々なメディアを分析する能力を身につける【汎用的技能】 (3) 社会現象や文芸作品についてコメントすることができる【態度・志向性】						
授業計画	1. イントロダクション 【メディア入門】（担当者：西川） 2. メディアとは？ 3. メディアの分析 4. メディアと社会（1）：マスメディアの時代 5. メディアと社会（2）：インターネットの時代 6. メディアのネットワーク化 7. メディアのグローバル化 8. まとめ 【文芸入門】（担当者：打田） 9. 文芸作品と社会 10. 小説作品とその時代性 11. 映像作品とその時代性 12. アニメ作品の分析 13. マンガ作品の分析 14. 映画と演劇の関係 15. メディアと精神分析						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【学習の必要性】 現代のメディア現象を理解するためには、メディア内を流通するコンテンツ（作品）の内容と、それが届けられる媒体（メディア）の在り方について知る必要がある。 【学生が取り組むべき課題】 そのため、本講義を受講・理解するためには、授業で言及された作品（小説・演劇・映画・アニメ・漫画・TV番組・ゲーム、他）にできる限り触れる必要がある。 また、それらの作品がどのようなメディアを通して、どのような形で届けられているかを常に意識しながら、体験・鑑賞しなければならない。 【事前学習】 ①内容 現代のメディアを通して流通しているコンテンツ（小説・演劇・映画・アニメ・漫画・TV番組・ゲーム、他）を鑑賞・体験する。 現代社会の出来事を伝達するメディアの在り方と方法を意識的・分析的・反省的に捉える。 ②方法 メディアにアクセスする。具体的にはインターネットに入る、TVを見る、ラジオを聞く、新聞・雑誌・広告など文字媒体を読む。映画館、劇場へ行き作品を鑑賞する。美術館展覧会などに行くなど ③時間 ②で言及された内容を30時間以上行う。 【事後学習】 ①内容 事前学習で触れたコンテンツ、出来事、メディアの存在を、授業で学んだ方法を通して、考察し自らの意見・考えを構築する。 ②方法 事前学習で触れたコンテンツを図書館で借りたり、入手可能なものは手に入れ、インターネットで見ることが出来るものはネットを通して、分析・鑑賞・検討する。 また、メディアに関しては、放送メディアを通しての事件報道、ネットで話題の出来事や商品・広告が、どのように取り扱われ、どのような効果・結果をもたらしたかを、授業において紹介された方法や考え方をういて分析・考察する。 ③時間 ②で言及されている作業を30時間以上行う。						
授業方法	講義：毎回、テーマに沿った概説を行った後、理解度と知識を問う質問を行う、あるいは、概説と並行しながら質問する。理論や説を提示する場合は、それが具体的にどのような意味を持つのか、質疑応答形式で授業を進める。						

評価基準と 評価方法	メディア、文芸、両ジャンルの成績を合算して成績を出す。内訳は以下の通り。 【文芸】 平常点 (30%) + 筆記試験 (20%) = 50点 【メディア】 平常点 (20%) + 小テスト (30%) = 50点 平常点は、毎回の授業への参加度、発言の独自性を基準に評価する。 文芸ジャンルは15回目の授業時に筆記試験を行う。授業内容の理解を問う問題を中心に出题する。 質問、テスト結果については、授業の前後、オフィス・アワーを通してフィードバックする。
履修上の注意	1/3以上欠席した者は、原則として失格とする。
教科書	プリントを配布する。
参考書	

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	メディア・文芸入門						
担当教員	打田 素之・西川 純司					科目ナンバ-	J01100
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本社会におけるメディア現象を分析するための基礎的な知識とその方法を学ぶ。						
授業の概要	この授業は2名の教員によるオムニバスの授業です。 さまざまな文芸作品（マンガ・アニメ・小説・映画、他）を取り上げて、それらがどのような意味を持っているかを、その分析方法と共に考えていきます。また、こうした文芸作品がどのようなメディア環境のもとで作られ、伝えられ、消費されているのかについても合わせてみていくことで、日本社会におけるメディア現象に総合的にアプローチします。 前半はいろいろな文芸ジャンルの作品分析について学び、後半はそうした文芸作品が置かれているメディア環境をみていきます。						
到達目標	(1) 現代日本社会におけるメディア現象について説明することができる【知識・理解】 (2) 様々なメディアを分析する能力を身につける【汎用的技能】 (3) 社会現象や文芸作品についてコメントすることができる【態度・志向性】						
授業計画	1. イントロダクション 【文芸入門】（担当：打田） 2. 文芸作品と社会 3. 小説作品とその時代性 4. 映像作品とその時代性 5. アニメ作品の分析 6. マンガ作品の分析 7. 映画と演劇の関係 8. メディアと精神分析 【メディア入門】（担当：西川） 9. メディアとは？ 10. メディアの分析 11. メディアと社会（1）：マスメディアの時代 12. メディアと社会（2）：インターネットの時代 13. メディアのネットワーク化 14. メディアのグローバル化 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【学習の必要性】 現代のメディア現象を理解するためには、メディア内を流通するコンテンツ（作品）の内容と、それが届けられる媒体（メディア）の在り方について知る必要がある。 【学生が取り組むべき課題】 そのため、本講義を受講・理解するためには、授業で言及された作品（小説・演劇・映画・アニメ・漫画・TV番組・ゲーム、他）にできる限り触れる必要がある。 また、それらの作品がどのようなメディアを通して、どのような形で届けられているかを常に意識しながら、体験・鑑賞しなければならない。 【事前学習】 ①内容 現代のメディアを通して流通しているコンテンツ（小説・演劇・映画・アニメ・漫画・TV番組・ゲーム、他）を鑑賞・体験する。 現代社会の出来事を伝達するメディアの在り方と方法を意識的・分析的・反省的に捉える。 ②方法 メディアにアクセスする。具体的にはインターネットに入る、TVを見る、ラジオを聞く、新聞・雑誌・広告など文字媒体を読む。映画館、劇場へ行き作品を鑑賞する。美術館展覧会などに行くなど ③時間 ②で言及された内容を30時間以上行う。 【事後学習】 ①内容 事前学習で触れたコンテンツ、出来事、メディアの存在を、授業で学んだ方法を通して考察し、自らの意見・考えを構築する。 ②方法 事前学習で触れたコンテンツを図書館で借りたり、入手可能なものは手に入れ、インターネットで見ることができるものはネットを通して、分析・鑑賞・検討する。 また、メディアに関しては、放送メディアを通しての事件報道、ネットで話題の出来事や商品・広告が、どのように取り扱われ、どのような効果・結果をもたらしたかを、授業において紹介された方法や考え方をういて分析・考察する。 ③時間 ②で言及されている作業を30時間以上行う。  る（15時間以上）。						

授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【メディア】小テストで間違えた問題を確認し、復習しておく。
授業方法	講義：毎回、テーマに沿った概説を行った後、理解度と知識を問う質問を行う、あるいは、概説と並行しながら質問する。理論や説を提示する場合は、それが具体的にどのような意味を持つのか、質疑応答形式で授業を進める。
評価基準と評価方法	メディア、文芸、両ジャンルの成績を合算して成績を出す。内訳は以下の通り。 【文芸】 平常点（30%）+筆記試験（20%）=50点 【メディア】 平常点（20%）+小テスト（30%）=50点 平常点は、毎回の授業への参加度、発言の独自性を基準に評価する。 文芸ジャンルは8回目の授業時に筆記試験を行う。授業内容の理解を問う問題を中心に出题する。 質問、テスト結果については、授業の前後、オフィス・アワーを通してフィードバックする。
履修上の注意	1/3以上欠席した者は、原則として失格とする。
教科書	プリントを配布する。
参考書	

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	メディアと現代文化						
担当教員	西川 純司					科目ナンバ-	J72590
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	映像メディアを分析する視座を学ぶ						
授業の概要	本講義では、映画の鑑賞を通して、映像メディアをより豊かに理解し分析するためのいくつかの視座を学びます。授業では、テーマごとに、まず分析手法を解説したうえで、映画を鑑賞します。鑑賞後、小レポートに取り組んでもらい、それにもとづいてディスカッションを行います。これらを通して、映像メディアを分析するためのいくつかの手法を理解し、さまざまな読みの可能性があることを学びます。こうした分析手法は、映画だけでなく、文学やアニメ、マンガなど広く文芸作品全般に応用できることを理解してもらいたいと思います。						
到達目標	(1) 映像メディア(映画)を分析するための視座を習得することができる。【知識・理解】 (2) 映画を批評し、内容について他者と討論する力を身につけることができる。【汎用的技能】						
授業計画	1 イン트로ダクション 2 批評とは：映像メディアに対するアプローチ 3 社会問題(1)：社会学的分析についての解説 4 社会問題(2)：『ズートピア』鑑賞・小レポート 5 社会問題(3)：ディスカッション 6 物語の構造(1)：構造分析についての解説 7 物語の構造(2)：『千と千尋の神隠し』鑑賞・小レポート 8 物語の構造(3)：ディスカッション 9 コミュニケーション(1)：表象分析についての解説 10 コミュニケーション(2)：『聲の形』鑑賞・小レポート 11 コミュニケーション(3)：ディスカッション 12 文化の違い(1)：比較文化論についての解説 13 文化の違い(2)：『クレイジーリッチ!』鑑賞・小レポート 14 文化の違い(3)：ディスカッション 15 まとめ  ※鑑賞する作品は変更する可能性がある。						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：小レポートを作成する。(学習時間：2時間) 授業後学習：ディスカッションで議論された内容の要点を確認・整理する。(学習時間：2時間)						
授業方法	演習。作品鑑賞の後、小レポートの作成およびグループディスカッションを行う。ディスカッションの内容を踏まえて、作品の解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	小レポート 60% (15%×4回) : 作品内容の理解度、および、小レポートの内容・記述の的確さ、を評価する。到達目標(1)の到達度の確認。 授業態度 40% : ディスカッションにおける議論の的確性を評価する。到達目標(2)の到達度の確認。						
履修上の注意	鑑賞後のディスカッションに積極的に参加することが求められる。 2/3以上の出席に満たない者は、原則単位認定を行わない。						
教科書	毎回プリントを配布する。						
参考書							